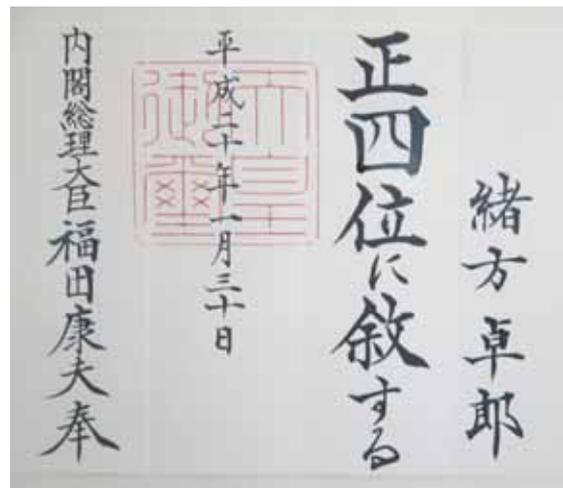


緒方卓郎先生 追悼誌

**高知大学医学部外科学講座外科 1
平成20年 9 月**







記

骨格筋細胞の電子顕微鏡的研究

あなたの右の研究が電子顕微鏡
およびその応用に大きな貢献を
したことを認めその功績をたたえて
瀬藤賞をおくります

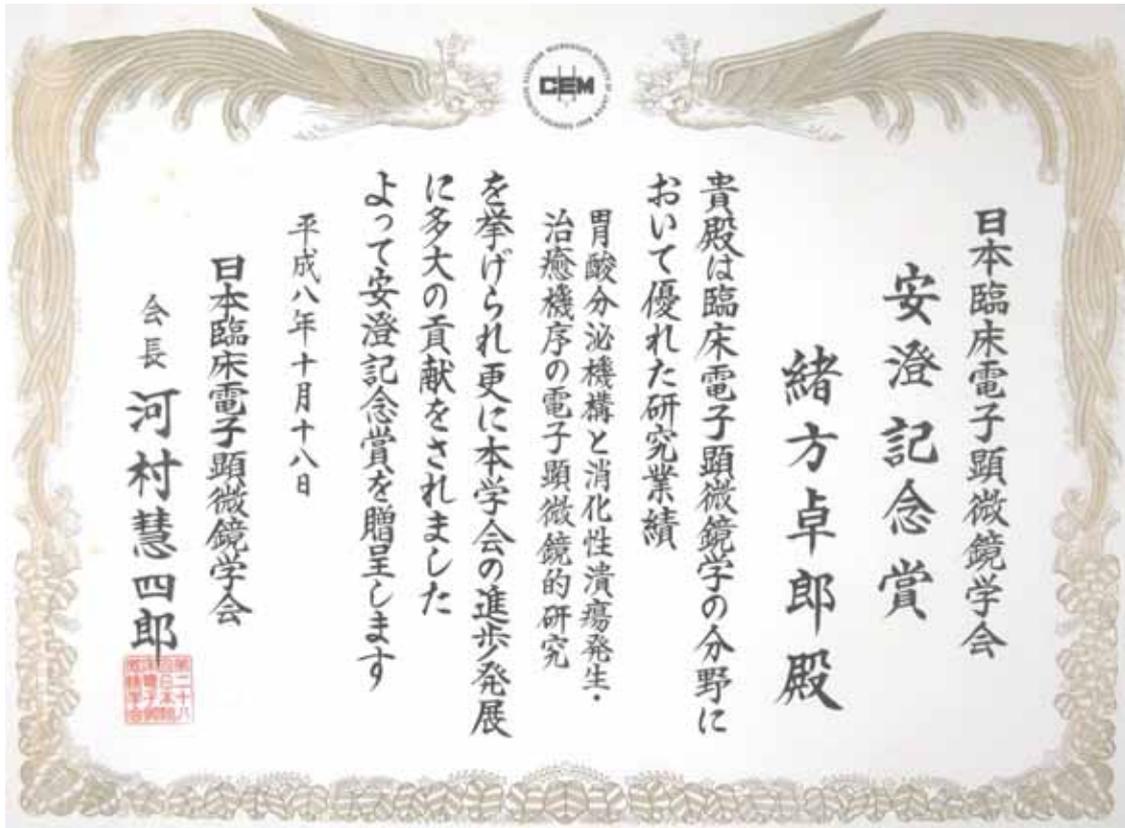
平成四年六月三日

社団法人日本電子顕微鏡学会会長

医学博士 鈴木昭男



緒方卓郎殿



日本臨床電子顕微鏡学会

安澄記念賞

緒方卓郎殿

貴殿は臨床電子顕微鏡学の分野に
おいて優れた研究業績

胃酸分泌機構と消化性潰瘍発生・
治癒機序の電子顕微鏡的研究

を挙げられ更に本学会の進歩発展
に多大の貢献をされました
よって安澄記念賞を贈呈します

平成八年十月十八日

日本臨床電子顕微鏡学会

会長 河村慧四郎



緒方卓郎先生 略 歴

昭和 5 年 5 月 15 日	岡山県岡山市	出生
昭和 25 年 3 月	第六高等学校	卒業
昭和 29 年 3 月	岡山大学医学部	卒業
昭和 29 年 4 月	岡山大学医学部	附属病院 インターン
昭和 30 年 9 月	医師免許取得	医籍登録番号第 157110 号
昭和 34 年 3 月	岡山大学大学院	修了 (医学博士)
昭和 34 年 7 月	岡山大学医学部	助手
昭和 39 年 8 月	アメリカ合衆国	留学
昭和 41 年 11 月		帰国
昭和 41 年 11 月	岡山大学医学部	講師
昭和 53 年 4 月	高知医科大学	第一外科 教授
昭和 61 年 9 月	高知医科大学	附属病院手術部長・材料部長 兼任
平成 6 年 4 月	高知医科大学	附属病院手術部長・材料部長 兼任解除
平成 8 年 3 月	高知医科大学	退官
平成 8 年 4 月	高知医科大学	名誉教授

受 賞 歴

平成 4 年 6 月	日本電子顕微鏡学会 (現日本顕微鏡学会)	瀬藤賞
平成 8 年 10 月	日本臨床電子顕微鏡学会 (現日本臨床分子形態学会)	安澄記念賞
平成 20 年 1 月	正四位 瑞寶中綬章 叙勲	

学会 関係

日本組織細胞化学会	評議員
日本組織細胞化学会	永年会員
日本臨床電子顕微鏡学会 (現日本臨床分子形態学会)	評議員・理事
日本臨床分子形態学会	名誉会員
日本外科学会	評議員
日本外科学会	特別会員
日本消化器外科学会	評議員

平成 20 年 1 月 30 日 逝去 享年 79 歳

目 次

遺影

叙勲・受賞

略歴

1. 巻頭言	1
2. 甲辞	
花崎和弘 高知大学医学部外科学講座外科1 教授	2
杉本健樹 高知大学医学部外科学講座外科1 准教授	3
市川厚 横浜市立大学 名誉教授	4
Susumu Ito ハーバード大学 名誉教授	5
3. 追悼文集	9
4. 思い出のお写真	35
5. ご家族のお言葉	49
6. 業績	
主要論文	53
著書	89
総説	95
原著	99
症例報告	119
学会発表	129
指導学位論文	165
7. 編集後記	167

巻 頭 言

花 崎 和 弘

このたび高知大学医学部外科 1 初代教授の故緒方卓郎高知医科大学名誉教授を偲ぶ追悼誌が完成しました。多数の皆様からご寄稿を頂戴し、誠にありがとうございました。

平成 20 年 1 月 30 日緒方卓郎先生がご逝去されました。77 歳でした。皆様のご協力のもと、高知市の心月記にて 1 月 31 日に御通夜、2 月 1 日にご葬儀が執り行われました。改めて、緒方先生の御冥福を心からお祈り申し上げますと共に、多数の皆様のご参列を頂きましたことに衷心より御礼申し上げます。

私が緒方先生に初めてお会いしたのは、平成 18 年 4 月 1 日に前任地の信州から瀬戸大橋を渡り、長時間のドライブを経て高知に辿りついたばかりの夕刻でした。秘書の池田啓子さんからご紹介を受けた後、「兄の規矩雄が新潟大学で生化学の教授をしておりまして」と緒方先生の方から私に声をかけて下さいました。「格調高い講義で、国際的にも有名な先生でしたので良く憶えています」と申しました。ご兄弟ですので当然かもしれませんが、風貌や醸し出す雰囲気こそっくりで、見知らぬ土地でとても懐かしい方にお会いできたような安堵感だけでなく、何か不思議なご縁も感じました。

緒方先生は名誉教授になられた後も、ご自宅の敷地内に研究室を建造され、ご専門の電子顕微鏡を駆使した形態学研究を継続されていたという“有名な伝説”の持ち主です。私が高知に参ってからもとても 75 歳とは思えないくらいお元気で、平日だけでなく休日でも朝から晩まで大学の基礎教室に出入りされていました。時にはご自分が執筆された最新の英語論文をお持ちになって私の部屋も訪ねて下さり、現在進行中の研究のお話を実に楽しそうに語ってくれました。世の中には名誉教授になられてもこんなに熱心に研究する方がいらっしゃるのだという驚きと共に、教室員の学位指導という形で何とか生かしていただけないだろうかという思いが日ごとに強くなっていきました。ある日思い切って緒方先生に「博士論文の目途がたっていない秋森・岡本両君がいます。申し訳ありませんが、先生が直接指導して学位の面倒をみていただけないでしょうか」と私の方からお願いしました。二つ返事で快諾して下さいました。その時の緒方先生の本当に嬉しそうで、少し照れくさそうな笑顔は一生忘れないでしょう。

日頃から緒方先生は人一倍健康には気を遣っておられました。私にも「健康に良いから」と外国製のヨーグルト製造機をはじめとする様々な健康グッズをプレゼントして下さいました。毎日の食事にも気を配り、テニスで鍛えた体で、大好きな研究に打ち込んでいる先生を拝見していると「100 歳まで生きる」のではないかとさえ思ったこともありました。

入院される直前まで新知見を得るための研究を継続され、最期の病床にあっても秋森・岡本両君の学位研究のご指導もされていたお姿は、まさに鬼気迫るものがございました。緒方先生は最後の最後まで Academic Surgeon そのものであり、私たちのお手本でした。

緒方卓郎先生に万感の思いを込め、教室および同門会を代表して感謝申し上げます。合掌。

弔 辞

高知大学医学部外科学講座外科1 教授

楷風会 会長 花崎 和弘

高知医科大学名誉教授・故緒方卓郎先生の葬儀に当たり、同門会および教室を代表いたしまして、謹んでご仏前に弔辞を捧げます。

緒方卓郎先生は、平成二十年1月三十日午前六時四三分に、七十七年にわたる生涯を閉じられました。私ども一同、ここに深く追悼の意を表すとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。

緒方先生は、今から三十年前に私どもの高知大学外科学講座外科1の初代教授として教室を開講されました。創設者として教室の立ち上げおよび高知県の外科医療発展のために全力を尽くされ、多大なるご貢献を果たされました。特に開講当時の教室の外科医師育成と関連病院確保はさぞかし大変なご苦労があったことでしょう。緒方先生は持ち前の精神力の強さと卓越したリーダーシップによってこうした難事業を見事にやり遂げるとともに、数多くの優れた外科医を育成されました。現在緒方教授時代に開拓された関連病院が隆盛を誇り、心血を注いで育成された愛弟子の皆様が高知県の外科医療の重鎮としてご活躍されていることはすべて緒方先生のご努力の賜物と言っても過言ではないでしょう。このように多数の功績を残された大きな存在を失うこととなり、まさに痛恨の極みでございます。

個人的には緒方先生のお兄様に学生時代生化学を教えていただいたこともあって、先生には初めてお会いした時からとても親しみを覚えました。緒方先生の口癖は「教室員を大事にする指導者になって欲しい」でした。心の底から学問や研究を愛され、数々の有名な学会賞を授与された緒方先生はまさに私どもが目指す「アカデミック サージャン」そのものでした。緒方先生のご好意に甘えて、現在の教室員である秋森・岡本両君の学位研究のご指導を私の方からお願いして面倒をみていただきました。責任感の強い先生はご自分の健康がすぐれない中でも両君の学位論文の指導をしてくださいました。緒方先生は多数のお弟子さんから慕われています。その理由は最後の最後までご自分の病気のことより愛弟子の学位論文の方を心配していたという今回のエピソードが如実に物語っているかと思えます。まさに指導者としての責務を誠心誠意果たしておられました。

このように指導者とは何かをわれわれに身を持って示してくださいました緒方先生を失って、今はただただ呆然としているだけですが、いつまでも悲しみに打ちひしがれていることは緒方先生の望むものではないと思われまます。私たちにできることは緒方先生が開講され、今年三十周年を迎える高知大学外科1教室を更に大きく発展させていくことです。同門会員および教室員が更に一丸となって緒方先生の遺志を継いで、今後とも立派な外科学教室作りに邁進することをお誓い申し上げます。

最後に緒方先生のアメリカ留学以来の研究仲間であり、ご親友でもあります Ito Susumu ハーバード大学教授からお言葉を頂戴していますので日本語に要約してご紹介いたします。

「親愛なる緒方卓郎先生の訃報に接し、わたしたち家族は悲嘆にくれています。緒方先生を失ったことは未だに信じられず、彼の死を受け入れることは当分出来そうにありません。私にとって幸運だったことは緒方卓郎という素晴らしい人間と知り合うことができ、一緒に充実した研究生活を送れたことです。これは紛れもなく私の人生にとってかけがえのない大きな宝物です。

Ito Susumu」

緒方先生、どうかいつまでもわれわれをお守りください。私たちも、先生の教えや大切な思い出を決して忘れません。われわれ一同心から、感謝しております。有り難う御座いました。

弔 辞

高知大学医学部外科学講座外科1 准教授 杉 本 健 樹

高知医科大学名誉教授・故緒方卓郎先生に、ご指導いただいた門下生のひとりとして、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。

本日、こうして緒方先生をしのび、弔辞を捧げることになり、本当に残念で惜別の念にたえません。

緒方先生は、私ども高知大学医学部外科学講座外科1の前進である高知医科大学第1外科の初代教授として、開学直後から十八年間に亘り、外科医の育成・医学教育・研究に全力を尽くされてまいりました。先生は私たちの想像を超える学問への探究心と強い意志を持って、多くの後進の指導に当たられました。先生に指導を受けた二十余名がみな学位を取得できたのは先生の卓越した指導力の証左であります。また、先生の滋味あふれるお人柄と先生からそそがれる暖かいまなざしが私たちの診療・研究生活の支えとなっていました。

先生はご退官後も、専門である電子顕微鏡を駆使して研究を継続されると同時に、まったく年齢を感じさせることのない旺盛な探究心で新しい技術を習得され、興味をもたれた命題を次々と解明されていました。また、先ほど、花崎教授よりもご紹介があったように現役の教室員である秋森・岡本両君の学位論文を指導しながら、学位を取得することなく教室を離れた先生方のことをいつも心配されていました。

先生は、どんなに遠くからでも私の姿を見かけると手を振って笑顔で迎えて下さいました。研究の合間には、ユーモアあふれる楽しいお話を聞かせていただく機会も多く、反対に私のつまらない愚痴にも気長に付き合っていたいただきました。

少年のような好奇心をもって研究に取り組まれた先生、父親のような慈愛を持って私たち教室員を育てられた先生、師として厳しく臨床・研究を指導していただいた先生、そして誰よりもご自身に対して厳しく努力を惜しむことなく研究に邁進された先生を心より尊敬いたしております。

緒方先生はさらに多くの夢を持たれていました。これからも多くの研究を手がけ、学位を取る機会を逸した教室員全員を指導して学位を取らせたいと常々お話されていました。先生の指導者としての強い意志は、ちから不足ではありますが、私たち教室員ひとりひとりが受け継ぎ高知大学医学部外科学講座外科1の伝統としていくことを誓います。

先生とのお別れは本当に深い悲しみではありますが、これからも先生の暖かいまなざしが私たちの上に注がれていることを信じ、送別ではなく感謝の言葉でむすびとさせていただきます。先生、本当にありがとうございました。

弔 辞

横浜市立大学 名誉教授 市 川 厚

緒方卓郎先生の訃報に接し、強い衝撃を受けると共に心からのお悔やみを申し上げます。先生とは電子顕微鏡による細胞生物学の研究を通じて約30年来の交友を深めて参りました。当時の先生は胃の粘膜上皮にある胃酸分泌細胞の胃酸の分泌機序について熱心に研究を続けておられました。臨床の教授として診療と教育に加えて、研究方法としては決して楽ではないアプローチをご自身の手で熱心に続けられておられる真摯なお姿に深い感銘を覚えたのを記憶しています。当時私は電子顕微鏡学会賞の選考委員を務めておりましたので、先生を受賞候補者に推薦し、恐らくは臨床家としてはじめて学会賞である瀬籐賞を受賞されました。その後、私がかつて留学したハーヴァード大学医学部解剖学教室で、旧知のイトウ教授と研究テーマを通じて親交を深められ、約1年間同教授を高知に招聘されて共同研究をされていました。

一昨年6月イトウ教授の子息が末期の肝臓癌を患い、ボストンの附属病院で手術不能、余命一ヶ月と診断された折、先生は外科教授としてのお立場から肝臓移植を専門に行っている神戸大学の具教授を紹介され、来日して術後三ヶ月ですっかり元気になって帰国されました。このことがアメリカ外科学会で高く評価され、具教授はハーヴァード大学の客員教授として招聘されると共に、両大学の間で学術交流計画が立てられ、我が国の肝臓癌についての高い医療水準を示し、大いに面目を施すことになりました。この間緒方先生から度々相談を受けたことがありますが、先生はいつも控えめで陰の力になることに徹しておられる態度に先生の謙虚でしかも真摯なお人柄にあらためて深い尊敬の念を覚えました。一昨日イトウ教授と国際電話で話したときにも、同教授は最近までメールの交換をしていたのだが、先生が膵臓癌という重篤なご病気であるとは全く知らず、本当に残念至極だと話していました。勿論私にも何にもご自身の病気についてのお話はなく、お見舞いする機会を失ってしまったことは慙愧に耐えられません。今はただご生前の御姿を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

IN MEMORY OF PROFESSOR TAKURO OGATA

29 June 2008

It is a distinct privilege for me to write some words of respect, admiration, and the pleasure of having known Dr. Ogata for some 30 years. Our association was close and I was able to visit him in Kochi and he visited us in Boston a number of times to share our interests in science and as good friends.

Over the past two decades, I have had the pleasure of being able to help Dr. Ogata with numerous English revisions of manuscripts and texts of his English presentations at various meetings and conferences. His earlier studies that I was able to help involved the transmission and scanning electron microscopy of heart and skeletal muscle and also the fine structure of the gastric parietal cell. His scanning electron micrographs were of high resolution and he was able to see structures that others had not been able to describe. Dr. Ogata was also skilled in the use of immunocytochemical techniques and effectively combined this with his electron microscopy.

Dr. Ogata's more recent undertakings involved the quantitative counts of tuft cells in the entire digestive tract of the rat in collaboration with his former department members in the Surgery Department of Kochi university Medical School. This study was preceded by the immunocytochemical localization of ions involved in the secretion of sodium bicarbonate as well as the localization of a number of key enzymes in the tuft cells critical for the secretion of sodium bicarbonate. Therefore, Dr. Ogata provided key evidence that tuft cells could well be the source of intestinal bicarbonate secretion.

The last undertaking of Dr. Ogata which is in the final stages of completion makes a strong case for the probability that tuft cells may well be the source of sodium bicarbonate secretion in the digestive tract. Since there is still only some speculation on the various suggested functions of tuft cells, Dr. Ogata's hypothesis may become a monument of his insight and endeavors.

Most of Dr. Ogata's numerous publications were in English and published in well known International Journals. I was asked to revise and edit the manuscripts which I did with pleasure. Our trans Pacific E-mails and Express Mails were numerous and often I was asked to also help him with his letters to the editors as well as revision of some of his presentations at International Meeting and Conferences. Since we both worked in some overlapping areas of research interest, the work of Dr. Ogata was of personal interest to me. There were in several cases, a complete acceptance of the finally submitted manuscript that required no further revision! These were instances of great pleasure for all of us and it made me feel that whatever effort it took me to help him was more than fully rewarded.

Late in 2007 I fell off of a ladder and fracture my clavicle. In the follow up of this injury, a CT Scan showed that I had a small tumor of my parotid gland. As I often asked Dr. Ogata for medical advice, I solicited his opinion on what I should do. I did not know that at this time he was in the late and near his terminal fight with his pancreatic cancer. In spite of this he took the interest and time to advise on this matter. I must confess that I feel a bit ashamed at my asking for advice during the time he was in his advanced stages of his own struggles. In all this period he kept his illness to himself and his close medical colleagues and did not tell others of his condition. His behavior in helping others

while keeping his own plight to himself is typical of Dr. Ogata.

It is a great loss to me to no longer be able to write or see Dr. Ogata and continue our long association. I will continue to miss his exceptional vision, his strong persistence in the high goals that he set for his research. To his beloved family, friends and colleagues I offer my sincere condolences and trust that the future will be as he has always envisioned and hoped.

Most Sincerely,

Susumu Ito
Professor Emeritus, Harvard Medical School

追悼文集

緒方卓郎先生を偲んで

高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 教授 小林 道也

高知医科大学第一外科入局以降、公私共にお世話になりました緒方卓郎先生がお亡くなりになりましたことを心よりお悔やみ申し上げます。

緒方先生との思い出の一部は医局の年報、30周年誌に既に書かせていただいております。本稿では大学の外でのエピソードを2つご紹介させていただきます。

私が緒方先生に初めてお目にかかったのは大学2年の昭和54年のことだったと思います。私は岡山大学教育学部附属中学校の出身ですが、先生のお嬢様も同校のご卒業です。岡大附中は中学1年の夏に高知旅行が恒例でした。中学時代、お世話になった先生方が引率していらっしゃることでしたので、一行が宿泊している旅館を訪ねました。そこに緒方先生が土佐中・高校のお二人のお嬢さんといらっしゃっていました。初めてご挨拶をいたしました。岡山に車で帰っていることなどをお話すると“危ない、危ない”と何度も気にされたことを鮮明に覚えております。また、私がホノルルに留学していた時、私の父が緒方先生と裕美子さんをお連れしたことがあります。先生が当時力を注がれていた骨格筋の myoglobin の免疫染色標本を Kuakini 病院の私の実験室で見せました。先生の目は一際輝き、後に review の中に取り上げていただきました。また、ホノルルのラジオ局の番組と一緒に出演しました。ハワイでは裕美子さんはひとりで活動的に行動されていましたが、夕食時に先生から耳元で、“ハワイはアメリカだから危ない所だと、すこし大げさに言ってくれ”と何度も言われたことでした。

どちらのエピソードも日ごろ大学では見ることのなかった父親としての先生のお姿で、少々“心配すぎ”と思うような面もありました。しかし、私自身も娘がその年齢になると、そのお気持ちが痛いほどわかります。

改めて先生のことを思い出しながらこれまでどなたにもお話していなかったエピソードを紹介させていただき、哀悼の意をささげさせていただきます。

なお、本稿を外科学教室へお届けしようと思った、ちょうどその日に、緒方先生が情熱を注いでこられた日本臨床分子形態学会(旧日本臨床電子顕微鏡学会)から理事就任要請の手紙を受け取りました。何か因縁めいたものを感じております。緒方先生をはじめとする教室の先生方に感謝申し上げます。

緒方先生を偲んで

医局秘書 池田 啓子

「やあ！」と、秘書室のドアが開き緒方卓郎先生が入って来られるような気配を感じる時があります。昨年末まで精力的に大学へ来られていた先生は、よく「ちょっと実験の待ち時間」とおっしゃり、花崎教授、山崎さん、山口さん、三輪さん達とお茶を飲みながら楽しくおしゃべりをされていました。退官後も熱心に研究に打ち込まれ、外国のニュースをいち早く教えてくださったり、子供の教育についても色々とお話をいただきました。

緒方卓郎先生、今どの辺を旅していらっしゃいますか？きっと道雄君と楽しくお話されていることでしょう。

私が緒方先生の下で働くことになったのは昭和58年8月1日、結婚が決まった秘書の阿部京子さんの後任として就職致しました。子育てで12年間のブランクがあり不安でしたが、「これで練習したらいいよ」と、先生が岡山大学時代に愛用されていた(若かりし頃岡山大学で使っていたというアンティークな)英文タイプライターを貸してくださるなど、優しいお心遣いをしていただきました。PCのない時代でしたが、教室にはメモリー機能がついたIBMの最新式の英文タイプ

ライターがあり、先生はいつも途切れることなく英語論文を書いておられました。医学部で一番早く PC を購入されたのも緒方先生でした。

あるとき、研究用に新鮮な蛙とトカゲが欲しいとのことで、小学 2 年の次女に庭先で捕まえてもらいお渡ししたところ、大層喜んでくださり、それから数年間、我が家には緒方先生専用の網と虫かごがありました。

先生は、手術、外来、講義をこなし、合間をぬって実験と論文を書かれ、たまには顧問をしていたテニス部で学生相手に対戦されたりと、とてもエネルギッシュで、70 歳を過ぎてても常に新しいことに挑戦されて、最期まで本当に見事な学者人生であられました。

そしてその先生のご活躍はやはり奥様の献身的な支えがあつての事だったと思います。昼食も毎日奥様の手料理を召し上がられていましたし、毎年のご自宅での新年会は奥様のお手製のご馳走がずらっと並び、医局員は家族を伴って集まり、第一外科の楽しい 1 年の始まりでした。奥様の日向様からは 25 年経った今もやさしくお声をかけて下さいます。平成 5 年 6 月、主人が第一内科に入院した時には緒方先生は毎日のように病室を訪れて下さり、その後も折に触れ私達親子を温かく励まして下さいました。緒方先生ご夫婦には感謝の気持ちでいっぱいです。

先生がご苦勞され築かれた第一外科は、今では西から東まで関連病院ができ OB の先生方が院長としてご活躍されています。緒方外科を守られた二代目の荒木京二郎先生から三代目の花崎和弘先生へと引き継がれ、現在外科医不足が叫ばれている中でも外科学 1 は入局者を増やし、益々発展しております。

緒方先生、どうかご安心なさって私たちを見守っていてください。そして、本当にありがとうございました。合掌

緒方卓郎先生の思い出

高知大学医学部外科学講座外科 1 技術専門職員 山崎 裕 一

緒方先生に初めてお会いしたのは昭和 53 年の春ごろだったと思います。新設された高知医科大学第 1 外科の私の研究室で、電子顕微鏡（以下電顕）を使った研究を手伝ってもらえないか、というものでした。外科の教授なのに威張った感じもなく、気さくな方、というのが第一印象でした。就職を真剣に考え始めていた時期で、分析機器の授業はあったものの、電顕というものを聞いたことがなく、あわてて教科書を見直し、さらに化学ばかりで生物の授業はなく、多少不安はあったものの、一年間、電顕について勉強して働いてもらうからという事があり、私の方はこれで就職試験から逃れられるぞ、と思いお引き受けしました。

一年間の研修を終え、いよいよ研究室での仕事になりました。緒方先生は本当に研究が好き、電顕が好きなお方だと思いましたが、実験に関して、ご自分が不得手なことは出来る人に任せ、どんな些細なことでも分からないことは、その道のプロに納得いくまで尋ねておられました。これと思うような写真が撮れた時は、子供のように喜んでおられたのが印象的です。胃壁細胞の膜系の謎解きにつながる写真をご覧になった時が、その典型だったと思います。

電顕関係の学会に必ずご一緒いたしました。とても驚いたのが、食べる速さの速い事。「外科医はのう、飯を食べるのが速くないと一流にはなれんのんじゃ。山崎君は気にせず、落ち着いて食べなさい」とよく言われました。私の料理が早く来た時は「料理が冷めるから先に食べなさい。終わるのがちょうどになっていい」お言葉に甘えて先に食べ始めても、必ず緒方先生の方が先に食べ終わっておられました。

高知に赴任されて、緒方先生から改めて“高知の良さ”について気付かされたことがあります。まず - 空の青さ - 「山崎君も一年間倉敷に居たから分かると思うが、高知の抜けるような空の色は素晴らしい。岡山も倉敷もなんとなく霞がかかったような空じゃったろう。高知に来て初めて空の色を知った」。次は - 柑橘系 - 「文旦や山北みかんのような温州みかん、それとポンカンがあるじゃろ。アモウてな、わしは大好きじゃ。強い太陽の光と潮風がいいんじゃわ。妻もな、高知のみかんだけは素晴らしいと言ひよる」。それ以来、高知県外のお客様には、鰹も美味しいですが、みかん類もいけますよ、と付け加えるようにしています。また先生は「高知は温暖で住みや

すうていのがのう、下から降る雨はかんべんじゃ」とも言われておりました。気さくでおやさしく、時に厳しく、頑固で、負けず嫌いな先生でした。

緒方先生は1992年に日本電子顕微鏡学会(現日本顕微鏡学会)の“瀬藤賞”を受賞されました。題名は“骨格筋細胞の電子顕微鏡的研究”です。臨床の研究者としては後にも先にもただお一人です。三種類の骨格筋繊維の違いを形態学的な様々なアプローチで分かりやすく提示されました。岡山時代からのアイデアだったのだと思います。ラットで一段落すると、今度は動物種による違い、魚類(金魚、鯉)、鳥類(にわとり)、両生類(蛙)、爬虫類(蛇、トカゲ)そして哺乳類(猫、人)、さすがに捕まえてこいはありませんでしたが、どうやって麻酔をかけようか悩んだものもありました。

骨格筋の研究以外でも1995年、胃の壁細胞の酸分泌機構と消化性潰瘍の発生・治癒機序の電子顕微鏡的研究で日本臨床電子顕微鏡学会(現日本臨床分子形態学会)から安澄賞を受賞されています。これらの研究を手術や診察の臨床、学生の講義、様々な会議をこなしながら手がけられていた先生のタフなお姿は忘れられません。「わしは会議は大嫌いじゃ、つまらんのう」とか「えらくなったら今のようなことはできん。今のままがええ」とよく言われておりました。学長とか病院長のことではないかと思えます。多分、そんな話があっても断っておられたのでしょう。ご病気が分かってからも、それまでと変わらず淡々と研究を続けられ、最後までご自分の姿勢を貫かれた、緒方先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

緒方先生を偲んで

高知大学医学部外科学講座外科1 講師 並川 努

緒方先生に最初にお世話になったのはもう23年前のことになります。私が、大学に入学してテニス部に入部した当時の顧問の先生が緒方先生でした。当時のテニスコートはクレートコートが2面あり、照明設備も整っていない状態でしたが、緒方先生は岡山大学時代西医体で優勝されたこともあるとっており、練習で、試合形式で、熱心に御指導いただき、魂のこもったストロークをつい昨日のように覚えております。大学卒業をひかえた頃には緒方先生の主催される当外科教室の門をたたかさせて頂くこととなりました。テニス部から第一外科に入局するのは私が最初のようなのですが、その後も水嶋先生、谷口先生と引き続いて入局させていただいたのは、緒方先生のお人柄にひかれるところが大きかったものと思います。小豆島に医局旅行に行った際には、一晩飲み明かした後に早朝練習をご一緒させていただいたのもなつかしい思い出です。研究面でも直々の御指導をいただきましたが、電子顕微鏡を用いた研究に対する姿勢はひときわ厳しく、思うように進まない研究成果を真摯に受けとめても頂きました。闘病生活中も度々教室を訪れていただき、教室員の研究を御指導されていたお姿は筆舌におよびません。緒方先生の築いてこられた道筋は確実に私たちのなかに刻み込まれているものと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

～緒方卓郎先生を偲んで～

医療法人川村会くぼかわ病院 院長 川村 明 廣

昭和53年、私は大阪医大を卒業し外科医を志していました。当時母校の消化器外科は、主任教授が癌で死去され、大変混乱しておりました。さらに私は本来高知に帰りたい希望もあり、大阪医大の同級生3名と中四国に多くの関連病院を持つ岡大一外に入局を決めていました。

丁度それに相前後して、高知医大一外の初代教授となられた緒方先生から高知医大一外への入局勧誘のお手紙をいただきました。

その後も何度かお誘いを受け大変悩みましたが、当時、高知県立中央病院外科医長の寺田紘一先生にご相談したり、同時期に岡大北研の旅行に同行させてもらい、田村精平・高田早苗・臼井

隆先生、そして、そのときに立ち寄った県立宿毛病院で働いていた公文先生や岡大からお手伝いに来られていた荒木先生らと出会った事もあり、高知医大一外の第1号の入局者となりました。当時高知医大は附属病院もなく、私は岡大一の関連病院である三重県松坂市の病院で研修する事になりました。着任後半年位して不幸にも院長が急死され、葬儀に参列された緒方先生が、予約してあるホテルをキャンセルし、私の宿舎で泊まってくれました。その時に初めてじっくりと、高知医大一外の今後の方針や抱負などを気さくに話していただき、先生は気取ったところのない率直なご性格で、また希望に満ちた方だと実感したものでした。

その年の秋、私は緒方先生御夫妻のご媒酌により大阪のホテルで結婚式を挙げました。その時大阪迄の飛行機が、ご夫妻別々の便となる様に手配して欲しいとのご依頼がありました。これは、もしもの時夫婦共々事故に遭うとお子様の将来が困るからという大変な気の配りようであり、先生は本当に日常生活面においても慎重な方だとつくづく感じた事でもありました。その後も家族ぐるみのお付き合いで、妻共々奥様の手料理や美味しいワインをいただいた事であります。

昭和55年に私も高知に帰り田村・高田・臼井先生らと高知医大一外の教室造りの一旦を担う事となりました。大学へ行くといつも先生は朝早くから、電顕室や教授室で仕事をされており、その後診療や手術に入るといってお姿が日常でした。先生の電顕への取り組みは本当に大したもので、解剖学や基礎医学の先生でもないのにその電顕に打ち込むお姿を拝見すると、当時の私としては不思議な気もしたものです。私のように学位論文の為のみにイヤイヤながら研究をしていた者にとっては先生の研究に取り組む姿勢は、本来の研究者、学者はこういうものであると思知らされた次第であります。

その後約10年間一外において臨床や学位論文も含む研究面でのご指導を受け、私は昭和63年4月に窪川町(現：四万十町)に救急病院のくぼかわ病院を開設するに至りました。その後も再三お電話をいただき、近況等について話したことでした。

平成8年、先生が退官され当院の名誉院長として就任され、月に2~3回主に乳腺・甲状腺外来を担当していただき、時には若い先生を相手に手術もして頂きました。先生の外来日には患者さんが、高知市内や南国市、幡多方面からも多く集まり、患者さんに丁寧且つ優しく対応して頂きました。私は、先生が来られた時は必ずと喋っていいくらい、昼食時には一緒に談話するように心掛け、お互いの近況を話したりしたものでした。私も中・高・大学と学生時代から硬式テニス部に所属していましたので、仕事が終わった後は、近くの町営テニスコートで汗を流し、その時先生は、いつも全力プレーで、私が強いストロークを投じると必死になってボールを追いかけ、それ以上のレシーブを返すという形で、年齢を感じさせないほどのハードなプレーをされていた姿がこの間のように蘇ってきます。そして、窪川に来られた時には時々当地に泊まっていたいて、食事や近くの松葉川温泉へ行ったりした事でした。又、当院へ来られる時に、JR列車内で米国人で窪川のキリスト教の牧師さんと知り合い、懇意になられ、英会話の勉強と言いながら、私も含めよく食事等をした事や、先生の旧知の間柄である元ハーバード大学教授ご夫妻と共に窪川に来られた折には、四万十川周辺をご案内させて頂いた事等、良き思い出となっております。

その後、私の不摂生で肝臓を病した時には、「家族や病院の従業員の為にも健康には十分に注意するよう」と心配して頂きました。私が高知大一内へ入院した際には、病室に何度かおいでいただき「私(緒方先生)も、くぼかわ病院のために出来るだけの事をするから、心配せずに養生するように！」と言っていたいただき、又、京都大学で手術をした際には、先生のみならず奥様からも励ましのお電話を頂きました。そして免疫低下状態になると歯周病から肺血症を引き起こす可能性があるからと言って先生が愛用しているのと同種の電動歯ブラシをわざわざ届けてくれるといった気配りをもして戴きました。更に、手術日には、花束を届けてくれたことを本当に有難く思い出します。そして、私が無事手術から回復し先生にご挨拶に伺った際には、「本当に良かった良かった」と心から言って頂き涙が滲んできた事でした。その後、私が仕事に復帰した頃、先生から「他の誰にも言っていないが、実は、私は脾臓が侵されているので養生に専念する為に、とりあえずくぼかわ病院を今月いっぱい辞めさせてもらう」という内容の電話が入りました。その時、この間まで当院で普段と変わらず診療していた先生が何故？又、私の体を本当に心配してくれたその先生がどうして!?!、という衝撃を受けました。当院へお見えにならなくなってからも時々、私に電話を頂き、化学療法等でご自分の体調が思わしくない時にも、私の体調や病院の事を気遣って頂き本当に有難く思いました。

その後、先生は化学療法が功を奏し快方に向かっているという事を聞き安堵しておりましたが、

昨年暮頃に奥様より、先生の体調が思わしくないとお手紙を頂き、早速お見舞いにお伺いしたいと思って、何度か先生に連絡を取りましたが、どうしても今は来てほしくないとの事で、お亡くなりになる1週間前にやっとお見舞いできた次第でありました。このように、先生にはご心配ばかりかけた愚弟の私であります。唯一の慰めはお亡くなりになる前に「10年間、くぼかわ病院へ通ったけれど、行く度に本当に楽しかった」と言って頂き少しばかりのご恩返しのできたのかと思うところであります。

先生は、私の医師としての出発と成長、そしてくぼかわ病院の成熟に対して多大なるご指導、ご尽力を賜り、本当に感謝申し上げますと共に、奥様他御家族とは今迄にも増して御親交を頂く事をお願い申し上げ、生まれ育った岡山の地で安らかに眠っておられる先生に哀悼の誠を捧げる次第であります。

緒方先生の思い出

須崎くろしお病院 院長 田村 精平

今年1月30日緒方卓郎先生が亡くなられた。長年御指導を仰いだ先生の死は、大変残念な出来事でした。このたび追悼集を発刊する運びとなり、一筆思い出話を寄稿させていただきます。

緒方先生と私のお付き合いは私が岡山大学第一外科に入局してからです。学生時代講義を受けた記憶はありますが、あくまでも一教官と一学生の関係でしかありませんでした。

第一外科入局後も実質的なお付き合いが始まったのは、昭和52年10月研修先でありました庄原赤十字病院から帰局し、当時講師でありました緒方先生が主宰していました北研究室（北研）に入ってからです。北研は電子顕微鏡を使った超微形態学、免疫組織化学を研究テーマにしていました。

当時の岡山大学第一外科には北研の他に、岡島助教授（後に大阪医大教授）が主宰する胃癌を中心に研究を行っていた一研、折田講師（後の岡山大学教授）の主宰する腫瘍免疫、移植免疫学を研究していた東研、山本講師（おおもと病院院長）が主宰する乳癌を中心に研究していた西研があり、それぞれの研究室がお互いに鎬を削り、それぞれ素晴らしい研究をしていました。

岡山大学第一外科の医局に帰り、何処の研究室に所属しようかと考えていた時、緒方先生が高知医大の教授に決定した事を知り、いずれ高知に帰るつもりでいましたので、北研に御世話になることにしました。それ以来、緒方先生には何かと御指導をいただくようになり、早速「総胆管結紮とその閉塞解除後の肝の微細構造の変化に関する実験的研究」というテーマをいただき、ラットや犬を使って実験をしたものでした。

北研での緒方先生のあだ名は何と「坊や」でした。何で「坊や」なのか先輩に聞かしても「見たらわかるが。」と言うだけで教えてくれません。北研時代は先生も御多忙で、たまにしかお会いすることはありませんでしたが、世俗的なことには無頓着で、小柄な丸みのある体型、あどけない表情が残る先生の外観からそういうあだ名が付いたのかなあと感じていました。

昭和54年春、高知医大に帰ってきて一緒に研究室で過ごすようになって、ああなるほどと思う場面に出くわしました。緒方先生が電子顕微鏡を覗いている時の、うれしそうな、楽しそうな表情、それは子供が欲しい物を手にした時見せる何とも言えない得意げな表情、何の邪心もなく誇らしげに電子顕微鏡を覗いている姿は、育ちのいい「坊や」そのものでした。

緒方先生の研究業績については、多くの方がご存知と思いますが、人を含め全ての脊椎動物の骨格筋に赤筋線維、白筋線維以外の中間型線維があることを発見し、その微細構造の研究が認められ平成4年に臨床医として初めて日本電子顕微鏡学会の瀬藤賞を受賞しました。また胃の壁細胞の酸分泌機構と消化性潰瘍の発生・治癒機序の電子顕微鏡的研究により平成7年には日本臨床電子顕微鏡学会の安澄賞を受賞するなど素晴らしい業績を残しています。

教授を退官された後も、ご自宅に研究室を建てヘリコバクター・ピロリの研究などを続けていました。3年ほど前だったと思いますが、宴席で一緒したとき、少年のような顔をして「田村君、最近、ノーベル賞級の発見をしたぞ。」と言っていたのを思い出します。

病に倒れた後も臨終の前日まで、苦しい呼吸の中で、若い教室員の論文のチェックをされてい

たと奥様からお聞きしたとき、最後まで研究一筋の「坊や」の人生だったのだと思いました。
今も天国でうれしそうな顔をして電子顕微鏡を覗いていることでしょう。
どうか安らかに眠り下さい。 合掌。

緒方先生の思い出

田野病院 院長 臼井 隆

緒方先生の思い出は数えきれないくらいたくさんあります。私が岡山大学の学生の頃の先生の思い出、外科へ入局して研修を受けていた頃の思い出、鳥取へ赴任していた頃の思い出、その後高知へ赴任していた頃、そして先生が高知へ来ることが決まった頃、赴任して来られてから研究のテーマをもらったこと、テーマが変更になり走査電子顕微鏡を使用する内容になったこと、大学病院が始まった頃の会議のこと、臨床のこと、関連病院とのやりとり、手術のこと、病棟運営のことなど、それぞれに忘れられない思い出がたくさん頭に浮かんできます。岡山大学の頃、先生のお兄さんが基礎の教授であり、先では先生も必ず教授になるだろうといわれていました。

今、あれから36年が過ぎ、先生の研究に対する姿勢はずっと変わることなく、いつも静かで真摯であったとつくづく思い出されます。運動はテニスをして、頭の体操に将棋をして、それぞれ研究に役立っていたことと推測されます。緒方先生にとって高知に来られたことは幸せだったのだろうか、どうだったのだろうか、くだらない事を考えてしまいます。というのも多くの教授をされた先生方が、時代背景もあり、地域性もあり、大変苦勞をされていたのを見てきたからです。しかし先生の口からは悔やみ事などその様な言葉は一度も聞いたことはありませんでした。

退官されてからも研究にまた学問に対する先生の考えは、全く30数年前と変わりなかったように思います。そういう意味では先生が迷うことなく高知に全力を注いでこられたと強く思っております。私達も先生の意志を継いで迷うことなく教室を支え、若い人達が活躍できる高知づくりにも精を出したいと考えています。

私と緒方先生

いの町立国民健康保険仁淀病院 院長 松浦 喜美夫

緒方先生と私の最初の出会いは昭和55年の春でした。私が弘前大学を卒業、母校の消化器外科の第2外科に入局して、大学院を卒業後、秋田市立総合病院に出向していた時で、今後について考えていた時期でした。当時医師不足で各県に1校、医学部か単科の医科大学が設立されており、高知にも高知医科大学が設立されたばかりで、家からも高知に帰ってこないかとの話があった頃でした。紹介していただいたのは、当時弘前大学で高知県人会のお世話をしていた公衆衛生学の教授の臼谷三郎先生でした。臼谷先生は徳島大学の出身で、同じ徳島大学出身で高知医科大学第2内科の教授に就任されておられた大野文俊先生より、消化器外科の緒方教授をご紹介いただき、電話でお話しをしたのが最初でした。用件のみの短い電話でしたが、その時の印象は気さくな先生だなとの印象でした。

その時の電話で夏休みに高知に帰省したときに会う約束を致しました。そして8月に夏期休暇を利用し帰省し、高知医科大学の研究棟に緒方先生をお尋ねしました。当時、大学は開校していたものの学生も低学年で、附属病院も開院しておらず、高知医科大学の機能は学生の教育と研究のみで、教室員も秘書の方と技術補佐員の方以外はいなくて、少し寂しく、これからの医局という感じがしました。先生にお会いしての印象は、電話でお話しさせていただいた時と同じく気さくで、自分の研究について情熱的に話され、実験室と電子顕微鏡の部屋を見せていただきましたが、とても研究熱心な先生だなと感心させられました。

高知医科大学外科の当時のスタッフや、教室の今後の方針、大学の現状、附属病院の開院スケ

ジュール等についてお聞きして、私は自分の希望や高知に帰る時期、今後の予定などについて相談させていただきました。そしてその年の秋、昭和 55 年 9 月に高知に帰ってまいりました。小生は腫瘍免疫の研究に興味があり、免疫学教室に籍を置くことを快諾いただき、病院の昭和 56 年 10 月の開院まで免疫学教室（藤本教授のもと）でマウスの腫瘍免疫についてマウスキラー T 細胞の研究に従事しました。一方で医局長の田村精平先生や他の医局員などと共に、大学附属病院の開院に向けて準備に追われました。昭和 56 年 10 月 16 日に附属病院が開院致し、緒方教授と他の医局員とともに少ないスタッフでしたが、忙しい診療の日々が始まりました。その後も少しずつ医局員も増えて高知医科大学の卒業生も入局し、次第に医局の体制が出来てきました。

緒方先生との思い出はたくさんありますが、いくつかを紹介させていただきます。

入局後まもなくの昭和 55 年 12 月に南国市笠の川の国道 32 号線の近くに、緒方邸が落成し、医局員や皆で引っ越しの手伝いを致しまして、庭に面したグランドピアノのある広い居間で引っ越し祝いをしました。南国の鄙びた所ですが、庭には緒方先生ご自慢の芝を植え、その芝生越しに田園風景が広がるすばらしい景色でした。その後も何度かご自宅には足を運ばせていただきましたが、特に毎年恒例の元旦の教授宅での新年会は、医局員と関連病院の先生が大勢招かれ、奥様の手料理で痛飲致しました、先生もお酒が好きでよく飲まれましたが、あまり乱れることはなく、最後の来客までもてなしておられました。

学会のことで一番印象に残っているのは、緒方先生が精力的に取り組んでおられた日本臨床電子顕微鏡学会の総会を高知で開催したことで、平成 6 年 10 月に県民文化ホールをメインに新阪急ホテルなどを会場に学術集会を行いました。前年度の開催地であった信州大学（松本市）に出かけ、種々の委員会や学術集会の様子を見に行き 1 年以上を掛けて準備を行い、高知に沢山の会員に来ていただき、喜んでいただきました。盛況裏に学術集会を終わらせることができほっとしました。

大学での在籍期間が長く緒方先生とは公私ともに大変お世話になり、家庭同士の付き合いをさせていただきました。私の結婚式の仲人もしていただき、お嬢さんの結婚式などにも参列させていただき公私にわたりお世話になりました。またご子息の道雄さんは小さい頃から病弱でしたが、先生はとて息子さん思いでした。発熱などで心配な時に相談を受け、自宅にお伺いして診察させていただきました。奥さんや喜美子さん、裕美子さんが看病をし、その脇で息子を気遣い、おろおろしている父親の姿をかいまみ、おやさしい一面を拝見させていただきました。残念ながら平成 7 年 1 月 30 日若くて亡くなられましたが、奇しくも緒方先生と同じ日に亡くなられておられます。

退官後も先生は研究を続けられ、その学問に対する情熱には感服いたしました。自宅の庭に研究室を建てられ、診療に煩わされることもなくなり、多くの時間を利用して研究に没頭されました。時々パソコンの設定などで相談を受けましたが、以前と変わらず悠々自適の生活をされて、新しい細胞を見つけたとか言って熱心に話されていました。また大学にも来られて実験もされ、たくさんの教室員の研究にも御指導をいただきました。

最後に不肖な弟子でしたがご指導ありがとうございました。また今後ずっと我々と外科の行末を温かく見守ってください。心からご冥福をお祈りいたします。

緒方卓郎先生との思い出

室戸病院 山中康明

初代外科 1 教授緒方先生のご逝去を心よりお悔やみ申し上げます。気さくで明るく誰にでも平等に接する先生のお人柄には入局した時から肌で感じたものです。一方教授の仕事に対する厳格さは社会人となったばかりの私にとってはまさに eye-opening という言葉がぴったりでした。今でこそ大きく発展した押しも押されぬ外科 1 ですが医大の開設当時からの苦勞は大変なものであったであろうと思われまます。

いろんな思い出がありますが 20 年ほど前に私の祖父が手術に備え当時の第 1 外科に入院していたことがありました。ところが手術当日の朝になり病院から脱走するという前代未聞の珍事が起

こりました。当時私は大学に勤務中でしたが呆れるやら恥ずかしいやら面目丸つぶれでした。緒方教授のコメントは忘れてしまいましたがそこはおおらかな性格、苦笑いされておりました。

数年後にこんどは母が手術を受けることになりました。手術後しばらくしてから母に聞かされましたが、お母さんは逃げないで下さいね、と緒方教授に言われたとのことでした。その時は恥ずかしくて赤面ものだったと言っておりました。おかげさまで手術は無事終了し母は今なお健在ですが、祖父のほうは結局手術をしないまま脱走して三年ほど後に他界しました。今頃向こうであの時はすまなかったなあ緒方教授に謝っているのかもしれませんが。

時は流れその頃から室戸への勤務が続いていますが緒方教授に御指導していただいたハード、ソフト両面を大切にしながらこれからもやっいていこうと思っています。合掌。

緒方先生の思い出

野市中央病院 院長 公文正光

緒方先生の訃報を受け取ったときは、ただただ驚きました。大学でたまにお見かけすると、親しくお声をかけてくださった姿が今でも浮かんできます。

小生が医局在籍中に、鋳型標本を用いた肝臓の立体構造に関する研究をある程度なし遂げられたのは、緒方先生の御理解があつてのことと深く感謝しております。

肝臓の鋳型標本を作るのは根気のいる作業で、多量の水酸化カリウムを用いての腐食過程があり、悪臭を放ち、見た目も汚く、皮膚は荒れ、うっかりすると失明の危険性さえあります。前任の病院でもそうでしたが、研究室の片隅でみんなに遠慮しながら細々と作業を進めるのが常でした。

緒方先生は、前任の岡山大学でメルコックスを用いて、肝臓の鋳型標本を作ろうとされたとのことでした。硬化時間が15秒ほどしかなく、4本の脈管に、4人がかりで注入を試みても、すぐに硬化してしまい、うまくいかなかったのに、一人でどうやって注入出来たのか質問されたことがあります。私一人での作業なので氷で冷却した生食の中で全て作業し、硬化時間の延長を図りましたとお話すると、「コロンブスの卵じゃの」とえらく感心してくださったことが印象に残っています。

高価なメルコックスを多量に消費しても、写真撮影装置を勝手に作っても、多数のフィルムを使用しても何も言われませんでした。論文の査読も丁寧にしてくださいました。

緒方先生が誰よりも、よき理解者でいてくださったからこそ、総数70個あまりの標本をこつこつ作ることができました。破損したものも多数ありますが、標本は今でも野市中央病院の院長室で保管させていただいております。緒方先生のおかげで出来た標本です。医局の若い先生方が当直に来られたときなど、少しでもお役に立つようなら、いつでも御自由にご覧ください。

緒方先生の御冥福をお祈りし、初代教授、緒方先生の意志を引き継ぎ医局が益々発展することを祈願いたします。

最後になりましたが、遺稿集の発行に尽力された花崎教授をはじめ、医局員の皆様に深謝いたします。

緒方先生の思い出

高知県立幡多けんみん病院 院長 山下邦康

1984年秋に教室を訪ね緒方教授に初めてお会いしてから1989年春に安芸病院に出るまで、直接教室員としてご指導いただいたのは4年半でしたが、その後も機会ある毎に様々な面でお世話になり、ご指導いただきました。高知に帰ってきてそれなりに仕事が出来たのは緒方先生のおかげだと感謝しています。北大第一外科を離れようとした時、当時の葛西教授が心配して下さって、高知のほうは俺もよく知らんからなあ、北海道に残れないのかと言ってくださったのですが、

その後すぐ病を得て急逝され、不安の中で帰ってきましたので、緒方教授から親切にしてください本当に有難く思いました。

教室での臨床面では食道癌の術中照射など目の付け所や行動力に感心しましたし、私がやることにも心配そうにしながら任せてくれました。研究面では仕事になるかどうかの判断力や目の付け所にやはり感心いたしました。

私は特に医局長としての仕事の中で緒方先生にご相談したり指示をいただいたりする事が多かったのですが、いつも決断や行動の速さに感心させられました。また人事の件などで相談する機会が多く有りましたが、それでうまくいかなあなどと心配されましたが、最後にはほとんど小生の考えを受け入れてくださりまして、医局長の仕事をする上で信頼していただけるのが有難く、またその分責任も感じました（結局、ハラハラしている緒方先生の掌の上で必死で頑張っていたということでしょうか）。

教室は4年半で卒業となり外に出ましたが、その後も緒方先生からは直接お会いしたり、また電話をいただいたりして事ある度にご指導いただきました。橋本知事が当選して、まだ就任していない時期に早速仮住まいのマンションに連れて行かれたり、いつもその行動力に感心するばかりでした。

病気をされてからも大学でたまにお会いすることがありましたが、いつもと変わらずお好きな研究の話をされ、また小生の現状を気にかけてくださる言葉をかけていただきました。緒方先生本当に有難うございました。

緒方先生との思い出

細木病院 外科 遠近直成

今から23年前、臨床講義で初めてお目にかかった緒方先生は非常にソフトな印象で、配布したプリントだけ手に入れて後ろのドアからいなくなる学生を怒る事も無く、わずかに30人ほどの出席者を相手に淡々と講義をされていました。私も1外科の講義には殆ど出席しておらず、試験の成績もおそらく散々なものだったと記憶していますが、なぜか再試にかかりませんでした。ポリクリのときにサボってスキーに行き、呼び出されてお叱りの言葉をいただいたこともありましたが、優しく許して下さいました。入局を決める時には山下邦康先生、松浦喜美夫先生の強引な勧誘もありましたが、決め手になったのは緒方先生の優しさであったように思います。入局してからわずか3ヶ月で、新たに関連病院となった国立福山病院へ行く時「遠近君が第1号だ。これから続く人のためにしっかりやってくれ。君なら大丈夫」と声を掛けて頂きました。不安いっぱい赴任した福山では素晴らしい指導者にめぐまれ、外科の基本を身に付けただけでなく女房も連れて高知に帰ってきました。2年後に帰局してすぐ、麻酔科のお家騒動？で麻酔科医が一度に多数退局したとき、「すまんが3ヶ月だけ行って助けてやってくれんが、福山で覚えた外科麻酔だけでなくきちんとした麻酔知識を身に付けるチャンスにもなるから」と本当に申し訳なさそうに言われたのもよく覚えています。結果的には良い勉強になり麻酔科の先生方とも親しくなれ、緒方先生には大変感謝しています。麻酔科から1外科にもどって約4ヶ月しか緒方先生と共に仕事をする機会がなかったのですが、日曜日にICUや病棟に術後の患者さんを診察に行かれたり、「この前のオペ患の調子はどうかの？そうか、よしよし頼んだぞ」とニコニコ笑いながら電顕室に消えていく姿が印象的でした。退官されてから廊下で挨拶しても無視するようになり過ぎる時は、おそらく研究の事を考えているのだろうと思っていました。1年くらい前、介良のパワーセンターでかなり遠いところから私を見つけて「オーい遠近君、久しぶりだな、元気にやっているか」「君にティートルを取らせてあげられなかったのが心残りじゃ、すまんかったな」と言ってくださり、これが緒方先生との最後の会話になりました。

研究が好きで、手術が好きで本当に教授らしい教授でした。そして何よりも優しい先生でした。緒方先生のご冥福を心よりお祈り致します。

故緒方卓郎先生とピロリ菌の思い出

高知城東病院 外科 尾形 雅彦

追悼原稿を書くに際し、ほとんど使わなくなった自宅の本棚から一冊の本を探し出しました。緒方先生の著書『ヘリコバクター・ピロリ菌（胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎の元凶！）』（講談社、ブルーバックス、1997年8月第1刷発行）です。緒方先生から頂いたもので、裏表紙に先生直筆で私の名前と先生の署名が記されており、思い出深い一冊です。本著は一般読者向けに書かれたものですが、『第2章ピロリ菌の特徴』の部分で私が学位論文作成の際撮影した4枚の電子顕微鏡写真が掲載されています。研究室当時を思い起こしながら筆を進めます。

私と *Helicobacter pylori*（以下、ピロリ菌）との出会いは、1996年2月頃医局長の松浦先生から研究室に入るよう言われたのが始まりでした。その頃の私は幾つかの関連病院のローテート勤務を終えて帰局し、助手として病棟勤務に戻って3年半が過ぎておりました。入局して10年経過しそろそろ学位研究の話でもないかなと、前年10月に論文博士外国語試験を受けていました。一方緒方教授は退官を目前（1996年3月）に控えて、胃壁細胞を中心に4~5名の医局員の研究指導中でした。従って、私も同じ様な研究をするものと思っておりました。が、頂いたテーマはピロリ菌で、緒方教授は当時壁細胞以外にもピロリ菌研究もされて既にいくつか paper にされていたのをその時初めて知りました。その様な中で緒方教授はピロリ菌の菌体表面にみられる glycoalkalyn に興味を持たれ、私にも電顕を使ってそれを観察してみる様にとのご指示でした。具体的な手法として細胞表面に存在する糖鎖に結合するレクチンを用い、組織化学的に可視化してみようにとのアドバイスでした。

ピロリ菌研究は、ノーベル医学生理学賞を受賞した Marshal & Warren が1984年に Lancet 誌に胃内にもピロリ菌と言う細菌が棲息していることを発表したことに始まりました。当時はその発表から既に十数年経過しており、胃や十二指腸の疾患の原因ではと注目され、世界中のいろんな分野の研究者が競って研究している真っ只中でした。分野によっては既に研究し尽くされている可能性が高く、形態学を中心に論文を集め、発表に値するノイエスが残っているかのチェックをしました。そんな中非常に示唆に富む信州大学グループの論文を見つけました。彼らは光学顕微鏡を用いて胃粘液ゲル層中の様子を詳細に観察していました。しかし、胃粘液ゲル層に棲息しているピロリ菌の電顕を使っての観察はまだ発表されていないのが判り、その部分を中心に仕上げました。

余談ですが、私がパソコンを買うきっかけを作って下さったのも緒方先生です。私は学会発表や paper の原稿は、それまでワープロ（シャープの書院）を使用していました。が、緒方先生は Word で作成したものでないと校正ができないと言われ、急遽松岡先生に Mac を見繕ってもらい、エレパで購入しました。そしてフロッピーを介しての緒方先生とのやり取りが始まりました。早く臨床に戻りたかったので、先生の手直し、指導があると出来るだけ早く追加実験や修正をしました。訂正原稿のフロッピーを既に退官された先生にお渡しするのが大変でした。医局にある先生のメールボックスに入れたり、ご自宅にお伺いしたのも一・二回ではなく、まるでストーカーのように緒方先生の立ち寄りそうな時間に教室をうろうろしておりました。しかし先生はその都度丁寧にチェックをして下さいました。

このようなやりとりが十数回続き何とか paper の形となり、投稿直前原稿を英文チェックと査読も兼ねて、緒方先生の旧知の間柄である Harvard Medical School の Dr. Ito にお願ひすることができました。このことは非常にラッキーなことで、適切な訂正・コメントを頂きほとんど手直しすることなく、Histology and Histopathology に投稿し一発 accept されました。そして当時の荒木教授のご指導も頂き、1998年1月学位授与されました。このように約2年間で仕上げることができたのも、緒方先生の指導力の賜物と改めて感謝しております。

緒方先生の気さくな御人柄がうかがえるエピソードがあります。Dr. Ito へのお礼をどうしようか私が迷っていた時、緒方先生から彼は高知の地場産品が好きだからと教えて頂きました。そして先生と一緒にショッピングに付き合っ下さり、高知大丸の地下食料品売り場で鰹節や四万十のりなどを選んで下さいました。

緒方先生が亡くなる1週間程前（2008年1月24日）に、池田さんから緒方先生の病状が思わ

しくないとの連絡を頂き、昼休みに病床の先生を御見舞いしました。酸素吸入をされており、おそらく朦朧とされていたのではないかと思います。一言『大変お世話になりました』と先生に申し上げることができました。

緒方先生、多くのお教えを頂きありがとうございました。外科医療の発展にご尽力された先生の優れたご業績とお人柄に改めて敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。緒方先生は今もきっと電子顕微鏡を覗きながらミクロの世界を堪能しておられることと思います。

緒方教授を偲んで...

愛宕病院 外科 大海 研二郎

開設当初より30年に亘って、第一外科を見守って下さった緒方教授のご冥福を心からお祈り申し上げます。

緒方先生と初めて、お話しさせて頂いたのは、平成2年の医局忘年会でした。当時、私は二度目の5年生(笑)で、松浦講師のお誘いにより参加させて頂きましたが、場違いな雰囲気でのまわておりました。現在の若手の先生には想像もできないくらい、今より遥かに大忘年会でしたから、学生であった私は話相手もなく、ただただ恐縮しておりました。そこへトイレ帰りの緒方先生が、ふと立ち寄られ「学生さん？」と声をかけて下さいました。それから少しのあいだ私の進路の話になり、行きがかり上、入局をお約束しました(爆笑)。非常に怖い印象しかなかった緒方先生の優しさに触れた貴重な時間でした。

入局してからは、10ヶ月しか教室で一緒にすることはありませんでしたが、思い出深い出来事があります。朝のカンファレンスでのこと、私達研修医の拙いプレゼンテーションに業を煮やされ、無言で退出されることがしばしばございました。苦笑する先輩方を見ながら啞然としたことを覚えています。県外からきた私に「いられ」という土佐弁を身を持ってお示し頂きました(笑)。なんとか、先生を途中退席させないように努力した甲斐あって、一年後には学会発表でも、赴任先の師匠からお褒めの言葉を頂戴するまでに成長致しました。あれが本当の「無言の慄」だったのでしょ。ここに深く感謝致します。

亡くなられる最後の最後まで、研究のことをお気にかけていたと伺っております。研究にしても臨床にしても、最後にものをいうのは情熱だと教えて下さったのだと思います。残された医局員たちも、情熱を持って活躍されることを望みます。研究のための臨床ではなく、臨床のための研究だということを決して忘れてはなりません。緒方先生の最後の「無言の慄」をしっかり胸に刻んで、頑張りましょう。

緒方先生、安らかにやすみください.....

緒方先生と臨床分子形態学会

日本臨床分子形態学会 理事長 森 道夫

緒方卓郎先生の突然の訃報に、驚きと深い悲しみに包まれております。謹んで、先生のご冥福をお祈り申し上げ、先生が情熱を注いで育てて下さった日本臨床分子形態学会を代表して、先生に心から感謝を捧げたいと思います。

緒方先生は旧臨床電子顕微鏡学会の理事を長年にわたって勤められ、平成6年には会長として臨床分子形態学会の発展に尽くされただけでなく、文字通り「臨床分子形態学」を实践して、学会をリードして来られました。

先生は高知大学医学部第一外科学教室を主宰し、第一線の外科医として、学生の教育と、患者さんの診断、治療に当たられる傍ら、消化器疾患の電子顕微鏡的研究に情熱を燃やされました。

中でも、胃、十二指腸疾患におけるヘリコバクター・ピロリの研究で、多くの成果を上げられておられます。今でこそ、胃癌を含めた胃疾患におけるピロリ菌の関与は一般的に認められるようになりましたが、その先駆的な研究を推進されたのは緒方先生です。また先生は胃の壁細胞の胃酸分泌機構と胃潰瘍の発生、治癒機構の電子顕微鏡的解析で、学会の安澄記念賞を受けておられます。このように先生のご研究は、実際に患者さんを苦しめている病気と、真正面から向き合い、病気の「場」で何が起きているのかを探り出すという、明確な一本の「筋」に貫かれております。それは、病気の場での形態学的変化を分子レベルで追及し、病気の本態を明らかにして医学の発展に寄与するという、本学会の設立の趣旨を、身を持って実践され、範を示されたものであります。

先生は、ご退官後も生理学教室に所属して研究を継続され、消化管の brush cell の生理機能に関するモノクローナル抗体とレーザー顕微鏡を駆使した研究を、学会の英文誌である Medical Molecular Morphology (MMM) に発表してくださいました。先生は「臨床電子顕微鏡学会」から「臨床分子形態学会」への学会の変革にも、鮮やかに対応し、範を示されたのです。

臨床分子形態学会を愛し、育ててくださった先生がおられなくなった事は、私たち学会員にとって大変大きな悲しみであり、打撃でもあります。しかし、先生の育てられた多くの俊英が、先生のご遺志を継いで日本の病気の分子形態学研究を推し進め、発展させてくださるものと確信しております。私は、先生から頂いた直筆サイン入りのヘリコバクター・ピロリ菌のご本を宝物に、残された任期を、学会の発展のために精一杯努めたいと思っております。それが、先生の情熱にお応えする唯一のご恩返しだと思うからです。

先生、少しでもご安心下さい。先生の最後の論文を掲載した MMM41 巻は広く読まれ、おかげさまで Impact Factor 1.338 (2007) の評価を受ける事が出来ましたよ。

先生は、学会の事、論文の事などで、よく拙宅に電話を下さいました。なぜか私は入浴中の事が多く、テレビ電話なら到底許されないような失礼な格好で対応させて頂いたものです。あの懐かしいお声を、もう聞く事が出来ないのは寂し過ぎます。

先生、どうぞ天国から、これからも臨床分子形態学会を、暖かく見守って下さい。そして時々(テレビ電話でない電話で)、元気を出せよ、とお声を掛けて下さい。

緒方先生、長い間、本当にありがとうございました。

平成 20 年 6 月 24 日

緒方 卓郎 先生を偲んで

新潟大学 名誉教授 武藤 輝 一

緒方卓郎先生が本年 1 月 30 日にご逝去とのこと、心からお悔やみ申し上げます。

緒方先生は旧制岡山医科大学(岡山大学医学部の前身)の最後の卒業生(昭和 29 年 3 月)であり、私は旧制新潟医科大学(新潟大学医学部の前身)の最後の卒業生で、同年の卒業でありました。そして全国の大学医学部や医科大学を昭和 29 年 3 月に卒業して、全国の大学の外科学講座(一般・消化器外科、呼吸・循環器外科、脳神経外科、小児外科)の教授になった人達が多かったものですから、私達は昭和 29 年卒・外科教授の会(通称“29 会”:他の卒業年次の外科の人達からは皮肉を込めて“にくい会”などとも呼ばれましたが)を作り、日本外科学会総会などの際に集まり、天下国家を論ずる機会としました。従ってこの“29 会”や他の学会で緒方先生にお会いし、お話しすることが多くなったように思います。緒方先生は強い信念を持たれ、何事も大変真面目に考え、じっくりと考えた上で確実に実行に移すと言うタイプで、感服致しておりました。

なお、緒方先生のお兄様の緒方規矩雄先生は新潟大学医学部生化学第 1 講座の教授をしておられましたが、直腸がん(局在は下部直腸で一部肛門管に浸潤していた進行がんでありました)に罹患され、私が手術を担当させて頂きました。術前には人工肛門造設に直ぐには同意されず、卓郎先生に病状を申し上げ、卓郎先生のご説明の後、規矩雄先生に手術のご承諾を頂いたことなど思い出しております。

緒方先生は高知医科大学ご退任後も外科学講座第 1 教室のことは気にかけておられたものの、

荒木先生、花崎先生の優れたリーダーシップで教室が益々発展しつつある様子を見られ、教室開講 30 周年の時を迎えることが出来、大変喜んでおられたこととお聞き致しました。

緒方卓郎先生のご冥福をお祈り申し上げると共に、高知大学医学部外科学講座第 1 教室の益々のご発展を祈念申し上げます。

(平成 20 年 5 月 1 日)

緒方先生を想う

はまだ小児科 濱田 義文

昭和 25 年 4 月、同期生として岡山医科大学の門をくぐりました。入学当初、古ぼけた木造の階段教室で、一生懸命ノートをとっていた先生の姿が思い出されます。私共は先生のお父様に衛生学の講義を受けておりましたので、教授の息子は矢張り違うなと思ったのが先生との出会いでした。

当時の教授はとても偉かったのですが、先生は親の威光をかりたおごりは少しもなく、クラスメートの中にとけ込んで仲良くやっていました。

私のクラスには東君という硬式庭球では全国屈指の名プレーヤーがいましたので、2 年生の時、硬式庭球部を作ることになりました。その時先生は、土運び、重いローラーを引いてテニスコート作りに取り組みました。その後練習を重ね、西日本医科大学学生大会で硬式庭球部門での優勝を続ける事になりました。先生のテニスのルーツはここにありました。

昭和 29 年卒業後は夫々に歩む道が異なり、先生の仕事ぶりを直接見ることは出来ませんでした。99 年に出版したクラス会誌によると、先生は外科医として約 10000 人の手術を手掛けると共に、電子顕微鏡を用いた研究を 30 余年にわたり行い、学会から数々の賞を受けておられました。退官後も教室へ出て研究、学会発表も続けておられ、医学部入学当時の姿がそのまま残っている様に思います。

この様にみても来ますと、先生の真骨頂は学問へのひたむきな情熱と実践にあったといえましょう。

最後に、先生がこの様に存分に仕事が出来たのは、奥様の内助の功によるものと想います。奥様はお料理が大変上手で、気配りもよく出来た方です。お通夜の席でも、「病床についてこの 1 年、皆様にとってもよくして戴きました」とお礼の言葉を述べられたあと、私にも「いつまでもお元気でいて下さい」と言われました。悲しみのさ中でのその気配りに頭が下がる思いがしました。

故緒方卓郎先生を偲んで

高知記念病院 脳神経外科 吉村 晴夫

謹んで緒方卓郎先生の御霊前に心からの哀悼の意をささげます。

緒方君と私は同期で、太平洋戦争終戦直後の昭和 25 年に岡山医大に入学しました。その頃は戦後の混乱から立ち直って復興に向かいつつある不安定な時期でもありました。私は旧制高知高校出身でしたが、緒方君は地元旧制第六高等学校出身でした。緒方君を含めて六高在学中硬式庭球をやっていた人たちは岡山医大でも硬式庭球をやりたいと思ったのですが、学内のテニスコートは戦時中の食糧難を乗り切るため芋畑に変身しておりました。彼らはコートを復活したいと大学当局に陳情し、なんとかコートは再生されたのですが、石だらけで凸凹が激しくまともなプレーができません。そこで彼らだけで山からコートに適した土を運び、苦汁をまきローラーで均して、ついに硬式庭球がプレイ出来る素晴らしいコートが完成したのです。彼等の苦労は並たいていではなかったと思います。

そして戦後初めて硬式庭球部が発足して部員を募集し、そのとき素人の小生も入部させてもら

いました。緒方君を含めて、六高出身の三人はすでにかんりの熟練者であり、彼等の指導でそれこそ寸暇を惜しんで練習に励みました。緒方君は、小柄ながらすばらしい俊足で、コート中を駆け回り、その頃では珍しかったドライブをかけた豪球をフォアハンドで返球するのは見事でした。その後3年生の時に正式に学友会のテニス部として認められましたが、それまでも西日本医科学学生大会に出場し、卒業までに準優勝1回、優勝2回の成績をおさめています。小生は残念ながら万年補欠でしたが、緒方君は勿論正選手でした。卒業後は緒方君、小生を含め同期のテニス部員中5人が岡大第一外科に入局しました。

小生が高知県中に在任中に緒方君は高知医科大学創設とともに教授として高知に赴任されましたが、高知医大の第一外科を素晴らしい外科教室に育て上げられ、多くの業績をのこされた原動力は、学生時代からのテニスも一役買っていたと考えています。退官後も研究室に通い素晴らしい研究業績をあげておられると、嬉しそうに語っておられたのが昨日のように思い出されます。

古い写真ですが、昭和27年秋(学3)の西日本医科学学生大会(名古屋大会)で優勝を飾ったときの岡山医大チームの写真のコピーです。若き日の緒方君の勇姿をご覧ください。

ご冥福をお祈りいたします。



Medical Scientist - 故緒方卓郎教授 - を偲んで

高知大学 名誉教授 荒木 京二郎

故緒方卓郎教授は、人生の大部分を高知大学のために力を尽して下さいました。永い間本当に有難う御座いました。先生は昭和29年に岡山大学第一外科で、医師としての活動を始められましたが、昭和51年の高知医科大学設置時に第一陣として赴任されました。昭和53年の一期生入学、昭和56年の大学附属病院開院と“草を刈り、土を耕し、種を蒔く”と言う、現高知大学医学部の開拓の第一歩から携わって来られました。緒方教授と一緒に赴任された初代の助教授清藤敬先生が、緒方教授のほんの3ヶ月後に、後を追われるかの如く、逝かれました。私は断片的とは言え、故緒方教授とは仕事の上で一番長く過ごさせて頂いた者になるだろうと思います。ここで、先生に教えられた事、思い出などを語り、先生を偲びたいと思います。

小生が外科医の修業を岡山大学第一外科にお願いし、新人として指導を受けていた頃、指導の先輩諸先生方の中で、異彩を放っておられた先生が居られました。昼過ぎに当直室に現れ、二段ベッドの上段で20分ほど“グーッ！”...と眠って、“スッキリした~”...と、どこかに消えて行かれるのです。それが緒方卓郎先生でした。ほとんど、電顕研究室と暗室にこもっていらっしやるのだと聞きました。

緒方先生に初めてお目に掛かった時の印象は“あ！、似ていらっしやる”。緒方洪庵です。岡山市足守に緒方洪庵の座像がありますが、骨太、頑強な躯幹、ギョロ目。きっと緒方洪庵の子孫なのだと思います。一度、お訊きしたところ、いやあまり関係は無いのだよと仰られましたが、やはり遺伝子のかかなり近いところまで同じ作りなのだろうと今も思っています。

緒方先生は口数の多い人ではありませんでしたが、電子顕微鏡の技術を修得するためにアメリカに留学したときは奥様とドライブインに泊まりながら何日も車を走らせてやっと辿り着いたお話を、ご家族のご病気で身も心も大変な苦悩を受けられた事などをポツリポツリと語られた事もありました。

当時、日本三大外科医の1人と言われた陣内傳之助教授が大阪大学に転任された直後で、私は直接師事したことはなかったのですが、何故か、学会やエレベーターなどでお会いすると、色々話しかけて下さいました。そのなかで、“君、「術前術後」注は使っているかね”。“ハイ、僕たちのバイブルみたいな本です”。“そうかね、手術も管理もそれぞれの大学が自分の流儀でしているからね、何か標準になるような本を作りたいと思ってね、医局の皆に協力を頼んでも、尻込みするんだよ。困っていたら、緒方君がよくやってくれてね、彼は凄いね”と仰っておられました。緒方先生は食い付いたら離さない一徹な人です。そして鬼神と言われた陣内先生を呻らせる人なのです。

「Medical Scientist」、緒方先生にはこの言葉が最も相応しいと、勝手ながらそう思い込んでいます。伝統的に“大学医学部は三つの柱、教育、研究、診療を使命とする”と云われ、鼎の三本の足に譬えられていますが、近年は社会貢献が四本目に加わっています。教授は三本柱の全ての責任を全うすべき立場にあり、万遍なく力を注ぎますが、だからと言って教授が皆同じ型の人間かと言うとそうではありません。その理由は全てに同じ比重で完璧を期すことは無理...と言うより、人の個性と能力が自ずとその人らしさを醸し出し、教授と言え、その人らしさを創っていくのだと思います。

緒方教授は科学者として研究の使命に最も重点を置いて刻苦勉励された方だと思っています。先生の科学者としての飽くなき探求心と、比類なきご努力と、どこから湧き出るのが、不思議なほどのエネルギーには畏敬の念を刻みつけられました。ご定年後に退職金を全て注ぎ込まれてご自宅の庭に研究棟を造られ、奥様をあきれさせられたとか。そんなエピソードも先生を彷彿とさせます。

先生が電子顕微鏡を始められた当時、40年程前になりますが、電子顕微鏡は科学研究手法では花形の先端技術で、その応用範囲をどんどん広げている時代でした。今日の「日本臨床分子形態学会」の前身である「日本臨床電子顕微鏡学会」の創設も当時、緒方先生などの同志が集って、設立したものです。小生も僅かですが、研究の補助手法として活用させて頂いていたのが高知で緒方教授の下で働くことになったよしみでしょう。

私は時間不規則不健康型ですから、よく深夜の大学をうろついていましたが午前1時、3時、5時頃、警備員以外でよくお会いするのが電顕室の方から暗い廊下を歩いて来られる緒方先生でした。先生のこの様な情熱とご努力が人々に認められ、日本臨床電子顕微鏡学会の安澄賞、日本電子顕微鏡学会の瀬藤賞などの学会の最高の栄誉を相次いで受けられることに繋がったのは当然だと思いますが、受賞された時のお喜びは大変なものでした。俺がやってきたことは間違ってた！と何度も何度も頷いておられたお姿が脳裏に浮かびます。Medical Scientist これが緒方先生の生涯を貫いた柱なのだろうと今も思っています。

しかし、先生、少し早過ぎたのではないのでしょうか。いつも若々しく、黒髪をなびかせてエネルギーギッシュに活動される先生のお姿は寿命の感覚を失わせるものでした。いまま薄暗い研究室の廊下で“おはよう”と声を掛けられる様な気が致します。

注「術前術後の管理と合併症」陣内傳之助著、金原出版、東京、1963

追悼

高知大学 名誉教授 瀬 口 春 道

本年2月上旬、現教授の花崎先生より高知大学医学部外科学講座外科1年報「楷風」開講30周年記念誌をご恵与賜り、外科1教室の初代教授緒方先生の、多分絶筆になるのではないかと存じますが、「緒方教授時代：0から始めた外科1教室18年の歩み」を拝読し、その最後に花崎先生の黒枠の緒方先生の死亡記事を拝見し、緒方先生がお亡くなりになられたことを知り、大変驚き、高知での研究生活で、もっとも親しく、切磋琢磨した先輩を失いましたことを悲しく思いました。緒方卓郎先生のご逝去を心よりお悔やみ申し上げます。

緒方先生と初めて親しくお話をさせていただいたのは、高知医科大学が発足し、初代教授として赴任する予定の教授が、朝倉の高知医科大学開学事務局に集められた、一期生の学生の入学前の昭和53年新春早々の頃でした。以来共同実験センター形態学部門の設計整備や、それぞれの教室研究室の設計を、互いに相談しながら進めたことが思い出されます。先生は臨床系の先生ですが、組織化学的手法を用いて、骨格筋に白筋線維と赤筋線維以外に中間型線維があることを見出されたり、走査型電子顕微鏡を用いて、リンパ節内のリンパの流路を、血管やリンパ管へ樹脂を注入する鑄型標本で、見事な写真に仕上げられたりして、形態学的研究に取り組み、臨床系の教授としては、日本でただ一人、日本電子顕微鏡学会賞（瀬藤賞）を受賞されておられます。また先生は研究熱心で、組織消化法を応用し、前記の3種の筋線維の筋小胞体の相違を詳細に観察されたり、塩酸を分泌する胃底腺の細管小胞系と細胞内分泌細管との移行を捕らえて綺麗な写真に撮られたりされた時は、先ず小生の研究室に来られて、時間も忘れて議論し、世界で最初の創造性に富んだデータを拝見する榮譽に浴しました。これらの多数の成果は、欧米の一流国際学術雑誌に発表されておられることは周知の通りです。

先生は学生時代よりテニスがお上手で、西医体で活躍され、ご停年後も週に1度はテニスをされ、平素より健康には大変気をつけておられました。私が体調を崩して入院した折には、度々お見舞いをいただき、折に触れ健康維持についてご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。私はこの頃体調もよく、あまり高知には行かなくなりましたが、今でも高知大学医学部附属病院でお世話になっておりますので、高知に行った折は、大学院棟の前や研究棟の廊下で、おやさしい先生にお会いできるのを楽しみにしておりました。緒方先生は大変温厚で、常に病人のことを思い、医学の教育、研究、診療に全力で尽くされ、多くの優秀な外科医を育て上げ、今日の外科1教室の基礎を築かれました。どうかこれからはゆっくりとお休み下さい。

合掌

ああ、将星安らかに

高知大学 名誉教授 尾 崎 登喜雄

“もしもし、尾崎先生ですか。緒方です。この度は教授に内定してよかったですね！”“はい、お陰様で、ありがとうございました”“本当によかったです。そこでアドバイスですが。これから高知においでになる間は言動に気をつけて下さい。あくまでも「教授予定者」ですので”“どうも、御丁寧にありがとうございます”。

これが緒方先生との最初の会話で、それは今から27年近くも前の事であった。緒方先生は小生が高知に行くに当たり、サポートして下さった中のお一人であったのだが、その電話を受けた時、配慮の行き届いた先生であるとの印象を受けたのでありました。

高知に赴任した時、それまでのお礼と、これからの御指導をお願いするべく、早速に先生の室に向いて行きました。それは昭和57年4月のことであります。その折りに先生がどのようなお話しをされたかは、詳細は覚えていません。ただ、おめでとうございます。と言うことと、これから頑張って下さい。との二点はお話しされたよう記憶しているのですが、それとは別に猪突に

“先生は将棋がお強いと聞きましたが、これから時間が空いた時には教えて下さい”は今もって記憶に新しいことであります。

それからの人生の大学生活は、緒方先生を抜きにして語ることは出来ません。教授会に於ける事、医局の運営に関わる事、手術のことなど、色々様々にアドバイスを頂いたのであります。

皆様も御存知の通り、緒方先生は必ずしも能弁ではなく、むしろ会議等では口数の少ない方でありました。そんな先生を真似てか、小生は意外にも教授会で10年間というもの一言も発言しなかったのであります。これは、先生を真似たと言うよりも、先生の教訓に従ったと言う方が正しいのかも知れません。

緒方先生に合力頂いた事はたくさんであります。その中でも一度手術で助けて頂いたことが忘れられません。中側頸部の良性腫瘍と思い手術を始めたところ、それは甲状腺と連なり、甲状腺腫瘍であることが分かり、急遽先生に電話して手術をお願いしたのであります。それにも拘わらず先生はいやな顔一つせず、甲状腺の半側切除を行われたのです。その後もその事については、一度たりとも触れられずじまいで、それがため、余計に、あの苦い思い出と共に、先生の胸の温かみが今もって忘れ得ないのであります。

緒方先生はお酒が大変好きでありました。その点は小生も同じで、よく“先生は毎晩飲まれますか？”とお尋ねになり、“毎晩です”とお答えすると、“どのくらい飲まれますか？”と必ず重ねて聞かれ、“一合半と缶ビールを一つです”と答えると、“それは自制心が強いですね”と幾度となくおっしゃられました。小生の飲酒に自制心が働いていると言われたのは緒方先生のみであります。先生は“自分は飲み出したら途中で止めることができない。だからなるべく家では飲まないようにしている”ともよく言われました。そういうと二度ばかりご一緒させて頂いた折り、先生はその体でよくもそんなに入るものかと思われる程にビールを飲まれたことが思い出されず。

先生の最大の趣味は恐らく、将棋ではなかったでしょうか。将棋を口実にご自宅に上がらせて頂き、奥様の手作りのお料理を頂いたこともありました。先生の実力は2級程度で、小生とは角一枚程度の差がありましたが、大駒を落とされるのは先生の自尊心が許しません。それが良く分かっていることより、香落に止めて数え切れない程に対局したのでした。その将棋中、先生には誰も知らないであろう癖がありました。自分が不利となって夢中で考える時、指をじっくり噛んでしまわれるのであります。そして、その指を拭くことなしに駒を夾まれるものですから、駒が唾に濡れてしまうのです。幾度となく、その駒を何事もないように取ったものでした。こんな事を書くと、先生はそんな事をしたかな、と苦笑いをされるに違いありません。

緒方先生からは、よく癌にならない予防法を聞かされたものであります。曰く「直腸の内診は年1回、受けるべし」、「直腸癌で命を落とすのは犬死じゃ」、「赤ブドウ酒を毎日飲んで、前立腺癌を予防すべし」、「肉は1週間に3回まで、1回百グラムまでにするべし」、「ビタミンE/Cをたくさん摂って酸化障害を防ぐべし」等々であります。ご自身がこれらをどこまで実行されたかは分かりません。しかし、先生は熱心に癌予防法を説いて下さいました。その御自身が癌に取り付かれようとは、正に神のいたずらとしか言いようがありません。

思い出を辿っていると、お好きな研究の成果とビールと将棋の駒を手土産に、ふいと戻って来られるような気がしてなりません。今となっては、御生前の御高配に対し感謝すると共に、ひたすら西方浄土の将星に向かって合掌するのみであります。

長らくありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

大土佐や駒は氣々山盛る



緒方卓郎名誉教授を偲んで

高知医科大学 名誉教授 喜多村 勇

緒方卓郎先生は昭和53年、最初の臨床教授として着任されました。内科・外科・小児科の教授・助教授6名は、県立中央病院に居室を与えられ、進行中の建設の図面ひきに追われていました。その頃、先生

は手術技能を保つため、中央病院での手術に加わって居られたと聞いております。

先生は第六高等学校、岡山医科大学ともに私の1年後輩でしたが、高知の生活が始まるまでは余り面識がありませんでした。

しかし御尊父の益雄先生は衛生学の泰斗としての名講義を与えて下さり、第2回日本アレルギー学会を岡山で開催され、岡山でのアレルギー学の基礎を築かれました。兄上の正名教授は、アカタラセミアの研究で、私の直接の指導を頂いた上に、夜の巷を徘徊して酩酊した私に寿司を持たせて家内に届けて頂いたこと再々でありました。

卓郎先生は外科学教授でありながら、日本臨床分子形態学会理事を務められ、日本電子顕微鏡学会から最高の瀬藤賞を受賞されました。学者の家系の血が漲って(?)いたことがわかります。

さらに胃壁細胞超微形態と機能から、ヘリコバクターピロリに着目され、40歳以上の日本人の70~80%が感染しているこの菌について、詳細な一般向け啓蒙書を初めて出版されています。

こんな中、小児科の故倉繁隆信教授とテニスに興じて居られた姿をよく見かけたものです。お互いを鍛えているといった風情でした。

御多忙の毎日を走り抜けるように去られた先生には、荒木京二郎教授、花崎和弘教授たち卓越した教授が後任を務められ、第1期生として入局した小林道也君が母校の教授として活躍されていることなど、道を拓いたあとの教室の発展に嘸安堵なさせて頂けることと思います。



緒方卓郎先生を偲んで

高知医科大学 名誉教授 池田久男

緒方卓郎先生は、岡山大学医学部学生時代、私の二年先輩でした。学生の間では、緒方先生はお父様も二人のお兄様も大学医学部の教授で、学者一家の中で育った秀才との噂が聞こえていました。そんな緒方先生と直接お話しする機会が得られたのは、数名の留学前の若い医師が始めた英会話の勉強会でした。

このあと、不思議と緒方先生に御指導頂く機会が多く、私ばかりではなく、私の家内や子供たちも緒方家のご家族と親しくお付き合いをさせていただくことになりました。

私は精神医学の道に進み、外科専攻の緒方先生に学問的な御指導を受ける機会はありませんでしたが、日頃の個人的な生活では、節目節目で先生ご一家に大変御世話になりました。とくに高知医科大学の創設に当たり、まだ校舎も建たず、長靴を履かないと、ぬかるんで大学のキャンパスを歩くこともできなかった時代に、先発隊の第一陣として高知に赴任され、私たち後続の者を迎えて下さった当時のことを忘れることが出来ません。今更ながら感謝の気持ちでいっぱいです。病院もなく、研究室もなく、臨床医学を学ぶ学生も育っていなかった当時、先生は単身赴任の淋しさを酒でまぎらわして居られたと聞いています。

先生が基礎を築かれた高知大学医学部と共に、いつまでも先生のご功績が歴史に残ることを願って、ご冥福をお祈り申し上げます。



故 緒方卓郎 名誉教授を悼んで

高知大学 学長 相良祐輔

故緒方卓郎名誉教授を偲び、追悼集が、この度編纂されるに当たりにまして、学長としまして追悼させていただきます。

先生のご略歴、お人柄につきましては、他に多くの方々を追慕される中に触れられると存じます。

私が、身近に先生からご厚誼頂くようになりしたのは、1978年高知医科大学に外科学教授として赴任されてからのこととあります。拡大広汎婦人科ガン手術をはじめ、消化器疾患合併の婦人科手術で、ご指導、ご支援を頂きながら、多くのことを学ばせて頂きました。また、共同実験室や、手術部の運営管理についても、共に事に当たらせて頂きました。そうした事柄を通じて、先生は、まことに「学ぶ」ことが、心底お好きなのだと知りました。電子顕微鏡をツールに、ご研究を進められたと拝察しておりますが、この領域では、先生は、日本の草分けであると言われており、日本電子顕微鏡学会瀬藤賞や日本臨床電子顕微鏡学会安澄賞を受賞されております。

ご退官後も、用意しました駐車場に、先生の車がしょっちゅう止められており、ああ先生は今日もまた実験されている、本職も、趣味も学ぶこと一筋の方だな、と眺めたことでした。

夕暮れ時、首にタオルをかけ、テニスコートから帰室されてる、ちょっと小太りな先生の後ろ姿、日曜日や休日の午前に、電顕室に向かわれるのであろう先生の後ろ姿が思い出され、今更ながらに医学部に無くてはならない方だったと、惜しんでおります。

合掌

同袍有友 - 緒方卓郎先生と清藤 敬先生を偲んで -

岡山大学医歯薬学総合研究科 研究科長 田 中 紀 章

ここに3編の記事がある。昭和51年から53年までの岡山大学医学部第一外科開講記念会誌の中の「北研」の活動報告である。「北研」とは当時緒方先生が主催されていた研究室のことである。昭和53年4月1日、緒方卓郎先生は新設の高知医科大学第一外科教授に、また同じ研究室の清藤先生が助教授に発令され、多忙を極める日々が続いた後、5月27日、後楽園の傍らにある「荒手茶寮」で送別の宴が催された。

緒方先生はわが国の医学界、教育界の巨峰である緒方洪庵のお血筋で、小柄ながらもがっしりとした体躯の持ち主、ひと目見て「人生一直線」を感じさせる印象の方であった。アルコールの方は当時の酒豪ぞろいの第一外科にあって、若い研究員誰一人優るものは居なかったとのことで、38名の集まったこの夜の酩酊振りは如何であったろうか。先生のお顔が琉球のシーサーのように皆の目には映っていたのではあるまいか。

この頃、私はそれまで勤めていた倉敷中央病院を辞して教室に帰り、当時の「東研」で癌免疫の研究を行っていたが、なかなか目途が立たず、焦燥の日々を送っていた。同期の星島 昭君は「北研」の清藤先生の下で消化性潰瘍と迷走神経切断術の研究に打ち込んでいた。私も倉敷の病院で選択的迷走神経切断術の臨床研究を行っていたので、時に彼をうらやましく思うこともあった。

それはさておき、当時の緒方先生のご研究の根幹をなすものは電子顕微鏡を駆使することになり、骨格筋の研究では大変有名であった。さらに、この方法論を発展させて消化器の血管構築、リンパ管構築を追及し、消化性潰瘍、肝硬変、肝再生の病態の解明に努められ、その後のヘリコバクター・ピロリ菌の研究にもつながることになる。生理学的研究の多かった当時の消化器学の中にあってユニークな研究であったと思う。電顕を通して微細世界の形態の変化を追及した先生の研究指導は、若い人達の探究心と遊び心をくすぐっていたことであろう。記事から伝わってくるものは先生への敬愛と日々の研究の楽しさである。

この年の6月、高知医科大学はいまだ校舎まばらな中にも、いち早くテニスコートは完成しており、着任間のない先生は「テニス部長としてご活躍」と記録にはある。遠く岡山から転勤して来た数少ない教室員と、さらに遠方より集まってきた医学生を集め、熱気につつまれていたことであろう。その頃の先生の教室の様子をうかがうに、江戸期、九州の日田で私塾「桂林荘」を開いた広瀬淡窓の詩がふさわしいのではあるまいか。

休道他郷多辛苦 同袍有友自相親
柴扉暁出霜如雪 君汲川流我拾薪

詩の中にある友とは、私には清藤先生のように思われる。ともに苦勞して新しい学び舎を造られた。緒方先生の後を追うようにして亡くなられた清藤先生のこと、お二人は彼の地での再会を果たされたことであろう。緒方先生の後継者となられた荒木先生も既にご退職、教室の第三代教授として、遠く信州より花崎先生がご着任となった。教授が代わられても「清貧」の学び舎であることには変わりはない。緒方先生はきっとご満足であろう。

故緒方卓郎教授の岡山大学第一外科時代

医療法人温交会河島外科胃腸科 河島 隆 男

緒方先生の岡山大学大学院時代、主任教授は陣内伝之助先生であった。彼の研究室は2階の北研究室で、勿論緒方先生がリーダーで粘膜及び消化器癌の研究を行っていた。当時の米国、日本の臨床医師は多くの場合、臨床活動以外に研究活動を行っていた。南研究室は胃癌研究で有名な岡島先生がリーダーで、後大阪医大教授となられた。東研究室は癌病疫研究の折田元第一外科教授がリーダーであった。

緒方先生は組織化学、透過電顕並びに走査電顕を用いて消化器の粘膜と消化器癌の研究をされた。併せて赤筋・白筋・中間筋の形態的研究をされたが、レベルの高いものであった。この頃先生の研究は海外でも高く評価され Harvard University の affiliated Hospital である Massachusetts 総合病院に招聘され、当地で研究を完成された。



(Sept. 4, 1966) 撮影

写真は当地の住居 Hiske House の傍に立たれた先生ご夫妻の写真である。北部東海岸特有の高い木立の中の一軒家が印象的であった。帰国後、平木高知医科大学長に懇請されて高知に着任された。

緒方先生を偲ぶ

医療法人里仁会興生総合病院 理事長 藤原 恒 弘

緒方先生に初めてお会いしたのは昭和 33 年 5 月、岡山大学医学部軟式テニス学内対抗試合の決勝戦でした。試合は硬式テニススタイルの緒方・東組に完敗しました。元来軟式テニスにはウエスタングリップが適しており、イースタングリップは不利とされています。不利とされるスタイルで、強烈なジャンピングサービスとフォアハンドストロークの華麗なテニスに圧倒され敗退しました。それから我々新人は奮起し、緒方・東組打倒を医学部軟式庭球部の課題として、猛練習に励みました。当時先生は大学院生で、研究の合間に練習の指導をしていただきました。われわれは緒方・東組のテニス打倒の課題達成に 3 年を要しました。庭球部の主要メンバーが緒方先生に勝つようになると、対外試合でも連戦連勝するようになり、医科学生の大大会では中四国で 3 回、西日本、全日本で各 2 回優勝しました。岡山大学医学部軟式庭球部の全盛期が数年間続いたのは、緒方先生の功績であります。

先生にはテニス以外の面でも多くのことを教えていただきました。外科医としての在り方、日常生活習慣まで多岐に及びました。テニスを通じてお互いに理解を深くし、切磋琢磨しました。昭和 41 年、金光病院に赴任した時は、手術の度毎ご指導いただきました。テニスを通して共感することが多く、肝胆相照らすところ大でありました。

昭和 43 年、故郷伯方島で開業しました。多忙な先生に隔週に 1 回診療を助けていただきました。5 年間の僻地医療にもかかわらず、時代に遅れず外科医として成長することができたのは、先生のお陰であります。島の施設は、10 床から 40 床に増築し、最新型のレントゲンテレビを設備しましたが、利用頻度は低く、僻地医療には限界がありました。当初の予定通り、三原市に適当な土地を得て、病院建設を計画しました。新病院の建設には 1 億 2 千 8 百万を要し、担保と保証人が必要でありましたが、保証人は皆無でした。緒方先生だけが無条件で保証人になって下さいました。お陰で融資条件が整い、新病院が完成しました。開院後毎週診療の応援をして頂き、先生のお世話で北研の多くの先生方にも応援して頂き、非常にお世話になりました。高知に赴任された後も、御多忙にも拘わらず時々来て頂きました。私の病院が今日在るのは、一重に先生のお陰であります。衷心より感謝しております。

平成 9 年 11 月、私が脳梗塞で入院した時、早速お見舞い戴き、多くの助言を賜りました。平成 10 年 PPSA-JC 天津の学会長をさせていただきましたが、特別講演をお引き受け頂き、会の成功にご尽力頂きました。会の運営を担当した当院職員にとっては、力強い支援でありました。平成 13 年 11 月には、一緒に台北の PPSA-JC 学会に参加しましたが、この時は非常にお元気でした。平成 18 年 8 月先生発病の報、晴天の霹靂でありました。平成 19 年 5 月喜寿の祝賀会でお元氣な先生のお姿を拝見し、我が目を疑うばかりのご回復振りに安堵したのも束の間でした。その後は面会もままならず、闘病の様子は奥様のお便りで知るのみでありました。平成 20 年 1 月末病状急変の報を受け、夜中に参上して意識不明の先生とようやく対面しました。強引にお見舞いするべきであったと後悔しました。

先生は余命僅かとなった事を悟られ、1 分 1 秒を惜しんで研究に没頭されたと伺いました。意志強固な先生らしい人生の終焉であったと感服致すばかりであります。合掌。どうか安らかにお眠り下さい。

緒方卓郎先生を偲ぶ

医療法人村田外科胃腸科 村田 文 雄

いまから 40 年以上も昔、岡大第一外科の北研究室の門下生となった時のことである。

「この写真は一体何に見えるかね？」師事することになった緒方卓郎先生に問いかけられた。「浴衣の絵柄のデザインとは違う、電子顕微鏡で撮った骨格筋の微細構造だよ」「光学顕微鏡の時代は過ぎ去りこれからは電子顕微鏡の時代だ」と意気揚揚として言われた。

光学顕微鏡の一種である偏光顕微鏡までの話なら理解出来るが、電子顕微鏡といった鉄腕アトムのような話は苦手だといふかると、緒方先生曰く「研究の要諦は材料と方法論」である。「できもよくないといけないが、運を育てることも必要」だよ。

さらに続けて「実はね、ボストンに留学中の主任教授がドクターオガタは強運を授けられていて羨ましいと言われた」とてれながら話をされた。この話を要約すれば先生は若くして骨格筋繊維という鉱脈を見つけている。そして電子顕微鏡という技術を備えている。掘れば掘るほど宝物がざくざく出ると思えば胸がときめくということであろう。

当時は学生運動で世の中が騒然とする真っ只中、2年間の米国留学後でもあり研究体制を整えるのが急務である時でもあったのだ。歴史家が追及したシルクロードには終点があったが、自分たちの求めている道は奥が深く途中で無限に枝分かれし終わりが無い、とても一人での研究は無理でありグループをつくりたいという遠大な計画でもあったのだ。

なんやかんや話しているうちに、気さくな人柄から、ついいろいろなことを聞いてしまった。その一つが、ティーテル・アルバイトはどうなるのでしょうか。「学位のことなら1~2年間でも本気ですら充分だよ」学位なんて先生からみれば、所詮足の裏についた米粒みたいなものでとらないと気持ちが悪いがとつても食えないといったものだ。ただ「北研の門下生には全員学位取得するべく指導する自信があるよ。」この言葉に単純な僕は安堵したものだ。事実北研で作成された学位論文は速やかにパスしていたことも確かだ。これも先生の研究指導能力ばかりでなくて、先生のこまやかさによるものと思っている。

爾来10年、北研で緒方先生に師事し共同研究者として末席を汚したが、先生が高知医科大学の教授に内定したこともあり、新進気鋭の若手研究者も生まれていることだし、僕は潮時と思い郷里の山口で開業することにした。

市井に居ると北研在室時には気が付かなかったことが彷彿と浮かんでくるものだ。たしかに先生には弱点もあった。先生のような研究者は自分勝手な研究に一生懸命になって、奥様やお子様、家庭のことなどかえりみる暇もなく、経済的不如意は奥さんに押しつけていたに違いない。今流に言うならば家庭崩壊といったところであろうが、緒方先生には底抜けにお人好しで明るく暖か味があったのがなによりの救いであったのだ。

緒方先生の研究者としてのハイライトは瀬藤賞を受賞されたことであろうともいってもよいだろう。受賞祝賀会に出席した。以前より先生は賞を求めて研究を続ける根性は間違っていると言われていたが、この時ばかりは「自分の仕事が評価されたことは研究者冥利につきる」と満面笑みをうかべて幸福感を味わっておられた。

臨床外科医がこのような由緒ある大賞を頂くには何かを犠牲にしていると思い「先生、瀬藤賞の受賞は奥様のご苦勞が大きいのですよ」このあたりで「罪ほろぼしと思って、お二人でクイン・エリザベス号で世界一周の旅をなさったらどうですか？」と余計な心添えをした。勿論目下考慮中とのこと。側から「先生、社交ダンスぐらいできないとだめですよ」との声あり。「僕はテニスを続けているから運動神経は抜群だ」「セニョリタ、マドモアゼルなんでもごじゃれた」と何時もの調子であった。その後のいきさつについては聞きそびれているが、多分生まれつきの研究オンリーであったであろう。

先生は7ヶ月前には岡山での北の会で講演された。3ヶ月前には論文の別冊をご送付いただいたし、論文は欧文で僕にとっては難解であったが丁寧な礼状も書いた。緒方先生が病んでいるとはつゆ知らず、いつの間にか先生はフツと逝ってしまったようだった。

緒方卓郎先生を偲んで

姫路赤十字病院 名誉院長 鍋山 晃

私は岡大医学部を昭和40年に卒業しました。緒方先生の所（北研）に、同級生、武村志延君、松田弘君、高橋公雄君と連れ立って恐る恐る行き、研究室のメンバーにして頂きました。「4人来るか」とたいそう喜んで下さいました。みんな消化管に関係したところで、電子顕微鏡を使っての研究でしたが、なにしろ電子顕微鏡そのものも何も知らない者ばかりで、組織片一つ作るのも、

また、それを切ることも大変でした。研究室には可愛いラボランチン（佐藤さん、重実さん）二人が、いろいろ手伝ってくれました。ブロックを切るガラスナイフは自動車の窓ガラスがいいんだと、夏の暑い日だったのですが、自動車を解体している所迄、先輩の村田先生に連れて行ってもらったのを、今もよく覚えております。汚い研究室でしたが我々は本当に自由にさせて頂き、楽しかったです。特に厳しく叱られたというような記憶はありませんが、撮った写真を見てもらう時には、さすがに厳しい顔で批評され、指導を受けました。私はヒトの胃の、今で言う内分泌細胞（当時 EC 細胞）を見ていました。その分類整理を夜遅くまで緒方先生と一緒にさせて頂いたのは、もう 40 年近く前になりますが、今もついこの間のように思えます。それが東北大学のメディカルジャーナルに載り、外国からも沢山の別刷請求が来たこと、緒方先生が何よりも喜んで下さいました。

そんなこともあり、私はモントリオールのマギール大学で研究を続けることになったのですが、其の時に発表した細胞（Caveolated Cell）に緒方先生はとても興味を持たれ、教授を退官されてからも一人で、その細胞の機能追究に没頭され、時々、その成果を知らせて下さっていました。

亡くなれる一年位前だったでしょうか、その細胞の機能が大分解って来たと、先生のあの天真爛漫の笑顔が見えるような手紙をもらい、私は感激し、先生の努力に頭が下がりました。まだまだこれからだと言っておられた先生の、突然の訃報に接し、本当に驚き、また、残念でありませんでした。平成 20 年 1 月 30 日の早朝であったとか、この日はガンジーが亡くなった日であり、私の誕生日も同じ 1 月 30 日です。緒方先生のもとで指導を受け、今日の自分があること、何か緒方先生との不思議な縁を感じています。緒方先生本当にありがとうございました。どうか 安らかに眠りください。

合掌

思い出のお写真



小学入学当時



岡大時代 夏のレクリエーション



岡大時代 清籐敬先生と





1969年 第44回日本解剖学会
(信州大学)



岡大時代 北研の方とご自宅で



1969年 ご一家

A muscle man in world of medicine

One of the world's top authorities on histochemistry and an eminent surgeon, Dr T. Ogata, left Canberra to return to Japan.

Dr Ogata was in Canberra as a guest of Dr R. Close, senior fellow in physiology at the ANU. Both had recently attended a four-day conference on muscular diseases in Perth and Dr Ogata had been invited to visit the ANU by Dr Close.

Histochemistry is the study of muscle.

Dr Close said 160 doctors from overseas and 90

Australian doctors attended the conference. Dr Close said conferences of this nature were very useful.

"They enable us to meet experts in this field from all over the world", he said.

"Even on an extended world tour one would not get to meet so many people with a common interest".

Dr Ogata has written many scientific publications and has won world renown for his work in the field of muscle diseases.

Dr Close and Dr Ogata

requests to Mr Schmidt, The Minister for Foreign Affairs, Mr Nigel Bowen, the German Ambassador, Dr Heinz Vogt and about 120 other VIPs were shaking hands with Mr Schmidt.

RAAF crewmen held themselves about the huge plane.

No plane at Fairbairn ever escapes the Phantom of the RAAF. When Luftwaffe Boeing 707 Otto Lilienthal took off she had a large orange kangaroo on her tail.

The same redoubtable kangaroo on the aircraft that carried Sir Marcus Oliphant to his starting - in economy to Adelaide.

Only the farewelling crowd was different.

WHERE TO CALL . . .

POLICE 497664

FIRE

South 722244

North 490344

AMBULANCE

LIFELINE 498133

ALL SERVICES 951888

Emergency only 609

Canberra News 1 December 1969

1971年 第2回国際筋疾患学会 招待講演
(オーストラリア、パース)



1977年 北研の方
たちと足摺旅行



1978年

昭和53年 5月27日

緒方教授御就任祝賀会

於荒手茶寮

教授就任祝賀会



1979年 研究室で



1980年 岡山のご自宅で



1981年 医局旅行(鳴門)



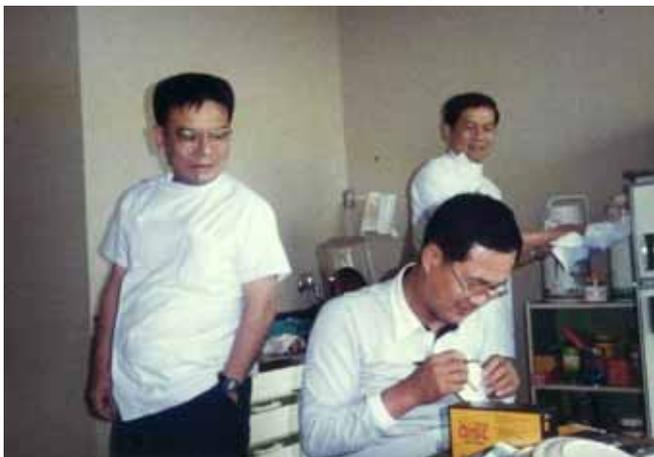
1981年 北の会



1982年 医局旅行(足摺岬)



1984年 医局旅行(東洋町白浜)



1983年 医局



1985年 山本恒義先生送別会



1988年 医局旅行(神戸)



1991年
手術風景(開院10周年記念誌より)



1988年
教室の電顕室



1988年 Malignants



1991年 ご親戚と



1992年

日本電子顕微鏡学会



瀬籐賞受賞



記念祝賀会





1994年 日本臨床電子顕微鏡学会
総会・学術集会 主催(高知)





1995年 医局旅行(足摺岬)

高知医科大学第一外科 御一行様 於 足摺岬の病院前 平成7.7.29

1995年 Ito先生ご夫妻と



1995年 新入局員歓迎会



お母様を囲んで左より規矩雄先生、正名先生、卓郎先生、裕美子さん



1996年
退官祝賀会





1996年 荒木京二郎先生 就任祝賀会



2003年 松浦喜美夫先生 送別会



2007年
教授室にて



2000年 岡山おもちゃ王国

2002年 ユニバーサル・
スタジオ・ジャパン





2002年 ユニバーサル・
スタジオ・ジャパン



2002年
ハウステンボス

2007年 ご一家





平成20年2月1日 告別式

追悼記

故 緒方卓郎 享年 79 歳 戒名 医光院澤卓越

平成 20 年 5 月 3 日晴れの日、主人が幼年時代から第六高等学校まで過ごした岡山市門田文化町の近くのお墓に家族に見守られながら、13 年前に亡くなった長男と一緒に入りましたことをご報告申し上げます。

主人は平成 18 年 8 月に、高知大学医学部第一内科で膵臓癌と診断されました。本人の希望もあり、限られた人にもみ知らせ、抗癌剤治療が開始されました。1 週間ほどの入院で、自宅に戻り、効果があったのか徐々に元気になり、病気のことは気にせず研究を続けると話し、大学の研究室と自宅の別棟の書斎の両方で夜遅くまで仕事を続けていました。

抗癌剤の治療の日は、朝早くから 長女 喜美子が病院の手続き準備など全てをしてくれて、主治医の西森先生より治療を受けました。大阪にいる次女 裕美子も忙しい中何度も帰高してくれて、“子供たちの幼いころ、忙しくて面倒をみてやらなかったのによくしてくれる。”と娘一家に感謝しておりました。秋から翌年夏ごろまでは、比較的元気で家族とよく外食を楽しんだり、4 人の孫（高 2、中 3、6 歳、3 歳）をこよなく愛し、楽しいひとときを持っていました。また平成 19 年 5 月には、岡山大学第一外科の北の会（同門会）の先生方に古希のお祝いをして頂き、また同日偶然にも小学校（岡山大学附属小学校）の同窓会があり、旧友の方達に会うことができました。これが最後の岡山への遠出となりましたが、この二つの会で主人は旧友の皆様にお別れを心の中でお伝えしたかったのだと思います。夏ごろまではまだ元気でしたが、秋頃になると徐々に調子が悪くなり、固形物はほとんど口にしなくなりました。卵・サラダ油・牛乳を混ぜて飲むようになり、余りにおいしくなさそうなので、“バナナ・りんごなどを入れてミキサーにかけましょうか。”と言いますと、“もう味覚がなくなっているのでもいいんだ。”と言っていました。免疫療法も始め、また自宅に温熱療法の器械を買って、クラシック音楽を聞いたり、テレビで将棋などを見ながら過ごす時間が日に日に増えていきました。時折“もっと医局員の面倒をみればよかった。”とか“まだ論文がこれから書けるのに。”とか“イギリスやニュージーランドに行ってみたかった。”とか“ずっと忙しかったので、これから少しゆっくりしたかった。”などといろんなことを残念がるようになっていました。

今年 1 月 4 日黄疸などの症状が出てきはじめたことより入院することになりました。経皮的胆嚢ドレナージの治療がうまくいき、胆汁が外に流れるのを自分の目で確認し、私に“耕崎先生が内視鏡などの手技が上手で助かる。”と喜んでおりました。また大学病院の看護師の皆様が大変良くして頂き感謝しておりました。しかしながら、病気の進行は早く、また肺炎なども併発し苦しい日々でしたが、ベットの上で論文を書き続け、1 月 24 日、第一外科の先生に論文の続きを託し、そのまま意識を失いました。そして 1 月 30 日早朝帰らぬ人となりました。主人は、病気になった事を大変残念に思っておりましたが、治療過程では、多くの論文を読み、主治医の先生にそれを相談し、良いと思ったことは、ほとんど試みて頂き、いつも主治医の先生方に申し訳なく思いながらも、大変感謝しておりました。1 年半に亘った闘病でしたが、殆ど自宅で普通に生活することができ、仕事も治療も続けられたことは、もっともっと生きたいと願いながらも納得していたのだと思います。

皆様には、本人の意思で病気のことを話しませんでしたので、主人の 1 年半に亘る闘病の一端を家族からみた主人の姿を書きました。主人が賜りました生前の御厚情を深く感謝致します。

最後に主人は平成 8 年高知医大を退官してから、長女のところの上の孫たち（雅央（高 2）、裕文（中 3））と私を含め 4 人でよく旅行に出かけました。岡山のおもちゃ王国では当時保育園の孫たちとトーマス電車と一緒に乗り喜ぶ姿は私にとっては驚きでした。その他にも、宇和島、USJ、海の道、ハウステンボス、阿蘇、伊勢志摩、マレーシア（裕文の柔道の親善旅行）、最後は主人の希望で隠岐の島に行きました。退官後、このような時間が過ごせて良かったと思っていたようにした。

最後の頃は在職中は忙しく論文がかけていないので、もう少し仕事をして業績集を作りたいといていきましたが、高知大学外科 1 花崎教授が追悼集を作ってくださいとのご意向を家族一同とても感謝しています。またそれに携わって頂いた皆様方にも心より深く感謝申し上げます。

主人の一生は、多くの皆様に支えられ、特に岡山大学第一外科北の会、河島先生、故 清藤先生はじめ皆様方には言葉に尽くせないくらい支えて頂きました。昭和 53 年高知医科大学に赴任してからも、医局員の皆様、同門会の皆様、関連病院の皆様を初めとする多くの方々に支えていただき無事 18 年間に過ごすことができました。この誌をかりて皆様に心より御礼申し上げます。

平成 20 年 6 月

緒方 日向

主 要 論 文

申し訳ありません。主要論文はWebでは公開していませんので、それぞれの論文あるいは追悼誌を直接ご覧下さい。

1. Takuro Ogata
A histochemical study of the red and white muscle fibers. Part I. Activity of the succinoxidase system in muscle fibers
Acta Medica Okayama 12:216-227, 1958
2. Anatomical Record 228 (3): Cover-photograph, 1990
Takuro Ogata and Yuichi Yamasaki
High-resolution scanning electron microscopic studies on the three-dimensional structure of the transverse-axial tubular system, sarcoplasmic reticulum and intercalated disc of the rat myocardium
Anatomical Record 228:277-287, 1990
3. Takuro Ogata and Yuichi Yamasaki
Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the membrane system of the parietal cells of the rat in the resting state and shortly after stimulation
Anatomical Record 237:208-219, 1993
4. A Textbook of Histology, Bloom & Fawcett, 12edition 1994 pp.274 に引用
Takuro Ogata and Yuichi Yamasaki
Scanning electron-microscopic studies on the three-dimensional structure of mitochondria in the mammalian red, white and intermediate muscle fibers
Cell and Tissue Research 241:251-256, 1985
5. A Textbook of Histology, Bloom & Fawcett, 12edition 1994 pp.300 に引用
Takuro Ogata and Yuichi Yamasaki
High-resolution scanning electron microscopic studies on the three-dimensional structure of the transverse-axial tubular system, sarcoplasmic reticulum and intercalated disc of the rat myocardium
Anatomical Record 228:277-287, 1990
6. 緒方卓郎
ヘリコバクター・ピロリ菌 - 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎の元凶！ -
ブルーバックス、講談社、1997
7. Takuro Ogata
Bicarbonate secretion by rat bile duct brush cells indicated by immunohistochemical localization of CFTR, anion exchanger AE2, Na⁺/HCO₃⁻ cotransporter, carbonic anhydrase II, Na⁺/H⁺ exchangers NHE1 and NHE3, H⁺/K⁺- ATPase, and Na⁺/K⁺-ATPase
Medical Molecular Morphology 39:44-48, 2006

著 書

- | | | | |
|-------------------------|------|--|--|
| 1. 陣内伝之助、緒方卓郎、小坂二度見 | 1963 | 術前術後の管理と合併症 | 金原出版 |
| 2. 緒方卓郎、島谷信人 | 1965 | 外科領域における副腎皮質ホルモンの応用 | 金原出版 |
| 3. 緒方卓郎 | 1972 | 病体酵素組織化学消化管疾患の酵素組織化学 | 朝倉書店 |
| 4. 緒方卓郎 | 1972 | 第4巻 外傷外科全書 頸部神経 | 南江堂 pp217-223 |
| 5. Ogata T | 1972 | Gastro-Entero-Pancreatic Endocrine System A cell Biological Approach | Igaku Shoin Ltd., Tokyo |
| 6. Ogata T | 1973 | Basic Reseach in Myology | Excerpta Medica, Amsterdam |
| 7. 緒方卓郎 | 1981 | 胃 | 消化管：機能と病態、織田敏次・岡博編、中外医学社、pp11-24 |
| 8. 緒方卓郎 | 1982 | 腹痛（急性腹症を含む） | 今日の治療指針、石山敏次他編、医学書院、pp381-383 |
| 9. 緒方卓郎、清藤 敬、荒木京二郎 | 1982 | 超微細構造と吸収機能 | 潰瘍性大腸炎・クローン病、内科セミナー・GE7、大腸の構造と機能、織田敏次他編、永井書店、pp18-36 |
| 10. 緒方卓郎、荒木京二郎 | 1983 | 3. 消化器粘膜の透過および走査電子顕微鏡的所見 | 消化器外科、3章消化器の発生学、金原出版、pp50-76 |
| 11. 緒方卓郎 | 1985 | 急性腹症 | 標準外科学、第4版、武藤輝一、相馬智編、医学書院、pp641-651 |
| 12. 公文正光、山崎 奨、川崎博之、緒方卓郎 | 1986 | 肝鑄型標本からみた肝区域 | 消化器病学の進歩'85、第1章肝区域 その臨床的意義、太田康幸編、日本医学館、pp28-30 |
| 13. 緒方卓郎 | 1987 | 胃の構造と機能 | 人体組織学、第4巻 消化器、小川和朗他編、朝倉書店、pp160-202 |
| 14. 緒方卓郎 | 1988 | 急性腹症 | 標準外科学、第5版、武藤輝一、田辺達三編、医学書院、pp647-656 |
| 15. 緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭 | 1990 | 急性胃炎 | 消化器外科、エンサイクロペディア、へるす出版、13(臨増):845 |

著 書

- | | | | |
|-------------------------|------|---|--|
| 16. 緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭 | 1990 | 急性腹症 | 消化器外科、エンサイクロペディア、へるす出版、13(臨増):853 |
| 17. 緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭 | 1990 | 癒着性イレウス | 消化器外科、エンサイクロペディア、へるす出版、13(臨増):1177 |
| 18. 緒方卓郎 | 1991 | 腸管損傷と腸管異物 | 新外科学大系23B、小腸・結腸の外科、出月康夫他、中山書店、pp3- |
| 19. 緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭 | 1992 | 腹部・消化器外科診断マニュアル .主要症候と診断・治療指針
7.便秘・下痢 | 外科治療 66:599-602 |
| 20. Ogata T | 1993 | Muscle and muscle disease: Cytochemical and immunocytochemical aspects | Electron Microscopic Cytochemistry and Immunocytochemistry in Biomedicine, Ogawa K and Barka T eds. CRC Press. pp639-655 |
| 21. 緒方卓郎、荒木京二郎、山崎裕一 | 1993 | マイクロウエーブ固定法を用いたラットの胃壁細胞の走査および透過電子顕微鏡的観察 | マイクロウエーブ照射による生物試料の固定・染色法の基本とその応用、水平敏知編、学際企画、pp188-192 |
| 22. 緒方卓郎、荒木京二郎、山崎裕一 | 1995 | 筋小胞体 | 電子顕微鏡でみるミクロの世界 生物編、日本電子顕微鏡学会編、学際企画、pp84-85 |
| 23. 緒方卓郎、荒木京二郎 | 1996 | 第7章筋組織 | 走査電子顕微鏡による立体組織学、朝倉書店 |
| 24. Ogata T, Yamasaki Y | 1997 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the transverse-axial tubular system, sarcoplasmic reticulum and intercalated disc of the rat ventricular and atrial mvocardial cells | Recent Advances in Microscopy of Cells, Tissues and Organs, Motta PM ed, Antonio Delfino Editore, pp275-279 |
| 25. Ogata T, Yamasaki Y | 1997 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the membranous organelles in rat gastric gland cells | Recent Advances in Microscopy of Cells, Tissues and Organs, Motta PM ed, Antonio Delfino Editore, pp371-376 |
| 26. 緒方卓郎 | 1997 | ヘリコバクター・ピロリ菌 - 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎の元凶! - | ブルーバックス、講談社 |

著 書

- | | | | |
|---------------------|------|--------------------------------|--|
| 27. 緒方卓郎、小林道也、荒木京二郎 | 2002 | 1.胃疾患と Helicobacter pylori 菌感染 | 病気の形態学、各論 1.消化管の疾患、日本臨床電子顕微鏡学会編、学際企画、pp79-80 |
| 28. 緒方卓郎、小林道也 | 2008 | 骨格筋のしくみ | もの知り図鑑、健学社（印刷中） |

総 説

- | | | | |
|---------------------------------------|------|---|--|
| 1. 田中早苗、緒方卓郎 | 1963 | 胃切除後合併症とその対策 | 手術 17:763-772 |
| 2. 田中早苗、緒方卓郎、河島隆男、延藤栄男、仙波春樹、藤森明良、真田 浩 | 1964 | 術後感染とその対策 | 外科治療 10:679-704 |
| 3. 田中早苗、緒方卓郎、河島隆男 | 1969 | 外傷と輸液 | 診療 22:222-228 |
| 4. 緒方卓郎 | 1978 | 胃癌の外科的療法（胃癌手術の問題点） | 日本医師会医学講座 53:20-24 |
| 5. 緒方卓郎 | 1982 | 骨格筋線維の fiber type 電子顕微鏡的研究 | 電子顕微鏡 17:34-40 |
| 6. 緒方卓郎、荒木京二郎、田村精平、川村明廣 | 1984 | 急性胃炎 | 消化器外科 7:728-729 |
| 7. 緒方卓郎、山崎裕一 | 1988 | 走査電子顕微鏡による筋小胞体の観察 | 細胞 20:564-567 |
| 8. 緒方卓郎、山崎裕一 | 1991 | 超高分解能走査電子顕微鏡による筋小胞体の観察 | 電子顕微鏡 25:183-188 |
| 9. 緒方卓郎 | 1992 | 骨格筋線維型の電子顕微鏡的研究 | 電子顕微鏡 27:136-142 |
| 10. 緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭 | 1993 | .腹壁・腹膜・ヘルニアの治療 1.横隔膜下膿瘍 | 外科治療 68:958-960 |
| 11. 緒方卓郎、荒木京二郎、山崎裕一 | 1994 | 走査型電顕から見た壁細胞の形態 | 細胞 26:458-462 |
| 12. 緒方卓郎、山崎裕一 | 1994 | 壁細胞の謎を解く | ミクロスコピア 11:106-107 |
| 13. Ogata T, Araki K, Yamasaki Y | 1995 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the membrane system of the rat parietal cells after tetragastrin stimulation | It J Anat Embryol 100(suppl 1):393-401 |
| 14. 緒方卓郎 | 1996 | <i>Helicobacter pylori</i> の胃・十二指腸粘膜障害に及ぼす影響の電子顕微鏡的観察 | 生体の科学 47:157-163 |
| 15. 緒方卓郎 | 2001 | 胃の壁細胞の超微形態と機能と臨床 | 電子顕微鏡 36:83-88 |

原 著

- | | | | |
|---------------------------------------|------|---|---------------------------------|
| 1. Ogata T | 1958 | A histochemical study of the red and white muscle fibers. Part I. Activity of the succinoxidase system in muscle | Acta Med Okayama 12:216-227 |
| 2. Ogata T | 1958 | A histochemical study of the red and white muscle fibers. Part II. Activity of the cytochrome oxidase muscle fibers | Acta Med Okayama 12:228-232 |
| 3. Ogata T | 1958 | A histochemical study of the red and white muscle fibers. Part . Activity of the disphosphopyridine nucleotide diaphorase and triphosphopyridine nucleotide diaphorase in | Acta Med Okayama 12:233-240 |
| 4. 緒方卓郎、小田琢三 | 1958 | Pituitary fetal cell adenomas | 脳と神経 10:627-631 |
| 5. Ogata T, Oda T, Kitamura M | 1960 | A histochemical study of the gastric cancer activity of succinoxidase, DPN-diaphorase, -glycerophosphate dehydrogenase and phosphorylase in cancer cell | Gann 51:102-103 |
| 6. Ogata T | 1960 | The difference in some labile constituents and some enzymatic activities between the red and white muscle | J Biochem 47:726-732 |
| 7. 陣内伝之助、小野正員ほか | 1960 | 自然肛門を利用する直腸癌の手術 | 外科治療 4:163-178 |
| 8. Ogata T, Mori M | 1962 | Histochemical demonstration of intrafusal fibers of muscle spindles | Acta Med Okayama 16:347-350 |
| 9. Ogata T, Mori M | 1963 | A histochemical study of hydrolytic enzymes in muscle fibers of various animals | J Histochem Cytochem 11:645-652 |
| 10. Kawashima T, Ogata T | 1963 | A cytochemical study of oxidative enzymes in ehrlich ascites tumor cells | Acta Med Okayama 17:209-220 |
| 11. Ogata T, Kawashima T, Nishiyama A | 1963 | Histochemical demonstration of three types of muscle fibers of the intercostal muscles. A study on oxidative enzymes | Acta Med Okayama 17:257-258 |
| 12. Shimada H, Okumura S, Ogata T | 1963 | An electrophysiological study on the difference of conduction velocity between the red and white muscle fibers | Acta Med Okayama 17:289-291 |
| 13. Ogata T, Mori M | 1964 | Histochemical study of oxidative enzymes in vertebrate | J Histochem Cytochem 12:171-182 |
| 14. Ogata T, Mori M | 1964 | Histochemical study of oxidative enzymes in invertebrate muscles | J Histochem Cytochem 12:183-187 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|-----------------------------|
| 15. Ogata T | 1964 | An electron microscopic study on the red, white and intermediate muscle fibers of mouse | Acta Med Okayama 18:271-280 |
| 16. Kawashima T, Nobuto H, Seito T, Ogata T | 1964 | A histochemical study of hydrolytic and oxidative enzymes in an eosinophilic granuloma of parotid gland region | Acta Med Okayama 18:321-332 |
| 17. Ogata T | 1965 | A histochemical study on the structural differences of motor endplate in the red, white and intermediate muscle fibers of mouse limb muscle | Acta Med Okayama 19:149-153 |
| 18. Kawashima T, Takeuchi K, Nakamura M, Ogata T | 1965 | The relationship between histochemical enzyme activities of brain tumors and clinical features of the patients | Acta Med Okayama 19:293-306 |
| 19. Seito T, Ogata T, Nobuto H, Kawashima T | 1965 | Histochemical studies of hydrolytic and oxidative enzymes in the human intestinal tumors | Acta Med Okayama 20:37-52 |
| 20. 河島隆男、竹本 茂、吉田 宏、島谷信人、中村正人、西山 瑩、竹内鬼三郎、延藤栄男、清藤 敬、緒方卓郎 | 1965 | 人の胃の組織化学的研究 () 水酸酵素活性について | 日本消化器病学会雑誌 62:1633-1641 |
| 21. 河島隆男、竹本 茂、吉田 宏、島谷信人、中村正人、西山 瑩、竹内鬼三郎、延藤栄男、清藤 敬、緒方卓郎 | 1965 | 人の胃の組織化学的研究 () 脱水素酵素活性について | 日本消化器病学会雑誌 62:1641-1648 |
| 22. 清藤敬、河島隆男、竹本 茂、延藤栄男、竹内鬼三郎、緒方卓郎 | 1965 | 食道及び舌の扁平上皮癌の組織化学的研究 | 日本消化器病学会雑誌 63:151-158 |
| 23. Kawashima T, Nobuto H, Takeuchi K, Seito T, Ogata T | 1966 | Histochemical study on enzyme activities of gastric carcinoma. I. Hydrolytic enzymes | Acta Med Okayama 20:91-104 |
| 24. Kawashima T, Nobuto H, Takeuchi K, Seito T, Ogata T | 1966 | Histochemical study on enzyme activities of gastric carcinoma. II. Dehydrogenases | Acta Med Okayama 20:123-136 |
| 25. Nobuto H, Kawashima T, Shimatani N, Takeuchi K, Mihara K, Seito T, Ogata T | 1966 | A histochemical studies on hydrolytic and oxidative enzymes in human sarcomas | Acta Med Okayama 20:159-166 |
| 26. Seito T, Shimatani N, Kawashima T, Ogata T | 1966 | DNA synthesis and cell renewal in small and large intestine of mouse | Acta Med Okayama 20:167-174 |
| 27. 河島隆男、中村正人、竹内鬼三郎、緒方卓郎 | 1966 | 脳腫瘍組織の酵素活性とその臨床所見との関連性 | 脳と神経 18: 243-248 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|-----------------------------|
| 28. Ogata T, Hondo T, Seito T | 1967 | An electron microscopic study on differences in the fine structure of motor endplate in red, white and intermediate muscle. A preliminary study | Acta Med Okayama 21:327-338 |
| 29. Ogata T, Seito T, Hino H | 1968 | A cytological study of the effect of reinnervation and crossinnervation on rat striated muscle | Acta Med Okayama 22:219-226 |
| 30. Ogata T, Kawashima T, Hino H, Murata F | 1968 | A scanning electron microscopic study of the rat intercostal muscle | Jeol News 7B p10 |
| 31. Ogata T, Murata F | 1968 | Fine structure of motor endplate in red, white and intermediate fibers of mammalian fast muscle | Tohoku J Exp Med 98:107-115 |
| 32. Hino H, Ogata T | 1968 | A cytological study on the effect of nerve crush injuries in striated muscle fibers | Acta Med Okayama 22:227-230 |
| 33. Ogata T, Murata F | 1969 | Scanning electron microscopic study on the rat gastric | Tohoku J Exp Med 99:65-71 |
| 34. Ogata T, Murata F | 1969 | Cytological features of three fiber types in human striated muscle | Tohoku J Exp Med 99:225-245 |
| 35. Murata F, Ogata T | 1969 | The ultrastructure of neuromuscular junction of human red, white and intermediate striated muscle fibers | Tohoku J Exp Med 99:289-301 |
| 36. Kawashima T, Ogata T, Murata F | 1969 | Some problems on an inoxyl acetate esterase reaction coupled by tetrazo tized BAXD | Acta Histochem 1:201-202 |
| 37. 松本富雄、日野博夫、三原浩三、河島隆男、田中早苗、村田文雄、津田博文、緒方卓郎 | 1969 | ヒト及びダイコクネズミの胃腺原細胞の組織学的電子顕微鏡的観察 | 医学と生物学 79:1-6 |
| 38. Kawashima T, Ogata T, Matsumoto T, Murata F, Tsuda H, Tanaka S | 1970 | An enzyme histochemical classification of gastric carcinoma and the significance in prognosis | Gann 61:299-310 |
| 39. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970 | 人体結石の微細構造と臨床像 | 臨床外科 25:15-24 |
| 40. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970 | 走査電子顕微鏡による大腸粘膜の観察 | 臨床外科 25:graph |
| 41. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970 | 胆石の微細構造 - (1) 放射線状コレステリン石 | 医学のあゆみ 75:A119-120 |
| 42. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970 | 胆石の微細構造 - (2) コレステリン石(多杭石) | 医学のあゆみ 75:A121-122 |
| 43. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970 | 胆石の微細構造 - (3) コレステリン石と spiral growth | 医学のあゆみ 75:A123-124 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|------------------------------|
| 44. 津田博文、緒方卓郎 | 1970 | 膠様癌の電子顕微鏡的並びに組織化学的研究 | 日本外科学会雑誌 71:1842-1850 |
| 45. Ogata T, Tanaka S, Mihara K, Nabeyama A | 1971 | Histochemical and electron microscopic study on the steroid ulcers | Jpn J Surgery 1:173-185 |
| 46. Ogata T, Murata F | 1971 | Scanning electron microscopic study of cholesterol | Tohoku J Exp Med 104:25-44 |
| 47. Nabeyama A, Murata F, Matsuda H, Ogata T | 1971 | Ultrastructural and classification of endocrine-like cell in the mucosa of human stomach | Tohoku J Exp Med 103:14-47 |
| 48. Nabeyama A, Ogata T | 1971 | Cytological studies on enterochromaffin cells in intestinal metaplasia | Tohoku J Exp Med 105:355-363 |
| 49. Kawashima T, Ogata T, Okajima K | 1971 | An enzyme histochemical classification of gastric carcinoma and the significance in prognosis | Acta Histochem 4:153-160 |
| 50. 緒方卓郎、村田文雄 | 1971 | 胆石の微細構造 - (4) コレステリン石の表面構造 | 医学のあゆみ 76:A147-148 |
| 51. 緒方卓郎、武村志延 | 1971 | 胆石の微細構造 - (5) 脂肪酸石灰石 () | 医学のあゆみ 76:A149-150 |
| 52. 緒方卓郎、武村志延 | 1971 | 胆石の微細構造 - (6) 脂肪酸石灰石 () | 医学のあゆみ 76:A151-152 |
| 53. 緒方卓郎、鍋山 晃 | 1971 | 胆石の微細構造 - (7) いわゆる純色素石 | 医学のあゆみ 76:A153-154 |
| 54. 緒方卓郎、松田 弘 | 1971 | 胆石の微細構造 - (8) ビリルビン石 (1) | 医学のあゆみ 76:A155-156 |
| 55. 緒方卓郎、松田 弘 | 1971 | 胆石の微細構造 - (9) ビリルビン石 (2) | 医学のあゆみ 76:A157-158 |
| 56. 緒方卓郎、村田文雄 | 1971 | 胆石の微細構造 - (10) ビリルビン石 (3) | 医学のあゆみ 76:A159-160 |
| 57. 緒方卓郎、村田文雄 | 1971 | 胆石の微細構造 - (11) 層状石の微細構造(1) | 医学のあゆみ 76:A161-162 |
| 58. 緒方卓郎、村田文雄 | 1971 | 胆石の微細構造 - (12) 層状石の微細構造(2) | 医学のあゆみ 76:A163-164 |
| 59. 緒方卓郎、鍋山 晃 | 1971 | 胆石の微細構造 - (13) 石灰乳胆汁(1) | 医学のあゆみ 76:A165-166 |
| 60. 緒方卓郎、近藤慶二、伊藤國昭 | 1971 | 胆石の微細構造 - (14) 石灰乳胆汁(2) | 医学のあゆみ 77:A167-168 |
| 61. 緒方卓郎、村田文雄 | 1971 | 胆石の微細構造 - (15) 胆石中の未知の構造物 | 医学のあゆみ 77:A169-170 |
| 62. 緒方卓郎、清藤 敬 | 1971 | 胆石の微細構造 - (16) 胆汁沈渣の観察 | 医学のあゆみ 77:A171-172 |

原 著

63. 緒方卓郎、鍋山 晃	1971	膀胱の微細構造 - (1)	医学のあゆみ 77:A173-174
64. 緒方卓郎、鍋山 晃	1971	膀胱の微細構造 - (2)	医学のあゆみ 77:A175-176
65. 緒方卓郎、村田文雄	1971	消化器の微細構造 - (1) ダイコクネズミの胃 (1)	医学のあゆみ 78:A193-194
66. 緒方卓郎、鍋山 晃	1971	消化器の微細構造 - (2) ダイコクネズミの胃 (2)	医学のあゆみ 78:A205-206
67. 緒方卓郎	1971	尿路結石の微細構造 - (1) 硝酸カルシウム石 - 1	医学のあゆみ 78:A207-208
68. 緒方卓郎	1971	消化器の微細構造 - (3) ヒトの胃の表面構造 (1)	医学のあゆみ 78:A231-232
69. 緒方卓郎	1971	消化器の微細構造 - (4) ヒトの胃の表面構造(2)	医学のあゆみ 79:A233-234
70. 緒方卓郎、木原 優	1971	消化器の微細構造 - (5) 小腸(1)	医学のあゆみ 79:A235-236
71. 緒方卓郎、武村志延、木原 優	1971	消化器の微細構造 - (6) 小腸(2)	医学のあゆみ 79:A237-238
72. 緒方卓郎、鍋山 晃、村田文雄、松田 弘	1971	走査電子顕微鏡によるラット胃粘膜の微細構造と観察	胃と腸 6:1191-1196
73. 緒方卓郎、松田 弘、高橋公雄、鍋山 晃、武村志延	1971	十二指腸第 第 部に対する手術手技	手術 25:913-916
74. 緒方卓郎	1971	走査電子顕微鏡による小腸粘膜の観察	日本消化器病学会雑誌 68:885-888
75. 松田 弘、緒方卓郎	1971	胃潰瘍再生上皮の電子顕微鏡的観察	医学のあゆみ 77:187-191
76. 河島隆男、緒方卓郎、日野博夫、三原浩三、田中早苗	1971	胃癌の酵素活性と手術との関連について	日本外科学会雑誌 71:25-30
77. 緒方卓郎	1972	胃の異型上皮、早期癌の電子顕微鏡的観察	医学のあゆみ 80:A119-125
78. 緒方卓郎、今城 保	1972	消化器の微細構造 - (7) 腸上皮化生	医学のあゆみ 80:A249-250
79. 緒方卓郎、今城 保	1972	消化器の微細構造 - (8) 腸上皮化生と胃粘膜の境界	医学のあゆみ 80:A251-252
80. 緒方卓郎、清藤 敬、鍋山 晃	1972	腸上皮化生と内分泌細胞	医学のあゆみ 80:462-463
81. 緒方卓郎、今城 保	1972	慢性胃炎の電子顕微鏡的観察、特に内分泌細胞の動態について	日本消化器病学会雑誌 69:749-751
82. 清藤 敬、緒方卓郎	1972	迷走神経切断術の動向 (その1) 胃酸分泌の生理と実験的消化性潰	手術 26:1128-1134

原 著

- | | | | |
|--|------|---|------------------------------------|
| 83. 清藤 敬、緒方卓郎 | 1972 | 迷走神経切断術の動向（その2）手術術式の発展と現在の問題点 | 手術 26:1214-1221 |
| 84. 三輪好昭、平松正勝、成末 允、折田薫三、緒方卓郎、 | 1972 | 石灰乳胆汁の治験例と本邦報告例の文献的考察 | 臨床外科 27:401-405 |
| 85. 清藤 敬、武村志延、緒方卓郎 | 1972 | ラット胃粘膜切除後の再生上皮に対する合成テルプンエステル gefernate の作用の細胞学的研究 | 臨床と研究 |
| 86. 緒方卓郎 | 1973 | 胃の隆起性病変の透過型及び走査電子顕微鏡的観察 | Gastroenterol Endoscopy 15:554-556 |
| 87. 緒方卓郎 | 1973 | 尿路結石の微細構造 - (2) 尿酸結石 1 | 医学のあゆみ 84:A341-342 |
| 88. 緒方卓郎 | 1973 | 尿路結石の微細構造 - (3) 尿酸結石 2 | 医学のあゆみ 84:A343-344 |
| 89. 緒方卓郎 | 1973 | 消化器の微細構造 - (9) 胃の異型上皮 | 医学のあゆみ 84:A345-346 |
| 90. 緒方卓郎 | 1973 | 病的胃粘膜におけるGEP 内分泌細胞の動態 | 医学のあゆみ 84:635-630 |
| 91. 清藤敬、高田征尚、緒方卓郎 | 1973 | ラット実験潰瘍に対する肝障害の影響、および迷切術の効果 | 胃分泌研究会誌 5:11-12 |
| 92. 緒方卓郎、武村志延、清藤 敬 | 1973 | ラット胃粘膜切除後の再生上皮に対する gefernate の作用の細胞学的観察 | 薬の知識 25:9-14 |
| 93. 緒方卓郎、高田征尚、村田文雄、木林速雄、高田征尚、守安邦之、今城 保、高尾正彦、徳丸勲、西江 裕、星島 昭、田中早苗 | 1973 | 直腸癌、直腸ポリープの組織化学的電子顕微鏡的研究 | 日本外科学会雑誌 74:1157-1160 |
| 94. 緒方卓郎、武村志延、三原浩三、松田 弘、清藤 敬、田中早苗 | 1973 | 消化管損傷治癒過程の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 日本消化器外科学会雑誌 6:6-8 |
| 95. 高田征尚、清藤 敬、緒方卓郎 | 1973 | 迷走神経切除後の胃粘膜の電顕的観察 - とくに消化管内分泌細胞との関連 | 医学のあゆみ 85:177-178 |
| 96. 木林速雄、今城 保、守安邦之、高田征尚、西江 裕、緒方卓郎、渡邊 寛、藤田琢二、 | 1973 | 胆嚢捻転症の一治験例本邦症例の統計的観察 | 外科治療 15:87-92 |
| 97. Ogata T, Nishie H | 1974 | A scanning electron microscopic study on the formation cholesterol stones | Tohoku J Exp Med 113:371-381 |
| 98. 緒方卓郎 | 1974 | 消化器の微細構造 - (10) ヒトの胃の表面構造 - (3) | 医学のあゆみ 88:A443-444 |

原 著

- | | | | |
|---|------|--|-----------------------|
| 99. 緒方卓郎、木林速雄、守安邦之、高田征尚、今城 保、西江 裕、徳丸 勲、星島 昭、清藤 敬、田中早苗 | 1974 | 消化器の微細構造 - (11) ヒトの胃の表面構造 - (4) | 医学のあゆみ 88:A445-446 |
| 100. 緒方卓郎、清藤 敬、今城 保、高田征尚、守安邦之、木林速雄、西江 裕、徳丸 勲、武村 | 1974 | ラット胃粘膜切除後の再生上皮に対する合成アルペニエス後 (qefernate) の作用の電子顕微鏡的観察 | 臨床と研究 51:286-287 |
| 101. 西江 裕、緒方卓郎 | 1974 | 胆石の微細構造 - (17) 実験的胆石生成過程の走査電顕像(1) | 医学のあゆみ 91:A483-484 |
| 102. 西江 裕、緒方卓郎 | 1974 | 胆石の微細構造 - (18) 実験的胆石生成過程の走査電顕像(2) | 医学のあゆみ 91:A485-486 |
| 103. 木林速雄、緒方卓郎、郷原真彦、大家浩之、木本克彦 | 1974 | 消化器の微細構造 - (12) 広範囲小腸切除後の残存小腸粘膜の観察 | 医学のあゆみ 91:A491-492 |
| 104. 武村志延、緒方卓郎 | 1974 | Warthin腫瘍の一例とくにその微細構造について | 外科 36:108-111 |
| 105. 清藤 敬、高田征尚、緒方卓郎 | 1974 | 黄疸合併胃十二指腸潰瘍に対する迷切術の影響 | 外科 36:385-388 |
| 106. 星島 昭、村田文雄、緒方卓郎、清藤 敬、高田征尚 | 1974 | 迷走神経の微細構造と迷走神経切断後の変性再生過程の電子顕微鏡的研究 | 日本外科学会雑誌 36:1203-1205 |
| 107. 緒方卓郎 | 1975 | 胆石の微細構造 - (19) ヒトの胆石の生成過程の走査電子顕微鏡的研究 | 医学のあゆみ 92:A501-502 |
| 108. 緒方卓郎、西江 裕 | 1975 | 胆石の微細構造 - (20) ヒトの胆石の生成過程の走査電子顕微鏡的研究 | 医学のあゆみ 92:A503-504 |
| 109. 緒方卓郎 | 1975 | 胆石の微細構造 - 走査電子顕微鏡による各種胆石の観察 | 最新医学 30:948-956 |
| 110. 松山正春、緒方卓郎 | 1975 | 血管鑄型法による腫瘍の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - 1 シオノギ癌42の微細血管構築 | 医学のあゆみ 95:A583-584 |
| 111. 松山正春、緒方卓郎 | 1975 | 血管鑄型法による腫瘍の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - 2 CaHマウス乳癌の微細血管構築 - 1 | 医学のあゆみ 95:A585-586 |
| 112. 松山正春、緒方卓郎 | 1975 | 血管鑄型法による腫瘍の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - 3 CaHマウス乳癌の微細血管構築 - 2 | 医学のあゆみ 95: A587-588 |
| 113. 清藤 敬、高田征尚、緒方卓郎 | 1975 | 肝障害が潰瘍治癒におよぼす影響と迷切術の効果についての実験的研究 | 日本外科学会雑誌 76:532-536 |
| 114. 田中早苗、岡島邦雄、緒方卓郎、中川 潤 | 1975 | 大腸ポリープと癌 | 日本消化器外科学会雑誌 8:64-68 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|-------------------------------------|
| 115. Okuda T, Ogata T | 1976 | An electron microscopic study of the ciliated cells in the human gastric mucosa | Archive Histologicum Jap 39:149-156 |
| 116. 緒方卓郎 | 1976 | 胆石の微細構造 - 走査電子顕微鏡による胆石の構造や生成発育過程の観察 | 外科治療 134:375-383 |
| 117. 緒方卓郎、高尾正彦、大沢 亘 | 1976 | 走査電子顕微鏡シリーズ 臓器 胃 | 代謝 13:1-2 |
| 118. 緒方卓郎、西江 裕、木林速雄、田中早苗 | 1976 | D-36ヒトおよび実験的胆石生成過程の走査電子顕微鏡的研究 | 日本外科学会雑誌 77:263-265 |
| 119. 緒方卓郎、武村志延、清藤 敬、木林速雄、高尾正彦、徳丸 勲、奥田武彦、星島 昭、大沢 亘、松本昭郎、松山正春、田中早苗 | 1976 | 低栄養における腸管吻合治癒過程の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 日本消化器外科学会雑誌 9:27-31 |
| 120. 高尾正彦、松山正春、緒方卓郎 | 1976 | 血管鑄型法によるラット胃の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - とくに胃底腺部の微細血管構築 | 医学のあゆみ 97:A613-614 |
| 121. 高尾正彦、松山正春、緒方卓郎 | 1976 | 血管鑄型法によるラット胃の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - とくに粘液層の血管構築と A-V shunt | 医学のあゆみ 97:A615-616 |
| 122. 高尾正彦、松山正春、緒方卓郎 | 1976 | 血管鑄型法によるラット胃の血管構築の走査電子顕微鏡的観察 - とくに幽門部における前胃部の微細血管構築 | 医学のあゆみ 97:A617-618 |
| 123. 大沢 亘、緒方卓郎 | 1976 | 消化管の微細構造 - 割断法による壁細胞内面の走査電子顕微鏡的 | 医学のあゆみ 97:A619-620 |
| 124. 大沢 亘、緒方卓郎 | 1976 | 消化管の微細構造 - 壁細胞細胞間微細小管の立体的観察 | 医学のあゆみ 97:A625-626 |
| 125. 黒河達雄、緒方卓郎 | 1976 | リンパ管鑄型法によるリンパ節辺縁洞断面の観察 | 医学のあゆみ 97:A627-628 |
| 126. 奥田武彦、緒方卓郎 | 1976 | ヒトの胃にみられた線毛細胞の電顕的観察 | 医学のあゆみ 98:73-74 |
| 127. 黒河達雄、緒方卓郎 | 1976 | リンパ管鑄型法によるリンパ節辺縁洞断面の観察 | 医学のあゆみ 98:A629-630 |
| 128. 大沢 亘、緒方卓郎 | 1976 | Tetragastrin 投与後の壁細胞の走査電子顕微鏡的観察 | 医学のあゆみ 98:A631-632 |
| 129. 黒河達雄、緒方卓郎 | 1976 | リンパ管鑄型法によるリンパ節皮質部の観察 - とくに primary lymphoid nodules について | 医学のあゆみ 98:A633-634 |
| 130. 黒河達雄、緒方卓郎 | 1976 | リンパ管鑄型法によるリンパ節皮質部の観察 - とくに diffuse lymphoid tissue について(1) | 医学のあゆみ 98:A637-638 |

原 著

- | | | | |
|--|------|--|--------------------------------------|
| 131. 黒河達雄、緒方卓郎 | 1976 | リンパ管鑄型法によるリンパ節皮質部の観察 - とくに diffuse lymphoid tissue について(2) | 医学のあゆみ 98:A641-642 |
| 132. 高尾正彦、田中早苗、松山正春、清藤 敬、徳丸 勲、星島 昭、奥田武彦 | 1976 | 血管鑄型標本の走査電子顕微鏡的観察による正常および病的胃粘膜の血管構築に関する研究 | 日本外科学会雑誌 77:304-306 |
| 133. 松山正春、高尾正彦、星島 昭、大沢 亘、松本昭郎、奥田武彦、清藤 敬、緒方卓郎 | 1976 | 実験的潰瘍に対する Cetraxate の細胞学的研究 1. Shay潰瘍に対する cebrate の胃粘膜と胃の微細構築に対する影響と走査電子顕微鏡的研究 | 臨床と研究 53:3731-3735 |
| 134. 清藤 敬、高田征尚、緒方卓郎 | 1977 | 急性胃粘膜障害に対する迷切の効果について実験的研究 | 日本消化器外科学会雑誌 10:167- |
| 135. 緒方卓郎 | 1977 | 消化管ポリポージスの透過および走査電子顕微鏡的研究 | 日本消化器病学会雑誌 74:1425- |
| 136. 戸谷拓二、成末允勇、渡辺泰宏、伊藤国昭、田淵勝輔、緒方卓郎、岡島邦雄 | 1977 | 先天性胆管拡張症からの癌発生 | 日本臨床外科医学会雑誌 38:209-214 |
| 137. Osawa W, Ogata T | 1978 | A scanning electron microscopic study on the fractured rat parietal cells in resting state and after stimulation with tetragastrin | Arch Histol Jpn 41:141-155 |
| 138. Kurokawa T, Ogata T | 1980 | A scanning electron microscopic study on the lymphatic microcirculation of the rabbit mesenteric lymph node. A corrosion cast study | Acta Anat 107:439-466 |
| 139. Ogata T, Usui T | 1981 | A scanning electron microscopic study on the lymphatic microcirculatory spaces of the human lymph node | Biomedical Research 2(Suppl):181-187 |
| 140. Ogata T | 1981 | A scanning electron microscopic study on the lymphatic microcirculatory spaces of the rabbit lymph node | Biomedical Research 2(Suppl):189-192 |
| 141. 緒方卓郎 | 1982 | 食道静脈瘤に対する筋層粘膜層別食道離断術 | 外科診療 24:1443-1445 |
| 142. 緒方卓郎 | 1983 | 乳癌創縫合時における皮膚弁メッシュ形成術 | 外科治療 49:111-113 |
| 143. 荒木京二郎、緒方卓郎、岡島邦雄、安田正幸、革島康雄 | 1983 | 胃癌長期生存例の検討 - 胃所属リンパ節の反応について - | 大阪医科大学雑誌 42:53-63 |
| 144. Ogata T, Yamasaki Y | 1984 | Scanning electron microscope studies on the Schwann cells in rat motor endplates with special reference to their finger-like projections | Ach Histol Jpn 47:533-539 |

原 著

- | | | | |
|---|------|---|------------------------------|
| 145. 緒方卓郎 | 1984 | 比重差液による胆管結石除去術 | 外科診療 26:1540-1541 |
| 146. 緒方卓郎、田村精平、川村明廣、曳田知紀、前田知穂、小川恭弘、猪俣泰典、平川方久、武田明雄、橘 寿人 | 1984 | 胸部食道癌術中照射療法 - 手術術式を中心として - | 臨床外科 39:369-375 |
| 147. 公文正光、荒木京二郎、緒方卓郎、島村善行、高橋 陽、松原 了、長谷川博、小野正人 | 1984 | 肝鑄型標本とその臨床応用 - 右前区域の門脈分岐型と肝区域切除に関する考察 - | 肝胆膵 8:265-270 |
| 148. Ogata T, Yamasaki Y | 1985 | Scanning electron-microscopic studies on the three-dimensional structure of mitochondria in the mammalian red, white and intermediate muscle fibers | Cell Tissue Res 241:251-256 |
| 149. Ogata T, Yamasaki Y | 1985 | The three-dimensional structure of motor endplates in different fiber types of rat intercostal muscle | Cell Tissue Res 241:465-472 |
| 150. Ogata T, Yamasaki Y | 1985 | Scanning electron-microscopic studies on the three-dimensional structure of sarcoplasmic reticulum in the mammalian red, white and intermediate muscle fibers | Cell Tissue Res 242:461-467 |
| 151. 荒木京二郎、山崎 奨、公文正光、山下邦康、緒方卓郎、中沢慶彦、山本泰猛 | 1986 | 純粹 b型早期胃癌の病理 | 胃と腸 21:389-394 |
| 152. 荒木京二郎、山下邦康、松浦喜美夫、公文正光、山崎 奨、山中康明、緒方卓郎 | 1986 | 消化器がんに対するフトラフルエズボS(FT-207軟カプセル座剤)の臨床薬理学的検討 - 血清および組織内濃度を中心に | 新薬と臨床 35:739-742 |
| 153. Ogata T, Yamasaki Y | 1987 | High-resolution scanning electron-microscopic studies on the three-dimensional structure of mitochondria and sarcoplasmic reticulum in the different twitch muscle fibers of the frog | Cell Tissue Res 250:489-497 |
| 154. 宮崎正子、岡崎和一、鍵山惣一、坂本芳也、井戸英司、宮尾昌宏、大西三朗、山本泰朗、山本泰猛、公文正光、緒方卓郎、京谷庄二郎、服部曉昌、西岡 豊、森 康巳、伊藤薫一 | 1987 | CDDP-マイクロカプセルおよびCDDP-アルブミン小球体の肝動脈注入の試み | 醫學のあゆみ 141:495-496 |
| 155. 金子 昭、山下邦康、杉藤正典、北川尚史、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1987 | 圧挫吻合器による腸管吻合部治癒過程の実験的研究 | 最新医学 42:1762-1763 |
| 156. Ogata T | 1988 | Structure of motor endplates in the different fiber type of vertebrate skeletal muscles | Arch Histol Cytol 51:385-424 |

原 著

- | | | | |
|---|------|---|---|
| 157. Ogata T, Yamasaki Y | 1988 | Scanning electron-microscopic study on the three-dimensional structure of motor endplates of the slow (tonic) muscle fibers in the frog, <i>Rana n. nigromaculata</i> | Cell Tissue Res 252:211-213 |
| 158. Ogata T | 1988 | Morphological and cytochemical features of fiber types in vertebrate skeletal muscle | CRC Critical Reviews in Anatomy and Cell Biol 1:229-275 |
| 159. Kumon M, Ogata T, Nakatani Y, Hasegawa H | 1988 | Moules hepatiques souples en silicone | Ann Chir 39:221-223 |
| 160. Hashimoto S, Ogata T | 1988 | Blood vascular organization of the human appendix: A scanning electron microscopic study of corrosion cast | Tohoku J Exp Med 154:271-285 |
| 161. 緒方卓郎、山崎裕一 | 1988 | Aldehyde-Osmium-DMSO-Osmium法によるラットの骨格筋線維型による運動終板の立体構造の差の走査電子顕微鏡的観察 | 医生物走査電顕 17:94-95 |
| 162. 小林道也、林 卓司、緒方卓郎 | 1988 | 家兔由来多クローン性抗体に含まれる抗中間径フィラメント抗体の吸収法 - その簡易法 - | 病理と臨床 6:363-366 |
| 163. Ogata T, Yamasaki Y | 1989 | High resolution scanning electron-microscopic study on the three-dimensional structure of the sarcoplasmic reticulum in the slow (tonic) muscle fibers of the frog, <i>Rana</i> | Cell Tissue Res 255:669-672 |
| 164. Sugimoto T, Ogata T | 1989 | Scanning electron microscopic studies on the subepithelial tissue of the gastrointestinal mucosa of the rat | Arch Histol Cytol 52:257-265 |
| 165. 公文正光、松嶋政規、板原 隆、森 涉、荒木京二郎、川崎博之、山中康明、緒方卓郎 | 1989 | 肝鑄型標本による肝門部と尾状葉の解剖 | 胆と膵 10:1417-1422 |
| 166. 公文正光、別府 敬、森 涉、板原 隆、荒木京二郎、川崎博之、山中康明、緒方卓郎 | 1989 | 肝脈管正常の解剖 - 肝鑄型標本による観察 - | 腹部画像診断 9:345-350 |
| 167. Ogata T, Yamasaki Y | 1990 | High-resolution scanning electron microscopic studies on the three-dimensional structure of the transverse-axial tubular system, sarcoplasmic reticulum and intercalated disc of the rat myocardium | Anat Rec 228:277-287 |
| 168. 緒方卓郎、山崎裕一、緒方規矩雄 | 1990 | 超高分解能走査電子顕微鏡による蛋白質合成系の観察 | 医生物走査電顕 19:81-84 |
| 169. Ogata T, Yamasaki Y | 1991 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the sarcoplasmic reticulum and mitochondria of the rat intrafusal muscle fibers. Part I. The capsular sleeve region | Arch Histol Cytol 54:471-490 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|------------------------------------|
| 170. 古屋泰雄、杉本健樹、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1991 | 走査電子顕微鏡による大腸腺癌の基底膜下膠原線維網の研究 | 外科治療 64:498-499 |
| 171. 金子 昭、山下邦康、緒方卓郎 | 1991 | 圧挫式無縫吻合器AKA-2による腸管吻合の実験的研究 | 日本消化器外科学会雑誌 24:73-80 |
| 172. Ogata T, Yamasaki Y | 1992 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the sarcoplasmic reticulum and mitochondria of the rat intrafusal muscle fibers. Part II: The extracapsular region | Arch Histol Cytol 55:117-124 |
| 173. Kobayashi M, Ogata T, Araki K, Hayashi T | 1992 | Human liver regeneration after major hepatectomy | Ann Surg 216:616 |
| 174. Kawasaki H, Ogata T | 1992 | Scanning electron microscopic study on the three-dimensional structure of the collagen fibrillar framework in the chronic active hepatitis and liver cirrhosis | Tohoku J Exp Med 166:355-373 |
| 175. 北川尚史、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1992 | 超音波内視鏡像の計測による胃癌の深達度診断 | Gastroenterol Endoscopy 34:495-506 |
| 176. 氏原友三郎、長野文明、岸本誠司、緒方卓郎 | 1992 | 手術室環境整備について | 日本手術医学会誌 13:284-286 |
| 177. 小林道也、緒方卓郎、久礼三子雄、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、竹下篤範 | 1992 | 経口腸管洗浄液, Polyethylene glycol electrolyte solution (PEG) 使用100例の検討 | 基礎と臨床 26:275-280 |
| 178. Ogata T, Yamasaki Y | 1993 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopic studies on the membrane system of the parietal cells of the rat in the resting state and shortly after stimulation | Anat Rec 237:208-219 |
| 179. Ogata T, Yamasaki Y | 1993 | Ultra-high resolution scanning electron microscopic studies on the sarcoplasmic reticulum and mitochondria in various muscles: a review | Scanning Microsc 7:145-156 |
| 180. Furihata M, Ohtsuki Y, Ogoshi S, Takahashi A, Tamiya T, Ogata T | 1993 | Prognostic significance of human papillomavirus genomes (Type-16, 18) and aberrant expression of p53 protein in human esophageal cancer | Int J Cancer 54:226-230 |
| 181. Kobayashi M, Araki K, Ogata T | 1993 | Usefulness of endoscopic ultrasonography for the localization of insulinomas | Surgery 113:478 |
| 182. Furuya Y, Ogata T | 1993 | Scanning electron microscopic study of the collagen networks of the normal mucosa, hyperplastic polyps, tubular adenoma, and adenocarcinoma of the human large intestine | Tohoku J Exp Med 169:1-19 |

原 著

- | | | | |
|--|------|--|--|
| 183. Furihata M, Ohtsuki Y, Sonobe H, Araki K, Ogata T, Toki Y, Ogoshi S, Tamiya T | 1993 | Prognostic significance of simultaneous infiltration of HLA-DR-positive dendritic cells and tumor infiltrating lymphocytes into human esophageal carcinoma | Tohoku J Exp Med 169:187-195 |
| 184. 荒木京二郎、北川尚史、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1993 | 食道浸潤胃癌胃全摘後の簡便な代用胃造設術 | 手術 47:2241-2246 |
| 185. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、山本 拓、杉藤正典、林 卓司 | 1993 | 肝臓外科における残肝体積計算の簡易法 | 腹部画像診断 13:425-427 |
| 186. 氏原友三郎、長野文明、岸本誠司、緒方卓郎、岸本誠一、山口 巧 | 1993 | 電気メスによる電磁障害の検討 無線式心電計への影響 | 日本手術医学会誌 14:248-250 |
| 187. Ogata T, Araki K | 1994 | Ultra-high resolution scanning electron microscopic studies on the sarcoplasmic reticulum and mitochondria in the rat cardiac and skeletal muscle fibers | Med Electron Microsc 27:232-235 |
| 188. Yoshikawa K, Ogata T, Kobayashi M, Araki K | 1994 | Scanning electron microscopy study on the microvasculature of the human gallbladder | Dokkyo J Med Sci 21:45-52 |
| 189. Araki K, Kure M, Kobayashi M, Sugito M, Ogata T | 1994 | A new method for palliation of malignant obstructive jaundice utilizing a peritoneo-venous shunt pump | Hepato-Gastroenterol 41:38-40 |
| 190. Okazaki K, Yokoyama Y, Yamamoto Y, Kobayashi M, Araki K, Ogata T | 1994 | T cell cytotoxicity of autologous and allogeneic lymphocytes in a patient with crohn's disease | J Gastroenterol 29:415-422 |
| 191. Araki K, Kobayashi M, Ogata T. | 1994 | A scanning electron microscopic study of the three-dimensional configuration of isolated crypts from human | Med Electron Microsc 27:55-60 |
| 192. Iyoki M, Araki K, Ogata T | 1994 | Scanning electron microscopic study of the three-dimensional structure of the collagen networks of gastric cancer | Scanning Microsc 8:365-374 |
| 193. Morita M, Ogata T, Araki K | 1994 | Scanning electron microscopic study of the collagen sheath of the human thyroid gland and its disorder | Scanning Microsc 8:695-704 |
| 194. 松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭、川崎博之、小林道也、直木一朗、並川努、安藤 徹、山本 拓、伊与木増喜 | 1994 | 小児科領域におけるCefodizimeの血清中、組織内濃度の検討 | Jpn J Antibiotics 47:1071-1076 |
| 195. Ogata T, Araki K, Matsuura k, Kobayashi M, Inomata Y, Ogawa Y, Yoshida S | 1995 | A 10-year experience of intraoperative radiotherapy for gastric carcinoma and a new surgical method | Int J Radiat Oncol Biol Physics 32:341-347 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|--------------------------------------|
| 196. Ogata T | 1995 | Electron microscopic study on the regenerating epithelium of the chronic gastric ulcer | J Submicrosc Cytol Pathol 27:171-182 |
| 197. Yamanaka Y, Araki K, Ogata T | 1995 | Three-dimensional organization of lymphatics in dog small intestine a scanning electron microscopic study on corrosion casts | Arch Histol Cytol 58:465-474 |
| 198. Araki K, Ogata T, Kobayashi M, Yatani R | 1995 | A morphologic study on the histogenesis of human colorectal hyper-plastic polyps | Gastroenterology 109:1468-1474 |
| 199. Kure M, Araki K, Ogata T | 1995 | Scanning tunneling microscopic study of osmium-impregnated collagen | J Electron Microsc 44:207-211 |
| 200. Araki K, Kobayashi M, Ogata T | 1995 | A scanning electron microscopic study of basal laminapores on human colonic mucosas | Med Electron Microsc 28:17-22 |
| 201. Araki K, Ogata T | 1995 | Three-dimensional configuration of crypts of different types of colorectal adenomas | Scanning Microsc 9:149-158 |
| 202. 川崎博之、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1995 | 肝における膠原線維骨格の三次元構築の走査電子顕微鏡的研究 (第1報 - 正常肝) | 肝胆膵 30:224-228 |
| 203. 川崎博之、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1995 | 肝における膠原線維骨格の三次元構築の走査電子顕微鏡的研究 (第2報 - 慢性肝疾患) | 肝胆膵 30:721-727 |
| 204. 荒木京二郎、山本 拓、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1995 | 術中局所動注化学療法 (ILIC) による進行胃癌の治療について | 癌と化学療法 22:1531-1534 |
| 205. 荒木京二郎、古屋泰雄、松浦喜美夫、小林道也、伊与木増喜、杉本健樹、金子 昭、緒方卓 | 1995 | 腺管単離法および各種大腸疾患における腺管の三次元的形態 - 走査電子顕微鏡的観察 - | 日本臨床電子顕微鏡学会誌 28:167-174 |
| 206. Ogata T, Yamasaki Y | 1996 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopy of the continuity of cytoplasmic and luminal membranes in frog oxyntic cells | Anat Rec 245:559-567 |
| 207. Ogata T, Araki K | 1996 | Electron microscopic study of the morphological changes of gastric mucous cell induced by <i>Helicobacter pylori</i> | J Submicrosc Cytol Pathol 28:255-264 |
| 208. Sugito M, Araki K, Ogata T | 1996 | Three-dimensional organization of lymphatics in the dog stomach: A scanning electron microscopic study of corrosion casts | Arch Histol Cytol 59:61-70 |

原 著

- | | | | |
|---|------|---|---------------------------------|
| 209. Matsuura K, Araki K, Furuya Y, Kobayashi M, Sugimoto T, Ogata T, Isozaki H, Nakaji S | 1996 | Regional differences in microvascular architecture in the rat proximal and distal colon: A scanning electron microscope study of vascular casts | Hirosaki Med J 48:36-41 |
| 210. Araki K, Furuya Y, Kobayashi M, Ogata T, Isozaki H | 1996 | Comparison of mucosal microvasculature between the proximal and distal human colon | J Electron Microsc 45:202-206 |
| 211. 公文正光、遠近直成、森田達仁、久保田敬、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1996 | 尾状葉の解剖と診断 肝鋳型標本とその臨床応用 - キャストからみた尾状葉の立体構築 - | 外科 58:392-400 |
| 212. 山本 拓、緒方卓郎、荒木京二郎 | 1996 | 術中局所動注化学療法 (ILIC) の抗腫瘍効果についての実験的研究 | 日本癌治療学会誌 31:143-151 |
| 213. 氏原友三郎、長野文明、岸本誠司、緒方卓郎、近藤康夫、高島隆晃 | 1996 | セントラル方式の無菌RO精製水製造供給システムについて | 日本手術医学会誌 17:70-72 |
| 214. Ogata T, Yamasaki Y | 1997 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopy of mitochondria and sarcoplasmic reticulum arrangement in human red, white, and intermediate muscle fibers | Anat Rec 248:214-223 |
| 215. Ogata T | 1997 | Duodenal and gastric cell regenerating epithelia on margins of human duodenal ulcer and presence of H. pylori - an electron microscopic study | Histol Histopathol 12:57-68 |
| 216. Ogata T | 1997 | Gastric oxyntic cell structure as related to secretory | Histol Histopathol 12:739-754 |
| 217. Yamasaki Y, Furuya Y, Araki K, Matsuura K, Kobayashi M, Ogata T | 1997 | Ultra-high-resolution scanning electron microscopy of the sarcoplasmic reticulum of the rat atrial myocardial cells | Anat Rec 248:70-75 |
| 218. Kobayashi A, Araki K, Ando T, Ogata T | 1997 | An immuno- and enzyme cytochemical study of the H ⁺ -K ⁺ ATPase in human parietal cells after administration of tetragastrin and omeprazole | Arch Histol Cytol 60:205-214 |
| 219. 安藤 徹、荒木京二郎、小林道也、小林昭広、緒方卓郎 | 1997 | 休止状態およびテトラガストリン刺激後におけるラット胃壁細胞のH ⁺ -K ⁺ ATPaseの免疫細胞化学的ならびに酵素細胞化学的研究 | 日本臨床電子顕微鏡学会雑誌 30:67-77 |
| 220. Ogata M, Araki K, Ogata T | 1998 | An electron microscopic study of Helicobacter pylori in the surface mucous gel layer | Histol Histopathol 13:347-358 |
| 221. Namikawa T, Araki K, Ogata T | 1998 | Localization of cytoskeletal filaments during membrane rearrangement in rat parietal cells stimulated with gastrin | Arch Histol Cytol 61:47-56 |
| 222. Naoki I, Araki K, Kobayashi A, Yamasaki Y, Ogata T | 1998 | Electron cytochemical observations on membrane redistribution in rat and human parietal cells after | Med Electron Microsc 31:128-134 |

原 著

- | | | | |
|--|------|---|------------------------------------|
| 223. Ogata T | 2000 | Mammalian tuft (brush) cells and chloride cells of other vertebrates share a similar structure and cytochemical reactivities | Acta Histochem Cytochem 33:439-449 |
| 224. Ogata T, Yamasaki Y | 2000 | Scanning EM of resting gastric parietal cells reveals a network of cytoplasmic tubules and cisternae connected to the intracellular canaliculus | Anat Rec 258:15-24 |
| 225. Ogata T, Yamasaki Y | 2000 | Morphological studies on the translocation of tubulovesicular system toward the intracellular canaliculus during stimulation of the gastric parietal cell | Microsc Res Tech 48:282-292 |
| 226. Ogata T | 2001 | Three-dimensional organization of mammalian skeletal muscle membrane systems | Ital J Anat Embryol 106:167-174 |
| 227. Ogata T, Yamasaki Y | 2001 | The tubulovesicular system of gastric parietal cells is connected to the intracellular canaliculus, rough endoplasmic reticulum and Golgi complex. A study by high resolution scanning electron microscopy | Ital J Anat Embryol 106:323-328 |
| 228. Ogata T | 2005 | Sodium bicarbonate secretion indicated by ultrastructural cytochemical localization of HCO ₃ ⁻ , Cl ⁻ , and Na ⁺ ions on rat bile duct brush cells | Med Mol Morphol 38:243-250 |
| 229. Ogata T | 2006 | Bicarbonate secretion by rat bile duct brush cells indicated by immunohistochemical localization of CFTR, anion exchanger AE2, Na ⁺ /HCO ₃ ⁻ cotransporter, carbonic anhydrase II, Na ⁺ /H ⁺ exchangers NHE1 and NHE3, H ⁺ /K ⁺ -ATPase, and Na ⁺ /K ⁺ -ATPase | Med Mol Morphol 39:44-48 |
| 230. Okamoto K, Hanazaki K, Akimori T, Okabayashi T, Okada T, Kobayashi M, Ogata | 2008 | Immunohistochemical and electron microscopic characterization of brush cells of the rat cecum | Med Mol Morphol 41:145-150 |

症 例 報 告

- | | | | |
|---|------|--|--------------------------|
| 1. 林 乾爾、畠山哲郎、緒方卓郎 | 1957 | 頭蓋底に発生せる背索腫の二例 | 脳と神経 9:641-645 |
| 2. 田中早苗、緒方卓郎、三原浩三、松本富雄 | 1968 | CG201剤の外科域殊に術後愁訴に対する使用経験 | 新薬と臨床 17:1709-1711 |
| 3. 緒方卓郎、河島隆男、日野博夫、村田文雄、松本富雄、三原浩三、津田博文 | 1970 | 開腹術後創哆開に対する一層縫合法の経験 | 手術 24:249-252 |
| 4. 荒木京二郎、緒方卓郎、清藤 敬 | 1982 | 胆嚢腫瘍の2例 | 南大阪病院医学雑誌 30:179-186 |
| 5. 白井 隆、緒方卓郎、清藤 敬、荒木京二郎、田村精平、高田早苗、松浦喜美夫、井関 恒、川村明廣、山中康明、山崎 奨 | 1982 | 膵管への瘻孔形成を伴った膵膿瘍症例 | 日本臨床外科医学会雑誌 43:1121-1126 |
| 6. 荒木京二郎、田村精平、山崎 奨、緒方卓郎、五島正規、松井昭彦、寺田鉦一 | 1983 | 膵リンパ管腫の1例 - 本邦における膵の非上皮性良性腫瘍の検討 | 癌の臨床 29:1706-1710 |
| 7. 園部 宏、円山英昭、倉光 誠、緒方卓郎、松浦喜美夫 | 1984 | 充実性肝過誤腫 (bile ductal fibroadenomatous type) の1例 | 肝臓 25:1318-1325 |
| 8. 藤川正直、岡崎和一、沖野 実、大西三朗、伊藤憲一、金子 昭、公文正光、緒方卓郎、吉田 | 1984 | 血管造影上 A-P Shunt 門脈枝閉塞像を示しRI Angiography が診断上有用であった肝巨大海綿状血管腫の1例 | 肝胆膵 8:707-713 |
| 9. 山崎 奨、緒方卓郎、荒木京二郎、公文正光、川村明廣、山中康明、園部 宏 | 1986 | 直腸S状部に発生した腺扁平上皮癌の1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 47:500-507 |
| 10. 北川久美子、後藤幸策、西田政明、是沢俊輔、園部 宏、佐々木匡秀、浜田文彦、喜多村勇、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1986 | 穿刺骨髄像が重要な診断根拠となった副腎神経節芽腫の一例 | 臨床病理 34:850-854 |
| 11. 荒木久美子、川上 文、倉繁隆信、喜多村勇、松浦喜美夫、緒方卓郎、園部 宏 | 1987 | 甲状腺癌の6才女児例 | 小児科診療 50:1578-1581 |
| 12. 鍵山惣一、岡崎和一、田村 智、坂本芳也、中田博文、森田雅範、中沢慶彦、山本泰朗、公文正光、緒方卓郎 | 1987 | 左肝管の著明な嚢胞拡張と肝左葉の著明な萎縮を伴った先天性総胆管嚢腫の1例 | 胆と膵 8:999-1005 |
| 13. 田村 智、岡崎和一、森田雅範、北島裕慎、鍵山惣一、坂本芳也、中沢慶彦、山本泰朗、山本泰猛、伊藤憲一、阿部哲朗、緒方卓郎 | 1987 | Small liver cancer を合併した小網リンパ管腫の1例 | 日本消化器病学会雑誌 84:1325-1330 |

症 例 報 告

- | | | | |
|---|------|---|----------------------------------|
| 14. 松浦喜美夫、緒方卓郎、金子 昭、曳田知紀、小林道也、荒木京二郎、川上 文、荒木久美子、倉繁隆信 | 1987 | 6歳女兒甲状腺癌の1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 48:341-345 |
| 15. 山中康明、山崎 奨、曳田知紀、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1987 | 多発性内分泌腺腫瘍症 a型の1例と本邦報告例の検討 | 日本臨床外科医学会雑誌 48:928-934 |
| 16. Sonobe H, Ohtsuki Y, Enzan H, Matsuura K, Kaneko A, Ogata T | 1988 | An unusual case of solid hamartoma in the liver | Acta Pathol Jpn 38:75-82 |
| 17. 森田雅範、北島裕慎、岩村伸一、秋澤玲子、門脇 徹、鍵山惣一、田村 智、坂本芳也、中田博文、中沢慶彦、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1988 | 全周性隆起病変を呈した mucosal prolapse syndrome の一例 | Gastroenterol Endosc 30:992-1010 |
| 18. 河合加与子、友田隆士、利根洋一、脇口 宏、倉繁隆信、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1989 | 未熟児新生児 排便障害がなく、敗血症を思わせる高度の炎症反応を呈し、診断に苦慮したHirschsprung病の1例 | 小児科臨床 42:1256-1260 |
| 19. 西村昭男、辻 寧重、勝木良雄、安田隆義、金子 昭、緒方卓郎、山下邦康 | 1990 | 圧挫リングによる腸管吻合部治癒過程の検討(第2報) | 最新医学 45:2094-2096 |
| 20. 宮田 彰、森田雅範、西森 功、田村 智、中田博文、山本泰猛、緒方卓郎、岸本誠司、森木 | 1990 | 空腸転移を来した上顎洞悪性黒色腫の一症例 | 腸疾患の臨床 1・2:15-21 |
| 21. 金子 昭、緒方卓郎、杉藤正典、川崎博之、北川尚史、小林道也、久礼三子雄、阿部哲朗、松浦喜美夫、荒木京二郎、坂本芳也、山本泰猛 | 1991 | 早期十二指腸癌と早期胃癌による同時性重複癌の1例 | 外科診療 33:1639-1642 |
| 22. 小林道也、緒方卓郎、金子 昭、川崎博之、松浦喜美夫、荒木京二郎、竹下篤範 | 1992 | 経口腸管洗浄液 Golytely服用が契機と考えられる癒着性イレウスの2例 | 消化器内視鏡 4: 1689-1692 |
| 23. 高野 篤、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、吉川 健 | 1992 | 腸管病変をともなった中毒性表皮壊死症の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 25:170-173 |
| 24. 小林道也、緒方卓郎、浜田伸一、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎 | 1992 | 十二指腸に浸潤した肝細胞癌の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 25:2808-2812 |
| 25. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、中村生也、白石哲夫、阿部哲朗 | 1992 | 心筋梗塞に併発した副甲状腺機能亢進症の1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 53:1104-1107 |

症 例 報 告

- | | | | |
|---|------|--|--------------------------|
| 26. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、高野 篤、松島政規、大海研二郎、円山英昭、北川中行 | 1993 | 肝細胞腺腫の1例 | 医学と薬学 29:948-950 |
| 27. 江口泰右、宗石秀典、久保西一郎、坂本貴志、森 惟明、小林道也、緒方卓郎、三好勇夫 | 1993 | T細胞性悪性リンパ腫にTurcot症候群を合併した1例 | 癌の臨床 39:625-628 |
| 28. 川崎博之、小林道也、浜田伸一、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1993 | 集学的治療が著効を示した肝直接浸潤をともなう切除不能結腸癌の1例 | 癌の臨床 39:1171-1176 |
| 29. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、大拙祐治、原 郁夫、土田均、竹下篤範 | 1993 | 子宮腺筋症の直接浸潤により直腸狭窄を生じた1例 | 外科 55:326-328 |
| 30. 川崎博之、浜田伸一、直木一朗、西谷周作、小林道也、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛 | 1993 | 総胆管末端部の完全閉塞をきたした良性胆管狭窄の1例 | 外科診療 35:379-385 |
| 31. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭、浜田伸一、安藤 徹 | 1993 | 直腸癌に合併した閉塞性大腸炎の1例 | 外科診療 35:641-644 |
| 32. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、川崎博之、遠近直成、安藤 徹 | 1993 | 胃癌による癌性髄膜炎の1例 | 外科診療 35:789-793 |
| 33. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、岡崎和一、山本泰猛、岡林一夫 | 1993 | 脾性腹水を呈した脾仮性嚢胞の1例 | 外科診療 35:1059-1062 |
| 34. 荒木京二郎、杉藤正典、別府 敬、小林道也、緒方卓郎 | 1993 | 末期癌機械的黄疸の簡便な減黄術 - V-Pシャントチューブによる治療の一例 - | 外科治療 68:1184-1187 |
| 35. 並川 努、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、川崎博之、小林道也、杉藤正典、高野 篤、吉川 健 | 1993 | 巨大なリンパ節転移を伴った破裂性肝細胞癌の1治療例 | 手術 47:575-579 |
| 36. 川崎博之、荒木京二郎、浜田伸一、尾形雅彦、山本 拓、杉本健樹、緒方卓郎 | 1993 | 肝細胞癌にて拡大右葉切除術施行後、両側肺転移をきたし、集学的治療にて長期生存中の1例 | 消化器外科 16:1603-1610 |
| 37. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、杉藤正典、山本 拓、竹下篤範 | 1993 | 肺癌転移による小腸穿孔の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 26:952-956 |
| 38. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、遠近直成、安藤 徹、大海研二郎 | 1993 | 盲腸原発悪性リンパ腫の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 26:2372-2376 |

症 例 報 告

- | | | | | |
|-----|--|------|---|--------------------------|
| 39. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、北川尚史、川崎博之、金子 昭、氏原孝司、吉川 健 | 1993 | エコー内視鏡により局在診断可能であった小インスリノーマの1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 54:1318-1322 |
| 40. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、山本 拓、氏原孝司、安藤 徹、遠近直成、金子 昭、川崎博之、川村達夫 | 1993 | 胃転移巣が linitis plastica 様病変を呈した炎症性乳癌の1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 54:2043-2047 |
| 41. | 川崎博之、浜田伸一、直木一朗、小林道也、上岡教人、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1993 | 急性再燃に因る広範な後腹膜膿瘍をエコー下穿刺ドレナージにて治癒しえた慢性膵炎の1例 | 日本臨床外科医学会雑誌 54:2655-2659 |
| 42. | 田村 智、佐藤謙一郎、紀野純子、小野寺真智、横山雄一、森田雅範、中澤慶彦、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1993 | 胃潰瘍手術20年後に診断された残胃吻合部 b型早期胃癌の1例 - 魚骨 n 穿通による肝膿瘍を合併した希少症例 - | 腹部画像診断 13:147-152 |
| 43. | 川崎博之、荒木京二郎、浜田伸一、小林道也、杉本健樹、緒方卓郎 | 1993 | 右肝動脈後下行枝，右結腸動脈の3本の腫瘍血管を有する肝外発育型（突出型）肝癌の1例 | 腹部画像診断 13:331-335 |
| 44. | 小林道也、荒木京二郎、河合秀二、川崎博之、山田光俊、藤井智代子、土居義典、緒方卓郎 | 1994 | 術後感染性心内膜炎をきたした小胆管癌の1例 | 外科 56:878-882 |
| 45. | 川崎博之、尾形雅彦、間島國博、久礼三子雄、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1994 | 原因不明の胃 Vanishing Tumor の1例 | 外科診療 36:1283-1287 |
| 46. | 小林道也、荒木京二郎、河合秀二、川崎博之、佐田真理子、緒方卓郎 | 1994 | 肝外発育型肝血管腫の1例 | 外科診療 36:1299-1304 |
| 47. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、浜田伸一、山本真也、安藤 徹 | 1994 | 腹腔内出血を来たした出血性膵仮性嚢胞の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 27:912-916 |
| 48. | 小林道也、荒木京二郎、小濱祥均、川崎博之、河合秀二、緒方卓郎 | 1994 | 高度な陳旧性出血をともなった肝内胆管嚢胞腺腫の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 27:2248-2252 |
| 49. | 川崎博之、森田雅夫、駄場中研、浜田伸一、山本 拓、久礼三子雄、小林道也、河合秀二、荒木京二郎、緒方卓郎、久 直史、松田勇蔵 | 1994 | 肝硬変および肝細胞癌に合併した前上膵十二指腸動脈領域の Angiodysplasia の1例 | 腹部画像診断 14:577-582 |
| 50. | 並川 努、川村明廣、橋本祥恪、古屋泰雄、弘井 誠、緒方卓郎 | 1994 | 嚢胞状変性を伴った右腋窩部巨大神経鞘腫の1例 | 臨床外科 49:375-378 |
| 51. | 荒木京二郎、伊与木増喜、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎、近藤真一、高田征尚、有沢豊武 | 1994 | 正露丸大量服用が誘因と思われる小腸壊死の1例 | 臨床消化器内科 9:741-745 |

症 例 報 告

- | | | | |
|---|------|--|--------------------------|
| 52. 小林道也、荒木京二郎、河合秀二、川崎博之、山田光俊、藤井智代子、土居義典、緒方卓郎 | 1995 | 術後感染性心内膜炎をきたした小胆管癌の1例 | 外科 56:878-882 |
| 53. 小林道也、荒木京二郎、河合秀二、森木利昭、田村精平、緒方卓郎 | 1995 | 食道原発腺扁平上皮癌の1例 | 外科診療 37:615-619 |
| 54. 山本真也、荒木京二郎、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1995 | 乳頭部腺腫内癌の1例 | 外科治療 73:607-610 |
| 55. 川崎博之、荒木京二郎、阿部哲朗、近藤雄二、計田一法、白石哲夫、秋森豊一、山中幸二、浜田伸一、高野 篤、中村生也、久礼三子雄、金子 昭、緒方卓郎 | 1995 | 肝細胞癌にて右葉切除術施行後、左副腎転移をきたし、副腎摘出術にて長期生存中の1例 | 消化器外科 18:1591-1597 |
| 56. 小林道也、荒木京二郎、中村生也、柏井英助、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1995 | 十二指腸狭窄を呈した groove pancreatitis の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 28:2290-2294 |
| 57. 河合秀二、荒木京二郎、小林道也、川崎博之、緒方卓郎、森木利昭 | 1995 | 有茎性胃外性発育を呈した胃平滑筋肉腫の1例 | 腹部画像診断 15:80-83 |
| 58. 伊与木増喜、荒木京二郎、吉本 忠、田村精平、緒方卓郎 | 1995 | Z-ステントが有用であった吻合部癌性狭窄の1例 | 腹部画像診断 15:885-888 |
| 59. 山本真也、小林道也、松浦喜美夫、荒木京二郎、久 直史、緒方卓郎 | 1995 | CEAが高値を示した虫垂粘液嚢胞腺腫の1例 | 腹部画像診断 15:985-988 |
| 60. 金子 昭、荒木京二郎、松浦喜美夫、上岡教人、小林道也、杉本健樹、山本 拓、緒方卓郎 | 1996 | 腎細胞癌術後肝と脾・軟部組織に異時性に転移した1例 | 外科 58:1029-1032 |
| 61. 並川 努、川村明廣、橋本祥恪、古屋泰雄、緒方卓郎 | 1996 | 胆嚢壁に穿通し胆嚢動脈より大量出血をきたした十二指腸潰瘍の1例 | 外科 58:1158-1160 |
| 62. 安藤 徹、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子昭、谷口 寛、緒方卓郎 | 1996 | 肝の Inflammatory Pseudotumor の1例 | 外科診療 38:103-107 |
| 63. 直木一朗、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子昭、杉本健樹、緒方卓郎 | 1996 | 小児大網裂孔ヘルニアの1治療例 | 外科診療 38:223-228 |
| 64. 並川 努、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子昭、小林道也、緒方卓郎 | 1996 | Hirschsprung病の家族内発生例 | 外科診療 38:361-365 |

症 例 報 告

- | | | | |
|--|------|---|--------------------------|
| 65. 金子 昭、荒木京二郎、小林道也、高野 篤、
安藤 徹、直木一朗、並川 努、緒方卓郎 | 1996 | 上行結腸に発生した神経鞘腫の1例 | 外科診療 38:367-369 |
| 66. 中村生也、荒木京二郎、小林道也、柏井英助、
松浦喜美夫、緒方卓郎、森木利昭 | 1996 | 十二指腸および総胆管に穿破した粘液産生膵腫瘍の1切除例 | 消化器外科 19:507-512 |
| 67. 高野 篤、荒木京二郎、杉本健樹、秋森豊一、
緒方卓郎、大拙祐治、園部 宏、林 暢紹 | 1996 | 肉腫様肝細胞癌の1例 | 消化器外科 19:1873-1878 |
| 68. 小林道也、松浦喜美夫、荒木京二郎、柏井英助、
遠近直成、中村生也、緒方卓郎 | 1996 | 大腸イレウスを初発症状とした膵尾部癌長期生存の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 29:756-760 |
| 69. 尾形雅彦、荒木京二郎、浜田伸一、小林道也、
松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1996 | 甲状腺にサルコイドーシス病変をみた腺腫様甲状腺腫の1例 | 臨床外科 51:369-372 |
| 70. 杉本健樹、荒木京二郎、松浦喜美夫、古屋泰雄、
緒方卓郎、園部 宏 | 1996 | 上行結腸黄色肉芽腫の1例 | 臨床外科 51:511-514 |
| 71. 柏井英助、荒木京二郎、計田一法、小林道也、
中村生也、緒方卓郎 | 1996 | 上腰ヘルニアの1治験例 | 臨床外科 51:515-518 |
| 72. Matsuura K, Ogata T, Araki K, Kaneko A,
Kobayashi M, Sugimoto T | 1997 | Thyroid cancer in children: Report of three cases and a review of the Japanese literature | Surgery Today 27:961-965 |

学会発表

- 教授就任以前 -

特別講演

- | | | | |
|---|---------|---|--|
| 1. Ogata T | 1971.00 | Cytological features of the red, white and intermediate fibers and their motor endplates | 第2回国際筋疾患学会、招待講演、パース、オーストラリア |
|
 | | | |
| シンポジウム | | | |
| 1. 河島隆男、中村正人、竹内鬼三郎、緒方卓郎、西本 詮 | 1965.10 | 脳腫瘍の酵素活性とその臨床所見との関連性 | 第24回日本脳神経外科学会、シンポジウム、東京 |
| 2. 緒方卓郎、松田 弘、村田文雄 | 1970.10 | 胃潰瘍の治癒再発再燃過程の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 第12回日本消化器病学会秋季大会、シンポジウム、金沢 |
| 3. 緒方卓郎 | 1971.04 | 走査電子顕微鏡による小腸粘膜の観察 | 第57回日本消化器病学会学術集会、シンポジウム、東京 |
| 4. 緒方卓郎、今城 保 | 1972.04 | 慢性胃炎の電子顕微鏡的観察とくに内分泌細胞の動態について | 第58回日本消化器病学会学術集会、シンポジウム、東京 |
| 5. 緒方卓郎、武村志延、三原浩三、松田 弘 | 1972.07 | 消化管損傷治癒過程の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 第5回日本消化器外科学会定期学術総会、シンポジウム、東京 |
| 6. 緒方卓郎、今城 保 | 1972.00 | 腸上皮化生の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 第19回胃癌研究会、シンポジウム、鹿児島 |
| 7. 緒方卓郎 | 1972.00 | 病的消化器粘膜における内分泌細胞の観察 | 胃腸膵内分泌学の細胞生理学的研究公開講演会、シンポジウム、新潟 |
| 8. Ogata T | 1973.00 | A histochemical electron microscopic and scanning electron microscopic study on the polypoid lesions of the stomach | 1st panpacific & Asian Congress Endoscopy, Kyoto |
| 9. 緒方卓郎 | 1974.03 | ヒトおよび実験的胆石の超微細構造と成発育機転に関する走査電子顕微鏡的研究 | 第60回日本消化器病学会学術集会、シンポジウム、名古屋 |
| 10. 緒方卓郎、武村志延、清藤 敬、木村速雄、高尾正彦、徳丸 勲、奥田武彦、星島 昭、大沢 亘、松木昭郎 | 1975.07 | 低栄養における腸管吻合治癒過程の組織化学的電子顕微鏡的研究 | 第8回日本消化器外科学会定期学術総会、シンポジウム、青森 |
| 11. 緒方卓郎 | 1977.04 | 消化管ポリポージスの透過および走査電子顕微鏡的研究 | 第63回日本消化器病学会学術集会、シンポジウム、東京 |

学会発表

パネルディスカッション

- | | | | |
|--------------|---------|-----------------------|------------------------------------|
| 1. 緒方卓郎 | 1971.00 | 走査電子顕微鏡による膵石症の研究 | 第2回日本膵臓病研究会年次大会、
パネルディスカッション、東京 |
| 2. 緒方卓郎 | 1975.00 | 正常および病的胃粘膜の走査電子顕微鏡的研究 | 第19回日本医学会総会、パネルディ
スカッション、京都 |
| 3. 緒方卓郎 | 1975.00 | 正常および病的腸管の走査電子顕微鏡的研究 | 第19回日本医学会総会、パネルディ
スカッション、京都 |
| 4. 緒方卓郎、西江 裕 | 1975.00 | ヒトおよび実験的胆石の走査電子顕微鏡的研究 | 第19回日本医学会総会、パネルディ
スカッション、京都 |

一般演題

- | | | | |
|--|---------|--|---------------------------|
| 1. 緒方卓郎、森 昌彦 | 1961.11 | A histochemical study on the muscle of various animals.
Part I. Activities of oxidative enzymes and phosphorylase
in muscle fibers | 第2回組織化学会学術集会、東京 |
| 2. 緒方卓郎、森 昌彦 | 1961.11 | A histochemical study on the muscle of various animals.
Part II. Activities of hydrolytic enzymes in muscle fibers | 第2回組織化学会学術集会、東京 |
| 3. 緒方卓郎、三原浩三、村田文雄 | 1970.09 | 実験的ラット胃粘膜再生上皮の組織化学的電顕的研究 | 第2回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、東京 |
| 4. 緒方卓郎、村田文雄 | 1970.09 | 胆石の走査電子顕微鏡的研究 | 第2回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、東京 |
| 5. 高田征尚、清藤 敬、今城 保、守安邦之、緒
方卓郎 | 1973.08 | The effect of truncal vagotomy on the fine structure of
the rat gastric mucosa | 第5回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、群馬 |
| 6. 守安邦之、今城 保、高田征尚、木林達雄、田
中早苗、緒方卓郎 | 1973.08 | The ultrastructure of the gastroduodenal mucosa in
hypopsectomised rat | 第5回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、群馬 |
| 7. 緒方卓郎、村田文雄、高田征尚、木林達雄、守
安邦之、今城 保、西江 裕、徳丸 勲、星島
昭、清藤 敬、田中早苗 | 1974.09 | A transmission and scanning electron microscopic study on
the atypical epithelial lesions of the stomach | 第6回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、大阪 |
| 8. 緒方卓郎、高田征尚、今城 保、守安邦之 | 1974.09 | Electron microscopic study of the rat gastric mucosa
induced by nicotine and alcohol | 第6回日本臨床電子顕微鏡学会学術
集会、大阪 |

学 会 発 表

9. 西江 裕、緒方卓郎	1974.09	Studies on the formation of cholesterol crystals and gallstones in bile of the mouse	第6回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、大阪
10. 木林速雄、緒方卓郎	1975.09	An electron microscopic study on chronic pancreatitis	第7回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、福岡
11. 星島 昭、村田文雄、緒方卓郎	1976.09	An electron microscopic study on degenerative and regenerative changes in the rabbit vagal nerves after incomplete vagotomy	第8回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、名古屋
12. 高尾正彦、松山正春、緒方卓郎	1976.09	Microcirculation of normal and pathological stomachs a scanning electron microscopic study of vascular cast	第8回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、名古屋
13. 大沢 亘、緒方卓郎	1976.09	A scanning electron microscopic observation of the intracellular structure of the fundic gland cells of the rat stomach	第8回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、名古屋
14. 松本昭郎、緒方卓郎	1976.09	A cytochemical study of the absorption of peroxidase through the rat and human gastrointestinal tracts	第8回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、名古屋
15. 奥田武彦、緒方卓郎	1976.09	An electron microscopic study of the ciliated cells in the human gastric mucosa	第8回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、名古屋
16. 奥田武彦、松本昭郎、緒方卓郎	1977.09	An electron microscopic study of caveolated cells	第9回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、札幌
17. 松本昭郎、田中明輔、緒方卓郎	1977.09	A cytochemical study on the absorption of peroxidase and colloidal iron through the gastric glands	第9回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、札幌

他 121演題

- 教授就任以降 -

会長講演

1. 緒方卓郎	1994.10	骨格筋繊維型の電子顕微鏡的研究	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、会長講演、高知
---------	---------	-----------------	-----------------------------

特別講演

1. 緒方卓郎、山崎裕一	1990.10	超高分解能走査電子顕微鏡による生物物質の観察	第35回日本電子顕微鏡学会シンポジウム、瀬藤賞受賞講演、高知
--------------	---------	------------------------	--------------------------------

学会発表

2. 緒方卓郎	1992.09	正常及び病的胃の超微形態	第24回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、特別講演、岡山
シンポジウム			
1. 公文正光、緒方卓郎	1985.11	肝鑄型標本からみた肝区域	第27回日本消化器病学会大会、シンポジウム、松山
2. 久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.11	食道静脈瘤の硬化療法単独治療法と摘脾術 + Hassab手術 / 硬化療法併用治療法の比較	第60回日本消化器内視鏡学会中国四国地方会、シンポジウム、松山
3. 緒方卓郎、荒木京二郎	1993.09	心筋と骨格筋の比較 - 機能との関連 -	第25回臨床電子顕微鏡学会学術集会、シンポジウム、松本
4. 荒木京二郎、緒方卓郎	1994.05	胃癌の術中照射療法 (IORT)	第61回日本消化器病中国四国支部例会、シンポジウム、消化器病学最近の進歩、岡山
5. 荒木京二郎、古屋泰雄、緒方卓郎	1994.10	腺管単離法と細胞消化法による各種大腸病変の立体的組織構造の検討	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、シンポジウム、高知
6. 緒方卓郎、荒木京二郎、尾形雅彦	1995.09	Helicobacter pylori の粘液細胞障害の電子顕微鏡的研究	第27回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、シンポジウム、岡山
7. 緒方卓郎、尾形雅彦、山崎裕一	1996.10	Helicobacter pylori の粘膜細胞障害の電子顕微鏡的研究	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、シンポジウム、大阪
ワークショップ			
1. 小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎、松浦喜美夫、久礼三子雄、杉藤正典、伊与木増喜	1992.10	術中限局性動注化学療法について	第67回中国四国外科学会 ワークショップ、高知
2. 緒方卓郎、荒木京二郎、山崎裕一	1998.09	胃酸分泌について (壁細胞の分泌形態)	第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、ワークショップ、東京
国際学会			
1. Ogata T, Yamasaki Y	1984.08	The three-dimensional ultrastructure of mammalian red, white and intermediate muscle fibers. I.The mitochondria.	3rd International Cell Biology, Tokyo
3. Ogata T, Yamasaki Y	1984.08	The three-dimensional ultrastructure of mammalian red, white and intermediate muscle fibers. III.The motor	3rd International Cell Biology, Tokyo

学 会 発 表

4. Ogata T, Yamasaki Y	1986.08	High-resolution scanning electron microscope study on the three-dimensional structure of mitochondria and sarcoplasmic reticulum of frog different twitch muscle	11th International Congress Electron Microscopy, Kyoto
5. Ogata T, Yamasaki Y	1986.08	High-resolution scanning electron microscopic study on the three-dimensional structure of mitochondria and sarcoplasmic reticulum in the frog different slow (tonic)	11th International Congress Electron Microscopy, Kyoto
6. Ogata T, Yamasaki Y	1986.08	High-resolution scanning electron microscope study on the three-dimensional structure of motor endplates of the frog different twitch muscle fibers	11th International Congress Electron Microscopy, Kyoto
7. Ogata T, Yamasaki S, Araki K	1988.09	Histological and electron microscopic study on the effect of intraoperative irradiation on the hepatic artery, portal vein and bile duct of the dog	Intraoperative Radiation Therapy (IORT), 2nd International Symposium, Austria
8. Ogata T, Matsuura K, Sugimoto T, Ogawa Y, Inomata T, Maeda T	1988.09	Combined surgical and intraoperative radiation therapy of the cancer of the digestive organs	IORT, 2nd International Symposium, Austria
9. Araki K, Kaneko A, Kawasaki H, Ogata T	1990.11	Result of multidisciplinary treatment in patients with stage and gastric carcinoma	2nd International Joint meeting Surgeons & Gastroenterologists. Athens, Greece
10. Ogata T, Matsuura K, Kobayashi M, Araki K, Maeda T, Inomata T	1990.11	Intraoperative radiation therapy (IORT) for cancer of the digestive organs	IORT, 3rd International Symposium, Kyoto
11. Ogata T, Matsuura K, Kure M, Maeda T, Inomata T	1990.11	Combined surgery and intraoperative radiation therapy (IORT) for thoracic esophageal cancer	IORT, 3rd International Symposium, Kyoto
12. Matsuura K, Ogata T, Sugimoto T, Maeda T	1990.11	Intraoperative radiation therapy (IORT) for advanced abdominal neuroblastoma	IORT, 3rd International Symposium, Kyoto
13. Inomata T, Maeda T, Ogawa Y, Nishioka A, Ogata T, Araki K	1990.11	A seven-year experience of intraoperative radiation therapy with 264 patients	IORT, 3rd International Symposium, Kyoto
14. Ogata T, Kobayashi M, Araki K, Matsuura K, Kaneko A, Kawasaki H, Inomata T, Ogawa Y, Nishioka A	1992.09	IORT for cancer of the digestive organs	IORT, 4th International Symposium, Munich, Germany
15. Ogata T, Yamasaki Y	1993.03	Ultra-high resolution SEM study on the sarcoplasmic reticulum of the extrafusil and intrafusil muscle fibers of the rat	American Association Anatomy 106th Annual meeting, San Diego, USA

学 会 発 表

16. Ogata T, Yamasaki Y	1993.03	Ultra-high resolution SEM study on the membrane system in the rat parietal cell	American Association Anatomy 106th Annual meeting, San Diego, USA
17. Ogata T, Araki K, Matsuura K, Ogawa Y, Inomata T	1993.06	Intraoperative radiation therapy (IORT) for gastric cancer	International Congress Radiation Oncology (ICRO '93), Kyoto
18. Matsuura K, Ogata T, Araki K, Inomata T, Nishioka A	1993.06	Intraoperative radiation therapy (IORT) for advanced abdominal neuroblastoma and Wilms' tumor	ICRO '93, Kyoto
19. Kobayashi M, Ogata T, Mtsuura K, Kaneko A, Inomata T, Terashima M	1993.06	Intraoperative radiation therapy (IORT) for primary colorectal cancer	ICRO '93, Kyoto
20. Ogata T, Yamasaki Y	1994.07	Ultra-high resolution SEM study on the membrane system of the rat parietal cell in the resting state and shortly after gastrin stimulation	14th Federation International Congress Anatomists, Lisbon, Portugal
21. Ogata T, Yamasaki Y, Araki K	1994.07	Ultra-high resolution SEM study on the sarcoplasmic reticulum and mitochondria of the extrafusal and intrafusal muscle fibers of the rat	14th Federation International Congress Anatomists, Lisbon, Portugal
22. Araki K, Kobayashi M, Matsuura K, Inomata T, Yoshida S, Ogata T	1994.09	A new surgical method to create a wider irradiation field for the cases of IORT with total gastrectomy	IORT, 5th International Symposium, Lyon, France
23. Araki K, Kobayashi M, Matsuura K, Inomata T, Yoshida S, Ogata T	1994.09	A ten year experience of IORT for colon carcinoma	IORT, 5th International Symposium, Lyon, France
24. Kobayashi M, Araki K, Matsuura K, Kaneko A, Inomata T, Yoshida S, Ogata T	1994.09	A 10 year experience of IORT for gastric carcinoma	IORT, 5th International Symposium, Lyon, France
25. Kobayashi M, Araki K, Matsuura K, Kawasaki H, Inomata T, Yoshida S, Ogata T	1994.09	A ten year experience of IORT for rectal cancer	IORT, 5th International Symposium, Lyon, France
26. Araki K, Yamamoto H, Ogata T, Matsuura K, Kobayashi M	1994.10	Intraoperative isolated arterial infusion (IIAI) chemotherapy for stage IV (pTNM) gastric carcinoma	16th International Cancer Congress. New Delhi, India
27. Yamamoto H, Araki K, Ogata T, Kobayashi M	1994.10	Effects of intraoprative isolated arterial infusion (IIAI) chemotherapy on metastases of rabbit VX2 cancer	16th International Cancer Congress. New Delhi, India
28. Kobayashi M, Araki K, Matsuura K, Kaneko A, Inomata T, Yoshida S, Ogata T	1995.03	Intraoperative radiotherapy (IORT) for gastric carcinoma. Our ten year experience	1st IGCC, Kyoto, Japan

学 会 発 表

29. Ogata T, Yamasaki Y	1995.09	Ultra-high-resolution SEM studies on the transverse-axial tubular system, sarcoplasmic reticulum and intercalated disc of the rat myocardium	2nd International Malpighi Symposium, Rome, Italy
30. Ogata T, Yamasaki Y	1995.09	Ultra-high resolution SEM study on the mitochondria and sarcoplasmic reticulum in the human muscle fibers	10th European Anatomical Congress, Florence, Italy
31. Ogata T, Yamasaki Y, Araki K, Kobayashi M, Ando T, Naoki I, Namikawa T	1995.09	Ultra-high resolution SEM study on the membrane system of the rat parietal cell in the resting state and shortly after gastrin stimulation	10th European Anatomical Congress, Florence, Italy
32. Kobayashi M, Araki K, Miyata M, Ogata T	1996.09	The change of proliferating cell nuclear antigen of the C3H/He mouse mammary tumor cells after irradiation	IORT, 6th International Symposium, San Francisco, USA
33. Kobayashi M, Furuya Y, Araki K, Ogata T	1996.09	Scannig electron microscopic study of the morphological change of the collagen sheaths surrounding the tumor cells after irradiation	IORT, 6th International Symposium, San Francisco, USA
34. Taniguchi K, Matsuura K, Kobayashi M, Sugimoto T, Matsuoka T, Ogata T	1996.11	Observation of the enteric nervous system: Scanning electron microscopical study with enzymatic and chemical digestion	XIII Congress Asian Association Pediatric Surgeons, Taipei, Taiwan
一般演題			
1. 田村 章、高田早苗、田村精平、緒方卓郎	1978.09	胃のリンパ管の走査電子顕微鏡的研究	第10回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、東京
2. 近沢信儀、高田早苗、田村精平、緒方卓郎	1978.09	ラットのストレス潰瘍形成時の微小循環の変化に関する研究	第10回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、東京
3. 田村 章、高田早苗、田村精平、緒方卓郎	1978.09	胃のリンパ管の走査電子顕微鏡的研究	第10回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、東京
4. 田村精平、高田早苗、臼井 隆、清藤 敬、緒方卓郎	1979.11	総胆管結紮とその閉塞解除後の肝の微細構造の変化に関する実験的研究	第54回中国四国外科学会、高知
5. 高田早苗、田村精平、臼井 隆、高田征尚、清藤 敬、緒方卓郎	1979.11	実験的肝硬変とその再生過程の電子顕微鏡的研究	第54回中国四国外科学会、高知
6. 緒方卓郎、窪田裕一	1982.05	ラット骨格筋の赤筋、白筋、中間型線維の走査電子顕微鏡的研究	第38回日本電子顕微鏡学会学術講演会、東京

学 会 発 表

- | | | | |
|--|---------|-----------------------------|-------------------------|
| 7. 荒木京二郎、緒方卓郎、清藤 敬、高田早苗、
白井 隆、田村精平 | 1982.08 | 胃癌のリンパ節郭清と間質細胞浸潤の長期予後に及ぼす影響 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 8. 荒木京二郎、緒方卓郎、田村精平、川村明廣、
山崎 奨 | 1982.08 | 食道静脈瘤に対する層別離断術 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 9. 田村精平、荒木京二郎、白井 隆、高田早苗、
山崎 奨、清藤 敬、緒方卓郎、高松和永、貞
岡俊一、沼田幸子 | 1982.08 | 食道表在癌と早期胃癌の重複した1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 10. 川村明廣、松浦喜美夫、田村精平、白井 隆、
清藤 敬、緒方卓郎、山本道也、森木利昭、弘
井 誠、原 弘 | 1982.08 | 十二指腸平滑筋肉腫の1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 11. 川村明廣、山中康明、山崎 奨、高田早苗、荒
木京二郎、清藤 敬、緒方卓郎、園部 宏、近
森正幸 | 1982.08 | 直腸S状部(Rs)に発生した腺扁平上皮癌の1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 12. 松浦喜美夫、荒木京二郎、高田早苗、井関
恒、川村明廣、清藤 敬、緒方卓郎 | 1982.08 | 胆嚢腫瘍の2例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 13. 井関 恒、山中康明、川村明廣、荒木京二郎、
清藤 敬、緒方卓郎、能津恭久 | 1982.08 | 直腸 Linitis plastica 癌の1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 14. 山崎 奨、井関 恒、白井 隆、田村精平、清
藤 敬、緒方卓郎、西山 螢、山本恒義、溝淵
敏夫、上甫木洋一 | 1982.08 | 食道平滑筋腫の3例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 15. 山中康明、松浦喜美夫、高田早苗、白井 隆、
荒木京二郎、緒方卓郎、園部 宏、沢田 進 | 1982.08 | 耳下腺腺様嚢胞癌の1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 16. 北川尚史、松浦喜美夫、山中康明、井関 恒、
清藤 敬、緒方卓郎 | 1982.08 | 甲状腺微小癌と甲状腺腫が併存した1例 | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 17. 中田博文、宮尾昌宏、岡崎和一、山本泰朗、山
本泰猛、伊藤憲一、北川尚史、松浦喜美夫、清
藤 敬、緒方卓郎 | 1982.08 | 成人の非全周性肥厚性幽門狭窄症の1症例について | 第35回高知県医師会医学会、高知 |
| 18. 川村明廣、山中康明、山崎 奨、高田早苗、荒
木京二郎、清藤 敬、緒方卓郎 | 1982.11 | 直腸S状部(Rs)に発生した腺扁平上皮癌の1例 | 第28回日本臨床病理学会中国四国地
方会 |

学 会 発 表

19. 井関 恒、山中康明、川村明廣、荒木京二郎、清藤 敬、緒方卓郎、能津恭久	1982.11	直腸 Linitis plastica 癌の1例	第38回日本消化器病学会中国四国地方会、山口
20. 松浦喜美夫、北川尚史、山中康明、井関 恒、清藤 敬、緒方卓郎	1982.11	甲状腺微小癌と甲状腺腺腫が併存した1例	第57回中国四国外科学会、山口
21. 田村精平、山崎 奨、臼井 隆、山本恒義、川村明廣、山中康明、金子 昭、荒木京二郎、緒方卓郎、松井昭彦	1983.05	腭頭部 cystic lymphangioma の1例	第39回日本消化器病学会中国四国地方会、広島
22. 山崎 奨、山本恒義、臼井 隆、田村精平、荒木京二郎、清藤 敬、緒方卓郎、西山 瑩、井関 恒、溝淵敏夫、上甫木洋一	1983.05	食道平滑筋腫の3例	第39回日本消化器病学会中国四国地方会、広島
23. 緒方卓郎、窪田裕一	1983.05	ラット赤筋、白筋、中間型線維の糸粒体の立体構造の差の電子顕微鏡的研究	第39回日本電子顕微鏡学会学術講演会、名古屋
24. 公文正光、緒方卓郎、島村善行、松原 了、小野正人、知花朝美、北谷知巳、長谷川博	1983.07	新しい注入材料による肝鋳型標本	第22回日本消化器外科学会定期学術総会、奈良
25. 緒方卓郎、荒木京二郎、田村精平、臼井 隆	1983.08	乳癌創縫合時における皮膚弁メッシュ形成術	第36回高知県医師会医学会、高知
26. 荒木京二郎、金子 昭、山中康明、川村明廣、田村精平、緒方卓郎、高田早苗	1983.08	胃全摘出術の検討	第36回高知県医師会医学会、高知
27. 荒木京二郎、曳田知紀、山崎 奨、山本恒義、臼井 隆、緒方卓郎、高田早苗	1983.08	粘膜下異所腺を併存する胃癌	第36回高知県医師会医学会、高知
28. 田村精平、曳田知紀、公文正光、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	耳下腺混合腫瘍5例について	第36回高知県医師会医学会、高知
29. 山本恒義、中井邦博、川村明廣、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	甲状腺腫瘍34例の検討	第36回高知県医師会医学会、高知
30. 公文正光、川村明廣、山本恒義、臼井 隆、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	肝癌に対するTrans catheter arterial embolization (TAE) の臨床病理学的検討	第36回高知県医師会医学会、高知
31. 公文正光、金子 昭、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	新しい注入材料による肝鋳型標本 - flexible liver castの作り方 -	第36回高知県医師会医学会、高知
32. 川村明廣、中井邦博、山本恒義、臼井 隆、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	先天性幽門閉鎖症と輪状膵の2手術治験例	第36回高知県医師会医学会、高知

学 会 発 表

33.	山中康明、臼井 隆、中井邦博、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	MEN type2A を含む家族性甲状腺髄様癌の1家系	第36回高知県医師会医学会、高知
34.	金子 昭、曳田知紀、公文正光、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎、倉光 誠、園部 宏、松浦喜美夫	1983.08	小児巨大肝過誤腫の1例	第36回高知県医師会医学会、高知
35.	曳田知紀、山中康明、川村明廣、公文正光、臼井 隆、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	膵手術後の血糖管理	第36回高知県医師会医学会、高知
36.	森田雅範、吉本光宏、前田 隆、橘 真理、宮崎正子、岡崎和一、山本泰朗、山崎 奨、川村明廣、公文正光、山本恒義、臼井 隆、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.08	肝内結石症の自験例	第36回高知県医師会医学会、高知
37.	藤川正直、坂本芳也、岡崎和一、大西三朗、金子 昭、緒方卓郎	1983.08	血流動態を異にすると考えられる肝重複海綿状血管腫の1症例	第36回高知県医師会医学会、高知
38.	栄枝弘司、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、川村明廣、緒方卓郎、園部 宏	1983.08	Inflammatory fibroid polyp の1例	第36回高知県医師会医学会、高知
39.	緒方卓郎	1983.11	比重差液による胆管結石の浮遊, 沈下除去術 基礎と術式	第45回日本臨床外科学会総会、広島
40.	緒方卓郎	1983.11	乳癌根治手術後の皮膚縫合におけるメッシュ形成術	第45回日本臨床外科学会総会、広島
41.	川村明廣、緒方卓郎	1983.11	Inflammatory fibroid polyp の1例 - とくに免疫学的検討を中心に -	第58回中国四国消化器内視鏡学会、米子
42.	山中康明、臼井 隆、中井邦博、田村精平、荒木京二郎、緒方卓郎	1983.11	MEN type 2Aを含む家族性甲状腺髄様癌の1家系	第58回中国四国外科学会、米子
43.	金子 昭、公文正光、緒方卓郎	1983.11	部位により血流動態を異にすると考えられる肝海綿状血管腫の1症例	第58回中国四国消化器内視鏡学会、米子
44.	公文正光、山中康明、曳田知紀、辻 豪、金子 昭、荒木京二郎、緒方卓郎	1984.02	肝鑄型標本とその臨床応用 - 第2報 - 右前区域の門脈分岐型と亜区域切除に関する考察	第23回日本消化器外科学会定期学術総会、宇部
45.	金子 昭、田村精平、松浦喜美夫、緒方卓郎、倉光 誠、園部 宏	1984.03	診断の困難であった肝腫瘍の1例	第25回日本小児科学会高知地方会、高知
46.	緒方卓郎、山崎裕一	1984.06	ラット赤筋、白筋、中間型線維の立体構造の差の電子顕微鏡的研究	第40回日本電子顕微鏡学会学術講演会、仙台

学 会 発 表

47.	公文正光、山中康明、 木京二郎、緒方卓郎、 谷川博、小野正人	曳田知紀、川崎博之、 島村善行、松原 了、長	1984.07	肝鑄型標本とその臨床応用 尾状葉の門脈枝と胆管枝について	第24回日本消化器外科学会定期学術 総会、京都
48.	山本恒義、橋本祥恪、 村精平、緒方卓郎	曳田知紀、臼井 隆、田	1984.08	悪性甲状腺腫のリンパ節転移について	第37回高知県医師会医学会、高知
49.	公文正光、阿部哲朗、 方卓郎	小林道也、曳田知紀、緒	1984.08	当科における肝静脈塞栓術の経験	第37回高知県医師会医学会、高知
50.	公文正光、小林道也、 緒方卓郎	山本恒義、荒木京二郎、	1984.08	バルーンカテーテルを用いた肝切除術	第37回高知県医師会医学会、高知
51.	山崎 奨、阿部哲朗、 方卓郎	上岡教人、田村精平、緒	1984.08	大腸癌による腸閉塞症4例について	第37回高知県医師会医学会、高知
52.	上岡教人、橋本祥恪、 緒方卓郎	田村精平、荒木京二郎、	1984.08	当科における膵癌治療の現状	第37回高知県医師会医学会、高知
53.	小林道也、川崎博之、 緒方卓郎、沼田幸子、 田知穂、小川恭弘	臼井 隆、荒木京二郎、 高松和永、植田一穂、前	1984.08	術中照射と化学療法が著効を示した結腸癌の1例	第37回高知県医師会医学会、高知
54.	阿部哲朗、川崎博之、 木京二郎、緒方卓郎、 野利尚	川村明廣、臼井 隆、荒 安岡伸和、坂原 隆、山	1984.08	鉄欠乏性貧血を伴った脾リンパ管腫の1例	第37回高知県医師会医学会、高知
55.	川村明廣、緒方卓郎、 田村精平、山中康明、 曳田知紀	荒木京二郎、臼井 隆、	1984.09	膵切断端修復過程の組織学的電子顕微鏡的研究	第26回日本消化器病学会大会、千葉
56.	松浦喜美夫、緒方卓郎、 河野澄男、長谷川史郎		1984.11	静岡県立こども病院新生児外科における診療体制 腹壁欠損症の 治療を通じて	第26回日本小児科学会高知地方会、 高知
57.	山中康明、緒方卓郎、 白井 隆、公文正光、 崎 奨	荒木京二郎、田村精平、 曳田知紀、川村明廣、山	1985.01	家族性発生を示した髄様癌の一家系	第13回中国四国甲状腺外科集談会、 高松
58.	川村明廣、緒方卓郎、 白井 隆、山本恒義、 山崎 奨	荒木京二郎、田村精平、	1985.02	実験的膵切離断端の修復治癒過程の研究	第25回日本消化器外科学会定期学術 総会、横浜
59.	公文正光、上岡教人、 木京二郎、緒方卓郎	川崎博之、曳田知紀、荒	1985.02	肝鑄型標本とその臨床応用 - 肝鑄型標本の複製 -	第25回日本消化器外科学会定期学術 総会、横浜

学 会 発 表

60.	松浦喜美夫、緒方卓郎、金子 昭、荒木京二郎、川上 文、荒木久美子、喜多村勇	1985.04	6歳女児甲状腺癌の1症例	第26回中国四国小児がん研究会、広島
61.	松浦喜美夫、緒方卓郎、公文正光、金子 昭、荒木京二郎、浜田文彦、荒木久美子、小倉英郎、喜多村勇、前田知穂、小川恭弘	1985.05	神経芽細胞腫に対する術中照射療法の試み	第22回日本小児外科学会学術集会、東京
62.	緒方卓郎、山崎裕一	1985.06	赤筋、白筋、中間型筋線維の神経終板の立体構造の差に関する走査電子顕微鏡的研究	第41回日本電子顕微鏡学会学術講演会、北海道
63.	荒木京二郎、川崎博之、曳田知紀、公文正光、臼井 隆、緒方卓郎、中沢慶彦	1985.06	b病変の形態学的、組織学的研究	第45回胃癌研究会、東京
64.	荒木京二郎、緒方卓郎、臼井 隆、松浦喜美夫、川村明廣、中澤慶彦	1985.08	b胃癌の形態学的、組織学的検討	第38回高知県医師会医学会、高知
65.	山下邦康、緒方卓郎、荒木京二郎、臼井 隆、松浦喜美夫、公文正光、川村明廣、山崎 奨、山中康明、川崎博之、金子 昭、北川尚史	1985.08	膵・胆道癌に対する術中照射の検討	第38回高知県医師会医学会、高知
66.	松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、金子 昭、北川尚史、浜田文彦、荒木久美子、小倉英郎、喜多村勇、小川恭弘、前田知穂	1985.08	神経芽細胞腫に対する術中照射療法	第38回高知県医師会医学会、高知
67.	公文正光、緒方卓郎、荒木京二郎、田村精平、山中康明	1985.08	肝鑄型標本からみた肝区域間の境界について	第38回高知県医師会医学会、高知
68.	山崎 奨、緒方卓郎、荒木京二郎、公文正光、川村明廣、前田知穂	1985.08	放射線照射の組織に及ぼす影響（術中照射と、その耐容線量について）	第38回高知県医師会医学会、高知
69.	山中康明、緒方卓郎、荒木京二郎、臼井 隆、計田一法	1985.08	当科における甲状腺癌初回手術症例の検討	第38回高知県医師会医学会、高知
70.	金子 昭、緒方卓郎、荒木京二郎、臼井 隆、山下邦康、川村明廣、杉藤正典	1985.08	胆嚢隆起性病変の検討	第38回高知県医師会医学会、高知
71.	川崎博之、緒方卓郎、荒木京二郎、臼井 隆、松浦喜美夫、杉本健樹	1985.08	当科における過去3年8ヶ月間の結腸・直腸癌の検討	第38回高知県医師会医学会、高知
72.	北川尚史、緒方卓郎、田村精平、山崎 奨、伊与木増喜	1985.08	当科における同時性重複癌の検討	第38回高知県医師会医学会、高知

学 会 発 表

73.	杉本健樹、緒方卓郎、荒木京二郎、田村精平、 臼井 隆、川崎博之	1985.08	直腸平滑筋肉腫の1例	第38回高知県医師会医学会、高知
74.	橋本祥恪、荒木京二郎、緒方卓郎、采元武史、 間崎武臣、辻 豪、辻 健郎	1985.08	小腸広範囲切除を行なった上腸間膜動脈閉塞症の1治験例	第38回高知県医師会医学会、高知
75.	杉藤正典、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、 公文正光、金子 昭	1985.08	十二指腸平滑筋肉腫の1治験例	第38回高知県医師会医学会、高知
76.	伊与木増喜、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美 夫、北川尚史、鍵山惣一	1985.08	巨大な先天性胆道拡張症の1治験例	第38回高知県医師会医学会、高知
77.	計田一法、緒方卓郎、荒木京二郎、田村精平、 公文正光、山中康明	1985.08	姉弟にみられたSipple症候群の2症例	第38回高知県医師会医学会、高知
78.	岩崎信二、上田 弘、坂本芳也、森田雅範、富 田 昭、岡崎和一、大西三朗、伊藤憲一、田村 精平、松浦喜美夫、金子 昭、緒方卓郎	1985.08	Caroli病の合併をみたPSSの1症例	第38回高知県医師会医学会、高知
79.	松本京子、岡崎和一、宮尾昌広、宮崎正子、大 西三朗、伊藤憲一、松浦喜美夫、緒方卓郎	1985.08	腹部超音波検査にて発見しえた細小肝癌の1例	第38回高知県医師会医学会、高知
80.	松浦喜美夫、金子 昭、荒木京二郎、緒方卓 郎、浜田文彦、小倉英郎、喜多村勇	1985.10	横隔膜弛緩症の一例	第24回日本小児外科外科学会中国四 国地方会、高知
81.	杉藤正典、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、 川村明廣、金子 昭、北川尚史、中井邦博、伊 与木増喜	1985.11	十二指腸平滑筋肉腫の1治験例	第44回日本消化器病学会中国四国地 方会、広島
82.	計田一法、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美 夫、公文正光、山崎 奨、山中康明、川崎博 之、杉藤正典	1986.01	術前ADMリマイン(ADM)局所動注が著効を示した甲状腺悪性リンパ腫 の1例	第14回中国四国甲状腺外科集談会、 広島
83.	山崎 奨、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、 公文正光、川村明廣、前田知穂	1986.02	術中放射線照射の組織に及ぼす影響線量とその組織学的変化につ いて	第27回日本消化器外科学会定期学術 総会、米子
84.	金子 昭、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、 松浦喜美夫、山崎 奨、山中康明、北川尚史、 杉藤正典	1986.02	肉腫との鑑別が困難であった食道平滑筋腫の1例	第43回日本消化器内視鏡学会中国四 国地方会、岡山

学 会 発 表

85.	植田一穂、中内 優、谷岡書彦、高松和永、安岡伸和、末廣 正、吉田健三、沼田幸子、大野文俊、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.06	画像診断上、それぞれ特徴ある所見を呈した小腸平滑筋腫の2例	第45回日本消化器病学会中国四国地方会、岡山
86.	金子 昭、山下邦康、杉藤正典、北川尚史、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.07	無縫合吻合器AKA-2による腸管吻合部の治癒過程に関する研究	第28回日本消化器外科学会定期学術総会、青森
87.	松浦喜美夫、浜田伸一、金子 昭、曳田知紀、荒木京二郎、緒方卓郎、厨子徳子、友田隆土、小倉英郎、倉繁隆信、久保隆彦、相良祐輔	1986.08	先天性食道閉鎖症の6例	第39回高知県医師会医学会、高知
88.	公文正光、川崎博之、森村 豊、上岡教人、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.08	当科における肝切除症例の検討	第39回高知県医師会医学会、高知
89.	川村明廣、北村嘉男、船戸豊彦、上岡教人、緒方卓郎	1986.08	根治手術不能の総胆管癌に対するTチューブ内瘻化術の1 治験例	第39回高知県医師会医学会、高知
90.	川崎博之、金子 昭、山中康明、公文正光、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.08	治療を目的とした血管造影	第39回高知県医師会医学会、高知
91.	北川尚史、上岡教人、橋本祥恪、川崎博之、公文正光、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.08	食道静脈瘤の内視鏡的硬化療法について	第39回高知県医師会医学会、高知
92.	阿部哲朗、小林道也、北川尚史、山崎 奨、松浦喜美夫、山下邦康、緒方卓郎	1986.08	肝内結石症自験例の検討	第39回高知県医師会医学会、高知
93.	橋本祥恪、上岡教人、北川尚史、松浦喜美夫、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.08	小児甲状腺癌の2例	第39回高知県医師会医学会、高知
94.	浜田伸一、森村 豊、小林道也、金子 昭、曳田知紀、松浦喜美夫、緒方卓郎	1986.08	経皮的ドレナージによる巨大肝膿瘍の1 治験例	第39回高知県医師会医学会、高知
95.	森村 豊、上岡教人、山中康明、公文正光、山下邦康、緒方卓郎	1986.08	特発性食道破裂の1 症例	第39回高知県医師会医学会、高知
96.	西岡隆見、上田 弘、坂本芳也、森田雅範、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、伊藤憲一、上岡教人、公文正光、緒方卓郎	1986.08	膵嚢胞より急速な進展を追えた膵膿瘍の1 例	第39回高知県医師会医学会、高知
97.	北島裕慎、田村 智、坂本芳也、中田博文、森田雅範、岡崎和一、阿部哲朗、緒方卓郎	1986.08	肝癌を合併した小網リンパ管腫の1 例	第39回高知県医師会医学会、高知

学 会 発 表

98.	荒木京二郎、森村 豊、阿部哲朗、曳田知紀、公文正光、松浦喜美夫、緒方卓郎、前田知穂、猪俣泰典	1986.09	胃腸管癌に対する術中放射線療法 of 経験	第61回中国四国外科学会、高知
99.	金子 昭、山下邦康、杉藤正典、北川尚史、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1986.09	無縫合吻合器AKA-2による腸管吻合部の治癒過程に関する研究	第61回中国四国外科学会、高知
100.	松浦喜美夫、緒方卓郎、金子 昭、川崎博之、伊与木増喜、岡本啓一、相良祐輔	1986.10	胎児期腸重積症による胎便性腹膜炎の1例	第25回日本小児外科学会中国四国地方会、広島
101.	緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、松浦喜美夫、山崎 奨、山中康明、金子 昭、北川尚史、上岡教人	1986.11	消化器癌に対する術中照射療法	第48回日本臨床外科医学会総会、大阪
102.	松浦喜美夫、金子 昭、小林道也、森村 豊、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.04	小児甲状腺癌の2例	第28回中国四国小児がん研究会、高松
103.	緒方卓郎、山崎裕一	1987.05	高分解走査電子顕微鏡による筋小胞体の立体構造	第43回日本電子顕微鏡学会学術講演会、横浜
104.	上岡教人、緒方卓郎、荒木京二郎、川崎博之、公文正光、松浦喜美夫、阿部哲朗	1987.06	肝細胞癌に対するシスプラチン(CDDP)による選択的動注化学療法 of 経験	第16回中国四国がん化学療法研究会、高松
105.	北川尚史、荒木京二郎、金子 昭、上岡教人、阿部哲朗、松浦喜美夫、山下邦康、緒方卓郎	1987.06	胃癌の超音波内視鏡検査 of 経験	第47回日本消化器病学会中国四国地方会、広島
106.	北島裕慎、田村 智、坂本芳也、中田博文、中澤慶彦、森田雅範、鍵山惣一、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、阿部哲朗、緒方卓郎	1987.06	肝癌を合併した小網リンパ管嚢腫の一例	第47回日本消化器病学会中国四国地方会、広島
107.	久礼三子雄、川崎博之、山下邦康、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、金子 昭	1987.07	硬化療法後の静脈瘤再発例 of 検討	第8回食道静脈瘤硬化療法研究会、旭川
108.	金子 昭、山下邦康、杉藤正典、北川尚史、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.07	圧挫吻合器による腸管吻合部治癒過程 of 実験的研究	第16回創傷治癒研究会、札幌
109.	金子 昭、杉藤正典、北川尚史、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 of 経験	第40回高知県医師会医学会、高知
110.	北川尚史、荒木京二郎、金子 昭、上岡教人、阿部哲朗、松浦喜美夫、山下邦康、緒方卓郎	1987.08	超音波内視鏡による胃癌進行度 of 検討	第40回高知県医師会医学会、高知

学 会 発 表

111.	久禮三子雄、上岡教人、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	当科における肝細胞癌の治療経験	第40回高知県医師会医学会、高知
112.	阿部哲朗、上岡教人、北川尚史、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	乳癌再発例の検討	第40回高知県医師会医学会、高知
113.	杉本健樹、山下邦康、山崎 奨、山本 拓、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	消化器癌術中照射の経験	第40回高知県医師会医学会、高知
114.	杉藤正典、金子 昭、松浦喜美夫、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	再発大腸癌の治療経験	第40回高知県医師会医学会、高知
115.	森田雅夫、阿部哲朗、上岡教人、北川尚史、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	十二指腸閉塞を呈した慢性膵炎の1例	第40回高知県医師会医学会、高知
116.	山本 拓、上岡教人、久礼三子雄、荒木京二郎、緒方卓郎、田村精平、山中康明	1987.08	食道巨大ポリ - プ状腫瘍の1例	第40回高知県医師会医学会、高知
117.	白石哲夫、杉藤正典、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1987.08	小児後縦隔腫瘍の1例	第40回高知県医師会医学会、高知
118.	河合加与子、友田隆士、利根洋一、脇口 宏、小倉英郎、倉繁隆信、杉藤正典、金子 昭、松浦喜美夫、緒方卓郎	1987.08	新生児敗血症が疑われたHirschsprung病の1例	第40回高知県医師会医学会、高知
119.	西本 均、小原秀一、森田 賢、吉田祥二、小川恭弘、前田知穂、松浦喜美夫、緒方卓郎	1987.08	CT上、肝転移と鑑別困難であった脂肪肝の1例	第40回高知県医師会医学会、高知
120.	金子 昭、緒方卓郎、松浦喜美夫、久礼三子雄、杉藤正典、荒木京二郎	1987.09	胆道閉鎖症術後の食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法2例の経験	第26回日本小児学会中国四国地方会、徳島
121.	荒木京二郎、曳田知紀、山崎 奨、久礼三子雄、北川尚史、山下邦康、緒方卓郎	1987.09	進行胃癌、再発胃癌に対する術中照射を主とした集学的治療の経験	第62回中国四国外科学会、岡山
122.	小林道也、荒木京二郎、山下邦康、松浦喜美夫、北川尚史、上岡教人、久礼三子雄、阿部哲朗、橋本祥恪、杉本健樹、緒方卓郎	1988.07	結腸癌・直腸癌に対する術中照射療法	第32回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢
123.	上岡教人、伊与木増喜、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1988.08	異時性転移性肝癌の治療経験	第41回高知県医師会医学会、高知

学 会 発 表

124.	北川尚史、近藤雄二、計田一法、荒木京二郎、緒方卓郎	1988.08	超音波内視鏡による胃癌の浸潤型式	第41回高知県医師会医学会、高知
125.	小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、山下邦康、松浦喜美夫、前田知穂、猪俣泰典	1988.08	結腸癌、直腸癌に対する術中照射療法	第41回高知県医師会医学会、高知
126.	久禮三子雄、北川尚史、川崎博之、山下邦康、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1988.08	食道静脈瘤硬化療法の成績と予後	第41回高知県医師会医学会、高知
127.	伊与木増喜、上岡教人、松浦喜美夫、緒方卓郎、脇口 宏、倉繁隆信	1988.08	進行神経芽細胞腫の治療経験	第41回高知県医師会医学会、高知
128.	近藤雄二、久禮三子雄、上岡教人、山下邦康、荒木京二郎、緒方卓郎	1988.08	集学的治療が有効と思われた肝癌の1例	第41回高知県医師会医学会、高知
129.	計田一法、北川尚史、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎	1988.08	当科におけるCrohn病の治療経験	第41回高知県医師会医学会、高知
130.	中村生也、小林道也、久禮三子雄、荒木京二郎、緒方卓郎、中澤慶彦、山本泰朗	1988.08	胃切除・ビルロート 法再建術後に吻合部・横行結腸瘻を形成した症例の考察	第41回高知県医師会医学会、高知
131.	別府 敬、計田一法、北川尚史、松浦喜美夫、緒方卓郎、森木利昭	1988.08	臨床的、組織学的に診断困難であった巨大腹部腫瘍の1例	第41回高知県医師会医学会、高知
132.	中野琢巳、久禮三子雄、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、宮田 彰、中澤慶彦、山本泰朗、山本泰猛、森木利昭	1988.08	小腸に転移した悪性黒色腫の1例	第41回高知県医師会医学会、高知
133.	谷崎裕志、上岡教人、松浦喜美夫、緒方卓郎	1988.08	小児の後腹膜神経根神経腫の1例	第41回高知県医師会医学会、高知
134.	氏原孝司、上岡教人、伊与木増喜、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1988.08	当科で経験した大腸絨毛腺腫4例について	第41回高知県医師会医学会、高知
135.	上岡教人、荒木京二郎、山下邦康、松浦喜美夫、川崎博之、北川尚史、久礼三子雄、緒方卓郎	1988.10	肝細胞癌の治療経験	第5回四国肝癌研究会、高松
136.	小林道也、中野琢巳、久礼三子雄、上岡教人、北川尚史、山下邦康、緒方卓郎、村上義典、近森大志郎	1989.03	副甲状腺腫の1例	第17回中国四国甲状腺外科集談会、高知

学 会 発 表

- | | | | | |
|------|--|---------|--|-----------------------|
| 137. | 上岡教人、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、北川尚史、小林道也、杉藤正典、森田雅夫、武市牧子、松嶋正規、河合秀二 | 1989.08 | 当科における肝細胞癌の経験 | 第42回高知県医師会医学会、高知 |
| 138. | 久禮三子雄、緒方卓郎、川崎博之、松浦喜美夫、近藤雄二、尾形雅彦、奥宮一矢、柏井英助、阿部哲朗、荒木京二郎 | 1989.08 | 硬化療法後の静脈瘤再発例の検討 | 第42回高知県医師会医学会、高知 |
| 139. | 杉本健樹、緒方卓郎、松浦喜美夫、荒木京二郎、白石哲夫、古屋泰雄、小浜祥均、遠近直成、脇口 宏、倉繁隆信 | 1989.08 | 当科における小児悪性腫瘍の集学的治療法 - 特に進行神経芽細胞腫について - | 第42回高知県医師会医学会、高知 |
| 140. | 金子 昭、計田一法、山下邦康、田村尚彦、南宣仁、宇都宮俊裕、緒方卓郎 | 1989.08 | 閉塞性黄疸の治療方針について | 第42回高知県医師会医学会、高知 |
| 141. | 計田一法、金子 昭、山下邦康、川田光顕、岡本章一、角田哲也、北村嘉男、船戸豊彦、山中康明、緒方卓郎 | 1989.08 | 十二指腸・小腸の腫瘍性病変の検討 | 第42回高知県医師会医学会、高知 |
| 142. | 松浦喜美夫、緒方卓郎、河合秀二、上岡教人、杉本健樹、奥宮一矢、白石哲夫、古屋泰雄、荒木京二郎、 | 1989.10 | 先天性胆道拡張症を伴う膵管胆道合流異常の4例 | 第36回日本小児科学会高知地方会、高知 |
| 143. | 久礼三子雄、川崎博之、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、金子 昭、山下邦康、田村精平 | 1989.11 | 食道静脈瘤硬化療法後の再発再治療例の検討 | 第38回日本消化器内視鏡学会学術集会、東京 |
| 144. | 小林道也、中野琢巳、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1990.01 | 甲状腺嚢腫との鑑別が困難であった副甲状腺嚢腫の1例 | 第18回中国四国甲状腺外科集談会、山口 |
| 145. | 川崎博之、荒木京二郎、杉本健樹、緒方卓郎 | 1990.03 | 慢性肝炎・肝硬変における肝線維化の走査電顕的検索 | 第76回日本消化器病学会大会、東京 |
| 146. | 杉本健樹、奥宮一矢、金子 昭、松浦喜美夫、緒方卓郎、藤枝幹也、森田英雄、脇口 宏、倉繁隆信 | 1990.04 | 当科における進行神経芽腫の集学的治療 - 術中照射の経験について - | 第31回中国四国小児がん研究会、岡山 |
| 147. | 久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1990.04 | 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法中に広範囲粘膜下血腫を来した2例 | 第39回日本消化器内視鏡学会学術集会、東京 |
| 148. | 緒方卓郎、山崎裕一 | 1990.05 | ニワトリ遅筋線維の筋小胞体、糸粒体の走査電子顕微鏡的研究 | 第46回日本電子顕微鏡学会学術講演会、群馬 |

学 会 発 表

- | | | | | |
|------|--|---------|---|------------------------|
| 149. | 緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、久礼三子雄、阿部哲朗、杉本健樹、近藤雄二、山下邦康 | 1990.07 | 胸部食道癌術中照射療法 | 第36回日本消化器外科学会定期学術総会、東京 |
| 150. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭、北川尚史、山中康明、森田雅夫、竹下篤範 | 1990.07 | 経口腸管洗浄液，Polyethylene glycol electrolyte solution（PEG）使用例100例の検討 | 第36回日本消化器外科学会定期学術総会、東京 |
| 151. | 公文正光、中野琢巳、板原 隆、森 涉、金子 昭、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1990.08 | 肝鑄型標本による肝門部の解剖 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 152. | 杉藤正典、緒方卓郎、松浦喜美夫、川崎博之、小林道也、高野 篤、氏原孝司、秋森豊一、別府 敬、吉川 健、荒木京二郎、島村善行、石井正則、小野正人、北井祥三 | 1990.08 | 肝細胞癌切除後再発の検討 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 153. | 高野 篤、荒木京二郎、緒方卓郎、北川尚史、久礼三子雄、森田雅夫、古屋泰雄、猪俣泰典、前田知穂 | 1990.08 | 進行胃癌に対する集学的治療の検討 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 154. | 柏井英助、上岡教人、計田一法、杉本健樹、緒方卓郎、松浦喜美夫 | 1990.08 | 手術施行した難治性膵炎の1例 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 155. | 山中幸二、緒方卓郎、金子 昭、阿部哲朗、杉本健樹、白石哲夫、中野琢巳、松嶋政規、荒木京二郎、佐藤一成、沼田幸子 | 1990.08 | 胃粘膜下腫瘍と鑑別困難であった肝嚢胞の1症例 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 156. | 竹下篤範、原 郁夫、土田 均、小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎 | 1990.08 | 当院における大腸内視鏡検査の検討 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 157. | 計田一法、上岡教人、杉本健樹、柏井英助、山下邦康、緒方卓郎、金子 昭 | 1990.08 | 総胆管癌による閉塞性黄疸に対し、PTCチューブからのピノルピン（ADM）の注入が著効を示したと思われる1症例 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 158. | 小川恭弘、西岡明人、福本光孝、寺島正子、沢田章宏、猪俣泰典、前田知穂、小越章平、田宮達男、荒木京二郎、緒方卓郎、森木利昭、佐々木匡秀 | 1990.08 | 乳癌の根治的乳房温存療法7例の治療経験 | 第43回高知県医師会医学会、高知 |
| 159. | 川崎博之、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1990.09 | 肝硬変における肝線維化の走査電子顕微鏡的検索 | 第22回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、大津 |
| 160. | 森田雅夫、川崎博之、緒方卓郎 | 1990.09 | 甲状腺および各種甲状腺疾患のコラーゲン線維網の走査電子顕微鏡的研究 | 第22回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、大津 |

学 会 発 表

161. 古屋泰雄、杉本健樹、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1990.09	走査電子顕微鏡による大腸腺腫の研究	第22回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、大津
162. 松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、小林道也、金子 昭、川崎博之、北川尚史、久礼三子雄、阿部哲朗、白石哲夫、前田知穂、猪俣泰典	1990.09	大腸癌の術中照射療法	第65回中国四国外科学会、岡山
163. 阿部哲朗、氏原孝司、河合秀二、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、中条一男、栄枝弘司、山本泰猛、円山英昭	1990.09	高ガストリン血症を呈した原発性肝癌の1例	第65回中国四国外科学会、岡山
164. 金子 昭、松浦喜美夫、杉本健樹、古屋泰雄、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1990.10	大腸内視鏡によるポリペクトミー症例の検討	第29回日本小児外科学会中国四国地方会、宇部
165. 金子 昭、松浦喜美夫、杉本健樹、川崎博之、久礼三子雄、小林道也、古屋泰雄、荒木京二郎、緒方卓郎	1990.11	小児の大腸内視鏡的ポリペクトミーの検討	第57回日本消化器内視鏡学会中国四国地方会、広島
166. 久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、秋森豊一、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.03	当科で行っている食道静脈瘤硬化療法の手技について	第1回四国食道・胃静脈瘤硬化療法勉強会、高松
167. 北川尚史、荒木京二郎、久礼三子雄、阿部哲朗、杉藤正典、森田雅夫、古屋泰雄、緒方卓郎	1991.03	超音波内視鏡（EUS）による胃癌の進展範囲の計測と壁進達度	第42回日本消化器内視鏡学会学術集会、横浜
168. 古屋泰雄、杉本健樹、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.03	走査電子顕微鏡による正常大腸及び各種大腸疾患の膠原線維網の研究	第91回日本外科学会定期学術集会、京都
169. 氏原孝司、松浦喜美夫、小林道也、吉川 健、山本 拓、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.05	保存的治療にて治癒した肝破裂の1例	第39回日本小児科学会高知地方会
170. 緒方卓郎、山崎裕一	1991.05	超高分解能走査電子顕微鏡によるラット筋紡錘内筋線維のT管系、筋小胞体、糸粒体の観察	第47回日本電子顕微鏡学会学術講演会、大阪
171. 松浦喜美夫、緒方卓郎、杉藤正典、伊与木増喜、金子 昭、小林道也、杉本健樹、倉繁隆信、脇口 宏、前田知穂、猪俣泰典	1991.06	進行神経芽腫に対する術中照射療法（IORT）の検討	第28回日本小児外科学会学術集会、名古屋
172. 久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.06	食道静脈瘤硬化療法の安全性について - 死亡例の肝機能検査値の検討 -	第34回日本胸部外科学会関西地方会学術集会、高知
173. 松浦喜美夫、緒方卓郎、小林道也、川崎博之、杉藤正典、荒木京二郎、前田知穂、小川恭弘	1991.06	胸部食道癌に対する術中照射療法	第45回食道疾患研究会、名古屋

学 会 発 表

- | | | | | |
|------|--|---------|-------------------------|------------------------|
| 174. | 宮田 彰、宮崎正子、森田雅範、坂本芳也、豊永真智、北島裕慎、高橋佳伸、西森 功、西岡隆見、松本浩利、山崎一明、佐野修一、門脇徹、鍵山惣一、中澤慶彦、宮尾昌宏、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、小林道也、緒方卓郎、弘井 誠、原 弘 | 1991.06 | 後腹膜ganglioneuromaの一症例 | 第64回内科学会四国地方会、高知 |
| 175. | 松浦喜美夫、緒方卓郎、小林道也、金子 昭、川崎博之、久礼三子雄、高野 篤、中野琢巳、杉藤正典、荒木京二郎、前田知穂、小川恭弘 | 1991.07 | 大腸癌の術中照射療法（IORT） | 第38回日本消化器外科学会定期学術総会、東京 |
| 176. | 松浦喜美夫、緒方卓郎、小林道也、金子 昭、川崎博之、北川尚史、森田雅夫、山本 拓、吉川 健、山中幸二、別府 敬、杉藤正典、荒木京二郎、前田知穂、小川恭弘 | 1991.07 | 胸部食道癌に対する術中照射療法（IORT） | 第38回日本消化器外科学会定期学術総会、東京 |
| 177. | 小林道也、緒方卓郎、山本 拓、松浦喜美夫、荒木京二郎、竹下篤範 | 1991.07 | 二度の穿孔をきたした肺癌の小腸転移の一例 | 第38回日本消化器外科学会定期学術総会、東京 |
| 178. | 阿部哲朗、荒木京二郎、川崎博之、森田雅夫、古屋泰雄、緒方卓郎 | 1991.08 | 走査電子顕微鏡による乳癌の膠原線維網の研究 | 第4回中国四国乳腺研究会、岡山 |
| 179. | 尾形雅彦、溝淵南海郎、溝淵敏夫、溝淵玲子、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、島村善行、石井正則、小野正人、高野 篤、北井祥三 | 1991.08 | Vp3肝細胞癌の門脈腫瘍栓に対する放射線治療 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |
| 180. | 安藤 徹、金子 昭、小林道也、久禮三子雄、阿部哲朗、氏原孝司、山中幸二、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、前田知穂、猪俣泰典 | 1991.08 | 大腸癌の術中照射療法の検討 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |
| 181. | 並川 努、金子 昭、杉藤正典、谷崎裕志、河合秀二、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1991.08 | 転移性肝癌の治療 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |
| 182. | 直木一郎、北川尚史、浜田伸一、森田雅夫、谷崎裕志、古屋泰雄、河合秀二、山本真也、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1991.08 | 長期生存の得られている食道癌肉腫の1例 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |
| 183. | 竹下篤範、原 郁夫、土田 均、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1991.08 | 子宮腺筋症の直接浸潤により直腸狭窄を生じた1例 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |

学 会 発 表

- | | | | |
|---|---------|--|------------------------|
| 184. 小川恭弘、西岡明人、浜田典彦、福本光孝、寺島正子、沢田章宏、上池 修、森田 賢、前田知穂、土岐泰一、田中洋輔、小越章平、田宮達男、荒木京二郎、緒方卓郎、森木利昭、佐々木 | 1991.08 | 乳癌の根治的乳房温存療法25例の治療経験 | 第44回高知県医師会医学会、高知 |
| 185. 緒方卓郎、山崎裕一、荒木京二郎 | 1991.09 | 超高分解能走査電子顕微鏡によるラット肝細胞細胞小器官の観察 | 第23回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、富山 |
| 186. 阿部哲朗、荒木京二郎、川崎博之、森田雅夫、古屋泰雄、緒方卓郎 | 1991.09 | 走査電子顕微鏡による乳癌の膠原細線維網の研究 | 第23回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、富山 |
| 187. 山本 拓、小林道也、荒木京二郎、緒方卓郎、富田 昭、山本泰猛 | 1991.09 | 胆嚢癌の同時性重複癌の1例 | 第66回中国四国外科学会、宇部 |
| 188. 河合秀二、白石哲夫、田村精平、山本 拓、別府 敬、緒方卓郎 | 1991.09 | 刺杭創の3例 | 第66回中国四国外科学会、宇部 |
| 189. 柏井英助、上岡教人、杉本健樹、秋森豊一、川田光顕、金子 昭、計田一法、緒方卓郎、岩田克美、園部 宏 | 1991.09 | 腸間膜悪性線維性組織球腫の1例 | 第66回中国四国外科学会、宇部 |
| 190. 直木一朗、松浦喜美夫、緒方卓郎、金子 昭、高野 篤、吉川 健 | 1991.10 | 大網異常裂孔ヘルニアの1例 | 第30回日本小児外科学会中国四国地方会、米子 |
| 191. 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、竹下篤範 | 1991.10 | 子宮腺筋症の直接浸潤により直腸狭窄を生じた1例 | 第46回日本大腸肛門病学会学術集会、弘前 |
| 192. 並川 努、松浦喜美夫、直木一朗、金子 昭、氏原孝司、緒方卓郎 | 1991.11 | ヒルシユスプルング病の兄弟例 | 第40回日本小児科学会高知地方会、高知 |
| 193. 久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1991.11 | 硬化療法におけるX線造影下硬化剤注入の必要性について | 第42回日本消化器内視鏡学会学術集会、横浜 |
| 194. 小林道也、緒方卓郎、金子 昭、川崎博之、松浦喜美夫、荒木京二郎、竹下篤範 | 1991.11 | Polyethylene glycol-electrolyte solution (PEG)服用が契機と考えられるイレウスの2例 | 第42回日本消化器内視鏡学会学術集会、横浜 |
| 195. 小林道也、荒木京二郎、氏原孝司、吉川 健、金子 昭、北川尚史、緒方卓郎 | 1991.11 | エコー内視鏡，経皮経肝的門脈採血により診断し得た小インスリンノーマの1例 | 第53回日本臨床外科学会総会、徳島 |
| 196. 山本 拓、緒方卓郎、小林道也、金子 昭、計田一法、山中幸二、上岡教人、杉本健樹、秋森豊一、柏井英助 | 1991.11 | 腹膜偽粘液腫の一例 | 第53回日本臨床外科学会総会、徳島 |

学 会 発 表

197.	久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1991.11	食道静脈瘤の硬化療法単独と摘脾・Hassab手術併用治療の比較	第56回日本消化器病学会中国四国支部例会、松山
198.	森田雅夫、荒木京二郎、川崎博之、古屋泰雄、阿部哲朗、伊与木増喜、緒方卓郎	1992.01	甲状腺疾患における膠原線維網の電子顕微鏡学的観察	第20回中国四国甲状腺外科集談会、徳島
199.	久礼三子雄、川崎博之、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.02	当科における硬化療法の手技上の問題点	第2回四国食道・胃静脈瘤硬化療法勉強会、徳島
200.	伊与木増喜、荒木京二郎、古屋泰雄、阿部哲朗、森田雅夫、川崎博之、緒方卓郎	1992.02	走査電子顕微鏡によるスキルス胃癌間質の膠原線維の立体構築の研究	第39回日本消化器外科学会定期学術総会、神戸
201.	谷崎裕志、直木一朗、高野 篤、北川尚史、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.03	小児大網裂孔ヘルニアの一例	第18回日本腹部救急医学会、松山
202.	杉本健樹、松浦喜美夫、緒方卓郎、金子 昭、計田一法、安藤 徹、倉繁隆信、脇口 宏	1992.04	術中照射療法 (IORT) 症例の検討	第33回中国四国小児がん研究会、高松
203.	浜田伸一、松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、川崎博之、直木一朗、小林道也、倉繁隆信、脇口 宏	1992.04	肝悪性腫瘍に対する経動脈的カテーテル療法例について	第33回中国四国小児がん研究会、高松
204.	松浦喜美夫、緒方卓郎、直木一朗、白石哲夫、金子 昭、杉藤正典、杉本健樹、谷崎裕志、	1992.06	大網裂孔ヘルニアの一例	第29回日本小児外科学会学術集会、札幌
205.	緒方卓郎、山崎裕一	1992.06	超高分解能走査電子顕微鏡による猫筋紡錘内封筋線維の観察	第48回日本電子顕微鏡学会学術講演会、千葉
206.	伊与木増喜、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.06	走査電子顕微鏡による胃癌間質の膠原線維の立体構築の研究	第48回日本電子顕微鏡学会学術講演会、千葉
207.	並川 努、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、川崎博之、小林道也、杉藤正典、高野 篤、吉川 健	1992.07	巨大なリンパ節転移を伴った破裂性肝細胞癌の一治験例	第40回日本消化器外科学会定期学術総会、横浜
208.	小林道也、緒方卓郎、金子 昭、川崎博之、久礼三子雄、阿部哲朗、並川 努、直木一朗、松浦喜美夫、荒木京二郎、川村達夫	1992.09	胃転移を来した炎症性乳癌の1例	第5回中国四国乳腺研究会、岡山
209.	荒木京二郎、久礼三子雄、小林道也、計田一法、古屋泰雄、松浦喜美夫、緒方卓郎	1992.09	大腸ポリポーシス腺腫の基底膜面から見た腺管構造	第24回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山

学 会 発 表

210.	荒木京二郎、小林道也、阿部哲朗、森田雅夫、金子 昭、浜田伸一、緒方卓郎	1992.09	胆嚢コレステロールポリープ基底膜の走査電子顕微鏡的観察	第24回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
211.	荒木京二郎、小林道也、伊与木増喜、川崎博之、北川尚史、杉藤正典、緒方卓郎	1992.09	ヒト大腸粘膜基底膜の走査電子顕微鏡的観察	第24回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
212.	伊与木増喜、荒木京二郎、古屋泰夫、森田雅夫、阿部哲朗、川崎博之、緒方卓郎	1992.09	走査電子顕微鏡による胃癌間質の膠原繊維の立体構築の研究	第24回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
213.	荒木京二郎、緒方卓郎、小林道也、川崎博之、北川尚史、松浦喜美夫	1992.09	術中限局性動注化学療法 of 検討 (第一報)	第30回日本癌治療学会総会学術集会、東京
214.	大海研二郎、遠近直成、小林道也、松浦喜美夫、金子 昭、久礼三子雄、浜田伸一、森田雅夫、奥宮一 矢、吉本 忠、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	粘液産生膵膿瘍の3例	第45回高知県医師会医学会、高知
215.	泉山史貴、松浦喜美夫、北川尚史、高野 篤、間島國博、計田一法、松嶋政規、阿部哲朗、小濱祥均、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	小児横隔弛緩症の2手術例	第45回高知県医師会医学会、高知
216.	西谷周作、並川 努、杉藤正典、金子 昭、川崎博之、小林道也、高野 篤、吉川 健、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	巨大なリンパ節転移を伴った破裂性肝細胞癌の1 治験例	第45回高知県医師会医学会、高知
217.	佐藤謙一郎、田村 智、末永謙介、紀野純子、宮田 彰、小野寺真智、佐野修一、西岡隆見、寿美貴守、松本浩利、北島裕慎、高橋佳伸、山崎一明、門脇 徹、横山雄一、中澤慶彦、岡崎和一、山本泰朗、山本泰猛、柏井英助、計田一法、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	胃潰瘍手術20年後に診断された残胃吻合部 b型早期胃癌の1 例 - 魚骨の穿通による肝膿瘍を合併した希な症例 -	第45回高知県医師会医学会、高知
218.	金子 昭、松浦喜美夫、奥宮一矢、小林道也、山本 拓、松嶋政規、森田雅夫、荒木京二郎、緒方卓郎、澤田章宏、猪俣泰典、小川恭弘	1992.10	大腸癌の術中照射療法	第67回中国四国外科学会、高知
219.	浜田伸一、川崎博之、直木一朗、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	総胆管末端部の完全閉塞を来した良性胆道狭窄の1 例	第67回中国四国外科学会、高知
220.	間島國博、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1992.10	若年者の直腸粘膜脱症候群 (Mucosal Prolapse Syndrome) の1 例	第67回中国四国外科学会、高知

学 会 発 表

- | | | | | |
|------|--|---------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 221. | 窪田三郎、窪田 覚、上岡教人、松浦喜美夫、金子 昭、緒方卓郎 | 1992.10 | 成人に発症した神経芽細胞腫の一例 | 第67回中国四国外科学会、高知 |
| 222. | 小林道也、緒方卓郎、山本 拓、氏原孝司、安藤 徹、松浦喜美夫、荒木京二郎、川村達夫 | 1992.11 | 胃転移巣がスキルス様病変を呈した炎症性乳癌の1例 | 第54回日本臨床外科医学会総会、東京 |
| 223. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、高野 篤、松嶋政規、大海研二郎、円山英昭、北川中行 | 1992.11 | 肝細胞腺腫の1例 | 第9回四国肝癌研究会、高松 |
| 224. | 小濱祥均、松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、計田一法、金子 昭、横山和可子、倉繁隆 | 1993.04 | 高知県の神経芽細胞腫マス・スクリーニングにより発見された最初の症例について | 第34回中国四国小児がん研究会、岡山 |
| 225. | 緒方卓郎、山崎裕一 | 1993.05 | UHRSEMによるラット壁細胞膜系の観察 | 第49回日本電子顕微鏡学会学術講演会、神戸 |
| 226. | 久礼三子雄、川崎博之、浜田伸一、金子 昭、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎 | 1993.07 | 食道静脈瘤の硬化療法単独とHassab手術併用治療の比較 | 第16回食道静脈瘤硬化療法研究会・第26回日本門脈圧亢進症研究会、金沢 |
| 227. | 松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭、川崎博之、小林道也、杉藤正典、浜田伸一、尾形雅彦、河合秀二、奥宮一矢、小浜祥均、間島國博、吉田祥二、猪俣泰典 | 1993.07 | 大腸癌の術中照射療法 | 第42回日本消化器外科学会定期学術総会、大阪 |
| 228. | 小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、杉藤正典、高野 篤、大海研二郎 | 1993.07 | 肝細胞腺腫の1例 | 第42回日本消化器外科学会定期学術総会、大阪 |
| 229. | 荒木京二郎、小林道也、伊与木増喜、杉藤正典、金子 昭、緒方卓郎 | 1993.09 | ヒト結腸基底膜小孔の走査電子顕微鏡的観察 | 第25回臨床電子顕微鏡学会学術集会、松本 |
| 230. | 荒木京二郎、小林道也、山本 拓、森田雅夫、松浦喜美夫、緒方卓郎 | 1993.09 | ヒト大腸腺腫の腺管構造についての検討 | 第25回臨床電子顕微鏡学会学術集会、松本 |
| 231. | 荒木京二郎、緒方卓郎、小林道也、山本 拓、杉藤正典 | 1993.10 | 術中限局性動注化学療法の研究(第二報) | 第31回日本癌治療学会総会学術集会、大阪 |
| 232. | 北川尚史、荒木京二郎、緒方卓郎、金子 昭、川崎博之、阿部哲朗、計田一法、高野 篤 | 1993.10 | 胃全摘後の簡便な代用胃の作成法 | 第46回高知県医師会医学会、高知 |
| 233. | 駄場中研、緒方卓郎、荒木京二郎、森田雅夫、浜田伸一、金子 昭、松浦喜美夫 | 1993.10 | 胃癌治療におけるIORTの有効性 | 第46回高知県医師会医学会、高知 |

学 会 発 表

234.	小林昭広、緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭、白石哲夫、小林道也、河合秀二、久礼三子雄、松浦喜美夫	1993.10	若年者早期胃癌の1 治験例	第46回高知県医師会医学会、高知
235.	谷口 寛、緒方卓郎、松浦喜美夫、川崎博之、荒木京二郎、金子 昭、尾形雅彦、森田雅夫、計田一法	1993.10	術後7年以上経過した小児甲状腺癌の2例	第46回高知県医師会医学会、高知
236.	小林道也、荒木京二郎、松浦喜美夫、川崎博之、金子 昭、緒方卓郎	1994.03	進行胃癌に対する術中照射療法 - 新しい試み -	第94回日本外科学会定期学術集会、東京
237.	安藤 徹、松浦喜美夫、金子 昭、小林道也、直木一朗、荒木京二郎、緒方卓郎、久 直史	1994.04	肝の inflammatory pseudotumor の一例	第35回中国四国小児がん研究会、広島
238.	緒方卓郎、山崎裕一	1994.05	超高分解能SEMによるヒトの骨格筋の系粒体、筋小胞体の観察	第50回日本電子顕微鏡学会学術講演会、東京
239.	小林道也、緒方卓郎、荒木京二郎、河合秀二、松浦喜美夫、白石哲夫、川崎博之、山本 拓、田村精平	1994.05	食道原発腺扁平上皮癌の1 例	第61回日本消化器病中国四国支部例会、岡山
240.	河合秀二、小林道也、荒木京二郎、川崎博之、金子 昭、浜田伸一、尾形雅彦、山本 拓、松浦喜美夫、緒方卓郎	1994.05	有茎性胃外性発育を呈した胃平滑筋肉腫の1 例	第61回日本消化器病中国四国支部例会、岡山
241.	小林道也、荒木京二郎、河合秀二、松浦喜美夫、川崎博之、金子 昭、緒方卓郎	1994.07	術後3年目に多発性骨・脳転移を形成した早期胃癌の1 例	第63回胃癌研究会、浜松
242.	尾形雅彦、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、金子 昭、中村生也、小濱祥均、緒方卓郎	1994.08	胃癌術中照射療法（IORT）の検討	第47回高知県医師会医学会、高知
243.	山本 拓、荒木京二郎、川崎博之、古屋泰雄、安藤 徹、並川 努、直木一朗、緒方卓郎	1994.08	進行胃癌の術中限局動注（AI）化学療法の基礎的実験と治療成績	第47回高知県医師会医学会、高知
244.	筒井哲也、川崎博之、荒木京二郎、浜田伸一、小林道也、杉本健樹、緒方卓郎	1994.08	三系統の腫瘍血管を有する肝外発育型（突出型）肝癌の1 例	第47回高知県医師会医学会、高知
245.	川村達夫、上村政伸、北川中行、緒方卓郎、川崎博之、小林道也	1994.08	胃癌にて胃広範囲切除術施行、術後3年目に残胃内胃石形成を見た1 症例	第47回高知県医師会医学会、高知
246.	中村生也、川崎博之、山本 拓、杉本健樹、尾形雅彦、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.09	肝細胞癌にて拡大右葉切除後、両側肺転移をきたし、集学的治療にて長期生存中の1 例	第69回中国四国外科学会、島根

学 会 発 表

247.	小浜祥均、金子 昭、高野 篤、松岡尚則、並川 努、古屋泰雄、筒井哲也、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.09	骨盤内を占拠したliposarcomaの1例	第69回中国四国外科学会、島根
248.	山本真也、小林道也、浜田伸一、直木一朗、安藤 徹、計田一法、久礼三子雄、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.09	肝嚢胞腺腫の1例	第69回中国四国外科学会、島根
249.	久礼三子雄、荒木京二郎、川崎博之、小林道也、伊与木増喜、松浦喜美夫、緒方卓郎	1994.10	コラーゲン線維の走査トンネル顕微鏡による観察	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、高知
250.	計田一法、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、古屋泰雄、並川 努、山崎裕一	1994.10	免疫組織化学法によるマウス骨格筋におけるミオグロビンの局在	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、高知
251.	古屋泰雄、荒木京二郎、伊与木増喜、金子 昭、杉本健樹、緒方卓郎	1994.10	走査電子顕微鏡によるヒト胃粘膜の腺管構造の検討	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、高知
252.	安藤 徹、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、川崎博之、並川 努、山崎裕一	1994.10	セリウムを指標としたラット胃壁細胞の塩酸分泌機能の超微形態学的検討	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、高知
253.	並川 努、緒方卓郎、荒木京二郎、小林道也、計田一法、安藤 徹、直木一朗、山崎裕一	1994.10	胃壁細胞におけるアクチンの免疫組織化学的検討	第26回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、高知
254.	山本真也、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.10	小児甲状腺癌の3例	第33回日本小児外科学会中国四国地方会、高知
255.	安藤 徹、松浦喜美夫、金子 昭、小浜祥均、直木一朗、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.10	当科における超未熟児、極小未熟児の治療経験	第33回日本小児外科学会中国四国地方会、高知
256.	山本真也、小林道也、浜田伸一、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1994.11	C E A 高値を示した虫垂粘液嚢腫の1例	第62回日本消化器病学会中国四国支部例会、高松
257.	計田一法、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、金子 昭、小林道也、並川 努	1995.01	低位筋間痔瘻に対する内括約筋温存術式	第50回日本大腸肛門病学会学術集会
258.	浜田伸一、尾形雅彦、川崎博之、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1995.02	空腸間膜由来の神経鞘腫の1例	第45回日本消化器外科学会定期学術総会、横浜
259.	小林昭広、矢島靖己、北村龍彦、近森正幸、緒方卓郎	1995.03	腸間膜血腫にて発症した結節性多発動脈炎(PN)の一例	第24回日本腹部救急医学会総会、前橋
260.	松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、金子 昭、山本真也、直木一朗、安藤 徹	1995.04	小児甲状腺癌の3例	第36回中国四国小児がん研究会、広島

学 会 発 表

261.	筒井哲也、松浦喜美夫、金子 昭、小浜祥均、安藤 徹、直木一朗、谷口 寛、緒方卓郎	1995.05	異常裂孔ヘルニアの2例	第32回日本小児外科学会学術集会、横浜
262.	緒方卓郎、山崎裕一	1995.05	超高分解能走査電子顕微鏡による蛙壁細胞膜系の観察	第51回日本電子顕微鏡学会学術講演会、堺
263.	山本真也、荒木京二郎、小林道也、松浦喜美夫、緒方卓郎	1995.07	乳頭部腺腫内癌の1例	第46回日本消化器外科学会定期学術総会、福井
264.	松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭、小林道也、別府 敬、並川 努、谷口寛、杉本健樹、古屋泰雄、駄場中研	1995.08	腹腔鏡下手術の合併症予防の工夫 - ヘリカルCTによる3D画像、腹腔鏡超音波検査 -	第48回高知県医師会医学会、高知
265.	秋森豊一、杉本健樹、高野 篤、松浦喜美夫、計田一法、荒木京二郎、緒方卓郎、円山英昭	1995.08	坐骨直腸窩類上皮肉腫の1例	第48回高知県医師会医学会、高知
266.	柏井英助、小林道也、中村生也、山本 拓、直木一朗、安藤 徹、荒木京二郎、緒方卓郎	1995.08	腹腔内出血を来した出血性臍仮性嚢胞の2例	第48回高知県医師会医学会、高知
267.	安藤 徹、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、並川 努、直木一朗、山崎裕一、緒方卓郎	1995.09	ラット胃壁細胞の塩酸分泌機能の超微形態学的検討	第27回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
268.	直木一朗、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、並川 努、安藤 徹、山崎裕一、緒方卓郎	1995.09	ラット胃壁細胞における酸分泌に関連した超微形態学的検討	第27回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
269.	並川 努、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道也、直木一朗、安藤 徹、山崎裕一、緒方卓郎	1995.09	胃壁細胞におけるエズリンの局在に関する免疫電子顕微鏡学的検討	第27回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
270.	谷口 寛、荒木京二郎、松浦喜美夫、古屋泰雄、緒方卓郎	1995.09	走査電子顕微鏡によるマウスの腸管神経の観察 - 先天性無神経節マウスとの比較 -	第27回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、岡山
271.	松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎、金子昭、高野 篤、直木一朗、安藤 徹、谷口寛、石浦嘉人、藤枝幹也、脇口広、倉繁隆信	1995.10	十二指腸過誤腫の1例	第34回日本小児外科学会中国四国地方会、岡山
272.	高野 篤、杉本健樹、秋森豊一、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎、脇口 宏、倉繁隆信	1995.10	内視鏡的に切除し得た巨大若年性ポリープの1例	第48回日本小児外科学会高知地方会、高知
273.	杉本健樹、松浦喜美夫、高野 篤、秋森豊一、荒木京二郎、緒方卓郎	1995.10	クローン病腸管膀胱瘻の1例	第70回中国四国外科学会、岡山

学 会 発 表

274.	中村生也、小林道也、柏井英助、松浦喜美夫、 荒木京二郎、緒方卓郎	1995.10	十二指腸及び総胆管に穿破した粘液産生膵腫瘍の一切除例	第70回中国四国外科学会、岡山
275.	緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道 也、並川 努、直木一朗、安藤 徹	1995.11	Tetragastrin刺激後の胃の壁細胞の膜系の変化の走査電子顕微鏡 的研究	第37回日本消化器病学会大会、名古屋
276.	緒方卓郎、尾形雅彦	1995.11	Helicobacter pylori の消化管粘膜障害の電子顕微鏡的研究	第37回日本消化器病学会大会、名古屋
277.	並川 努、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美 夫、金子 昭、小林道也、直木一朗、安藤 徹	1995.11	胃壁細胞の細胞骨格に関する免疫組織化学的検討	第37回日本消化器病学会大会、名古屋
278.	安藤 徹、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道 也、並川 努、直木一朗、緒方卓郎	1995.11	ラット胃壁細胞の塩酸分泌機能の超微形態学的検討	第37回日本消化器病学会大会、名古屋
279.	杉本健樹、荒木京二郎、小林道也、高野 篤、 秋森豊一、柏井英助、中村生也、松浦喜美夫、 緒方卓郎	1996.02	腹腔内出血を来した膵仮性嚢胞の2例	第47回日本消化器外科学会定期学術 総会、大阪
280.	耕崎拓大、東谷芳史、西森 功、秋澤洋介、大 崎純子、末永謙介、佐野修一、横山雄一、森田 雅範、大西三朗、小林道也、荒木京二郎、緒方	1996.02	総胆管穿破を認めた粘液産生膵癌の1例	第73回日本消化器内視鏡学会中国四 国地方会、山口
281.	緒方卓郎、尾形雅彦、山崎裕一	1996.05	Helicobacter pylori の粘液細胞障害の電子顕微鏡的研究	第52回日本電子顕微鏡学会学術講演 会、東京
282.	杉本健樹、高野 篤、秋森豊一、松浦喜美夫、 金子 昭、小林道也、別府 敬、氏原孝司、柏 井英助、荒木京二郎、緒方卓郎	1996.07	腸管膀胱瘻の3例	第48回日本消化器外科学会定期学術 総会、東京
283.	緒方卓郎、尾形雅彦、山崎裕一	1996.10	Helicobacter pylori の粘膜細胞障害の電子顕微鏡的研究	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術 集会、シンポジウム、大阪
284.	並川 努、荒木京二郎、松浦喜美夫、小林道 也、尾形雅彦、直木一朗、安藤 徹、小林昭 広、山崎裕一、緒方卓郎	1996.10	胃酸分泌機構におけるアクチン及びサイトケラチンの関与	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術 集会、大阪
285.	小林昭広、緒方卓郎、荒木京二郎、松浦喜美 夫、別府 敬、直木一朗	1996.10	ヒト胃壁細胞の塩酸分泌機能の超微形態学的検討	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術 集会、大阪
286.	駄場中研、荒木京二郎、古屋泰雄、緒方卓郎	1996.10	ヒト食道の上皮と間質接面の走査電子顕微鏡による観察	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術 集会、大阪

学 会 発 表

287. 谷口 寛、古屋泰雄、松浦喜美夫、荒木京二郎、緒方卓郎	1996.10	走査電子顕微鏡によるマウスとヒトの先天性無神経腸管の観察	第28回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、大阪
288. 緒方卓郎	1997.05	胃・十二指腸潰瘍の発生治癒機転の電子顕微鏡的研究、とくにH.pyloriとの関連について	第14回四国消化性潰瘍研究会、
289. 山崎裕一、緒方卓郎	1997.05	超高分解能SEMによるラット心筋細胞の筋小胞体の観察	第53回日本電子顕微鏡学会学術講演会、尼崎
290. 山崎裕一、古屋泰雄、荒木京二郎、氏原孝司、松浦喜美夫、小林道也、緒方卓郎	1997.10	ラット心房筋の筋小胞体の高分解能SEM観察	第29回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、札幌
291. 宮田素子、山崎裕一、古屋泰雄、小林道也、駄場中研、松浦喜美夫、緒方卓郎、荒木京二郎	1997.10	塩酸処理した腸筋間神経叢の免疫組織染色	第29回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、札幌
292. 緒方卓郎、山崎裕一	1998.05	高分解能SEMによる高浸透圧固定液により固定したラット壁細胞膜系の観察	第54回日本電子顕微鏡学会学術講演会、仙台
293. 緒方卓郎、山崎裕一	1998.09	超高分解能SEMによるヒト骨格筋繊維型 (Fiber type) の糸粒体、筋小胞体の立体構造の観察	第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、東京
294. 緒方卓郎、山崎裕一、古屋泰雄、宮田素子、荒木京二郎	1999.11	超高分解能走査電子顕微鏡によるラット胃壁細胞膜系の観察	第31回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、東京
295. 緒方卓郎	2000.03	ラットの胃の壁細胞膜系の走査電子顕微鏡的観察	第105回日本解剖学会全国学術集会、横浜
296. 緒方卓郎	2000.03	筋繊維形成の多様性と可塑性筋繊維型の形態学的特徴	第105回日本解剖学会全国学術集会、横浜
297. 緒方卓郎	2001.04	ラットの刷子細胞 (Tuft cell) と魚のえらの塩類細胞 (Chloride cell) の構造と細胞化学的特性は類似している	第106回日本解剖学会全国学術集会、高知
298. 古屋泰雄、荒木京二郎、緒方卓郎、小林道也	2004.11	消化管腫瘍の三次元構造の解析	第36回日本臨床電子顕微鏡学会学術集会、セミナー「病気の形態学 消化器」、熊本

指導学位論文

1. 田村精平	1985	総胆管結紮とその閉塞解除後の肝の微細構造の変化に関する実験的研究	岡山医学会雑誌 97:623-647	岡山大学 博乙第1589号
2. 臼井 隆	1985	家兎およびヒトリンパ節の微細血管構築の走査電子顕微鏡的研究	岡山医学会雑誌 97:889-912	岡山大学 博乙第1622号
3. 公文正光	1985	肝鋳型標本とその臨床応用 -シリコンゴムを用いた肝鋳型標本の作製法-	岡山医学会雑誌 97:1029-1034	岡山大学 博乙第1642号
4. 川村明廣	1987	膵組織の治癒過程に関する研究、第1編：膵切断端の治癒過程、第2編：膵切断端における線房細胞再生過程の電子顕微鏡的観察	大阪医科大学雑誌 45:60-93	大阪医科大学 第421号
5. Kobayashi M	1988	The irradiation effects on the cytoskeletons of C3H/He mouse mammary tumor cells and vascular basement membrane in relation to vascular invasion: A model of intraoperative	Tohoku J Exp Med 154:71-89	岡山大学 博甲15号
6. Hashimoto S, Ogata T	1988	Blood vascular organization of the human appendix: A scanning electron microscopic study of corrosion cast	Tohoku J Exp Med 154:271-285	高知医科大学 医博甲第14号
7. Sugimoto T, Ogata T	1989	Scanning electron microscopic studies on the subepithelial tissue of the gastrointestinal mucosa of the rat	Arch Histol Cytol 52:257-265	高知医科大学 医博甲38号
8. 金子 昭、山下邦康、緒方卓郎	1991	圧控式無縫合器AKA-2による腸管吻合の実験的研究	日本消化器外科学会雑誌 24:73-80	高知医科大学 医博乙第55号
9. 北川尚史、荒木京二郎、緒方卓郎	1992	超音波内視鏡像の計測による胃癌の深達度診断	Gastroenterol Endoscopy 34:495-506	高知医科大学 医博乙第68号
10. Kawasaki H, Ogata T	1992	Scanning electron microscopic study on the three-dimensional structure of the collagen fibrillar framework in the chronic active hepatitis and liver cirrhosis	Tohoku J Exp Med 166:355-373	高知医科大学 医博乙第74号
11. Furuya Y, Ogata T	1993	Scanning electron microscopic study of the collagen networks of the normal mucosa, hyperplastic polyps, tubular adenoma, and adenocarcinoma of the human large intestine	Tohoku J Exp Med 169:1-19	高知医科大学 医博甲121号
12. Yoshikawa K, Ogata T, Kobayashi M, Araki K	1994	Scanning electron microscopy study on the microvasculature of the human gallbladder	Dokkyo J Med Sci 21:45-52	高知医科大学 医博甲123号

指導学位論文

13. Iyoki M, Araki K, Ogata T	1994	Scanning electron microscopic study of the three-dimensional structure of the collagen networks of gastric cancer	Scanning Microscopy 8:365-374	高知医科大学 医博乙第134号
14. Morita M, Ogata T, Araki K	1994	Scanning electron microscopic study of the collagen sheath of the human thyroid gland and its disorders	Scanning Microscopy 8:695-704	高知医科大学 医博甲141号
15. Kure M, Araki K, Ogata T	1995	Scanning tunneling microscopic study of osmium-impregnated collagen	J Electron Microsc 44:207-211	高知医科大学 医博乙第151号
16. Yamanaka Y, Araki K, Ogata T	1995	Three-dimensional organization of lymphatics in the dog small intestine: A scanning electron microscopic study on corrosion casts	Arch Histol Cytol 58:465-474	高知医科大学 医博乙第148号
17. Sugito M, Araki K, Ogata T	1996	Three-dimensional organization of lymphatics in the dog stomach: A scanning electron microscopic study of corrosion casts	Arch Histol Cytol 59:61-70	高知医科大学 医博乙第153号
18. 山本 拓、緒方卓郎、荒木京二郎	1996	術中局所動注化学療法 (ILIC) の抗腫瘍効果についての実験的研究	日本癌治療学会誌 31:143-151	高知医科大学 医博甲156号
19. 安藤 徹、荒木京二郎、小林道也、小林昭広、緒方卓郎	1997	休止状態およびテトラガストリン刺激後におけるラット胃壁細胞の H ⁺ -K ⁺ ATPase の免疫細胞化学的ならびに酵素細胞化学的研究	日本臨床電子顕微鏡学会 雑誌 30:67-77	高知医科大学 医博甲176号
20. Kobayashi A, Araki K, Ando T, Ogata T	1997	An immuno- and enzyme cytochemical study of the H ⁺ -K ⁺ ATPase in human parietal cells after administration of tetragastrin and omeprazole	Arch Histol Cytol 60:205-214	高知医科大学 医博甲181号
21. Ogata M, Araki K, Ogata T	1998	An electron microscopic study of Helicobacter pylori in the surface mucous gel layer	Histol Histopathol 13:347-358	高知医科大学 医博乙181号
22. Namikawa T, Araki K, Ogata T	1998	Localization of cytoskeletal filaments during membrane rearrangement in rat parietal cells stimulated with gastrin	Arch Histol Cytol 61:47-56	高知医科大学 医博甲202号
23. Naoki I, Araki K, Kobayashi A, Yamasaki Y, Ogata T	1998	Electron cytochemical observations on membrane redistribution in rat and human parietal cells after maximal	Med Electron Microsc 31:128-134	高知医科大学 医博甲226号

編集後記

はじめに、原稿収集や写真の整理を含めた煩雑な編集作業を迅速かつ着実にこなしていただいた池田さんや山崎さんをはじめとする外科1教室スタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。

高知大学医学部外科学講座外科1教室の礎を築かれた緒方先生がこれまで果たしてこられた偉大な功績と弛まない努力に敬意を表するために、年報とは別立てにして追悼誌を単独に作成させていただきました。教室の総力を結集して作成された開講30周年記念誌が発行された直後の編集作業だったため、困難が予想されましたが、大きな支障もなく無事発刊されたことは皆様のご協力の賜物と有難く思っています。

緒方卓郎先生の追悼誌を拝読しながら、故人のお人柄が偲ばれる、多くの皆様のご好意がたくさん詰まった追悼誌だと感じていただけたら幸いです。また教授室には私が緒方先生にお願いして一緒に撮らせていただいた写真も飾ってあります。皆様が教室にお立ち寄りの際は是非ご覧下さい。

甲辞でも述べさせていただきましたが、緒方先生の私への伝言は「とにかく教室員を大事にして欲しい」の一言でした。緒方先生が多くのお弟子さんにいつまでも慕われているのはご本人がそのことを実践して来られたからに違いありません。

最近私が知ったエピソードですが、緒方先生はご家族の前で「うち(外科1)はどうじゃ？」と当教室の現状や評判を絶えず気にされていたようです。私たちは生前の緒方先生のこうした教室に対する熱い思いにしっかり応えていくためにも、これまで以上に教室および同門会が一致団結して高知県の外科医療発展のための努力を怠らないようにしなくてはなりません。

天国の緒方先生、これからもどうか高知大学外科1教室の行く末をお守りください。私どもはいつか緒方先生のご期待に少しでも沿えるような立派な外科学教室を作り上げることをここにお誓い申し上げます。

花 崎 和 弘

緒方卓郎先生 追悼誌

発行者 高知大学医学部外科学講座外科1
花崎和弘
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371

発行 2008年(平成20年)9月

印刷 (株)伸光堂